

か彼方のジエー・ビー・モルガンであるとさへ稱せられてゐた程に、流石の親英派頭領を以つて鳴る米財閥も相當な思慮を必要としたのである。

米國自身の立場からすればやはり英伊二國が深刻に對立する程度が望ましく、二十年前の苦い經驗もあり、その英伊に本格的な砲火を交へさせてしまつて餘り都合な事ばかり起きなくなる譯であり、このやうな心理状態は刻々に十重二十重と豫防壁を張りめぐらせてゐる米國中立法それ自體の肥り工合が誠によく物語つてゐるやうである。

或ひは又昭和八年以來ハル外相を矢面に立てたルーズヴェルト政権の所謂自由通商主義復舊を根本とする世界平和確保運動の行く手を頑として遮つてゐた英吉利現政府が、恰も獨伊諸國の所謂持たざる者同志の提携緊密化に脅かされた善後策でもあるかのやうに、俄然從來固執した自説を擲ち關稅引き下げを表面上の主眼とする英米互惠通商協定を容認したと傳へられ、時節柄愈々英米提携は強化さるべき大勢に在りと評せられてゐる。

去る十月五日シカゴに於いて行はれたルーズヴェルト大統領の所謂積極平和演説を、拍手歡迎した以上に英吉利朝野一部の人々が熱狂する程その互惠通商なるものゝ取り極めによつて、果して英米の友好關係が利害を超越して眞實に強化され得るものであらうか、多大の疑念なきを得ないやうである。

例へ一部のせよチェムバレン英首相の政治的生命とさへ云はれてゐる保護貿易主義を敢へて切り崩し、而も自治領各國から沸き上る對英不滿の動きを豫期し乍ら敢へて過去五年間に互り自由貿易

主義信奉のハル米外相の互惠通商てふ世界行脚を途中で阻止してゐたにも拘はらず、一變して寧ろ逆とその英吉利側から進んで米國との提携を要求するに至つた事こそは經濟的よりも政治的理由に基づくものに外ならない。

それに反し米國側特に農民層をより多くの支柱とする民主黨の米國現政府として見れば、國內に山積する農業問題解決の一助とすべく専ら經濟的要求に基づいたものであり、即ち英吉利側の政治的意圖に對し米國側の經濟的所存と云ふやうに、傳へられる處の英米提携強化の立脚點は英米それ〴〵根本的に相異なる土臺の上に置かれて居るもので、この一例を以つてしても最早今日の英米は眞から提携して國際二人三脚競技の理想的選手に非ざる事を明瞭に表はしてゐると言ふ事が出来る。

先頃の英米互惠通商協定が傳へられる通り經濟的なものであるならば必然に、逸早く濠洲聯邦政府當局がそれに對して釘を打つたやうに英吉利島に對し米國農産品と同種類のものに従來引つゞき供給してゐる英聯邦内の各自治領諸國が既得權の擁護を高調して倫敦政府へ詰め寄るに相違なく、單に英吉利自身の都合がそうしたいからとて背後の自治領諸國との抜き差しならぬ因縁をその儘にして獨り對米提携強化のよい氣持ちには浸れぬ筈である。

然るにその英吉利國內に於いてすら一度英米互惠通商協定の報傳はるや各種の反對が勃起し、「英吉利國內の農牧産業又は英自治領諸國産業の何れにも何らの犠牲を強ひる事なくして外國（即ち米國を指す）との通商協定が相互に圓滿な結果を齎らし得る位ひならば今更オツタワ協定の再検討など、

云ふ叫びを聞かなくとも済んだ筈ではないか」と嘆ずる聲も相當に高められてゐる。

但し米國側としては前述のやうに廣く世界各國との通商協定による經濟的平和を目標として進んでゐる爲めに、強ち英吉利のみを接渉相手國に選んでゐる譯ではなく、實は多くの交渉對象諸國中でのやゝ大きい相手の一人として英吉利と接渉してゐる感じなのである。従つて米國當局は英吉利のみに止まらず英聯邦内の各國とも個別的に、相互關稅の引き下げ交渉を進める手順となつてゐる。

茲に帝國屋の老舗英吉利本國が、それだけでなくとも本國の意志を第一には尊重しなくなつた各自治領諸國と米國との間に挟まれ窮境を全く脱し得ない惱みを持つてゐるのである。

一方、經濟工作により國際平和を再建せんとする理想は兎も角としても、米國の對英通商協定を一歩進める事は現實に米國農民へ利益を齎らすに相違なく、農民層から多大の支持を受けてゐる民主黨のルーズヴェルト政權として見逃す事の出来ない工作の一つである。

そして英吉利島と云ふ人口密集の大消費地こそは米國農産品の機會あらば進出せんとする好市場であるのは云ふまでもないが、その英吉利は近來とりわけオツタワ會議以來二重にも三重にも各自治領農産品の獨占的市場たるの餘儀ない破目に追ひ込められて居り、それにも拘はらず自治領諸國とすれば現情に満足しきれず自己農産品を英吉利に於いて極力消費を増加せしむるやう、時節柄注目的となり易い英聯邦國防問題と結びつけて英吉利當局へ迫つてゐる有様である。

従つて尋常の話では自治領諸國からの輸入を減じその換りに米國側から新に供給を受けると云ふ譯

にはゆきかねる英吉利なのであり、比較的各自治領との關係が薄い綿花を新規に米國から輸入するとなれば、既に英吉利と前世紀以來の相互取引關係に在る埃及が承知せず印度をも刺戟せずには置かないのである。

即ち今日の國際的難境に在る英吉利として地中海問題に對し伊太利封鎖政策を以つて臨む以上、その東部要地に横たはる埃及國との緊密さを必要とする事は益々痛切なものがあつて、又ランカシアが印度綿花の引取量を今更減少し而も新に米國綿の消費増大を計るやうな動きが萬一起きるとすれば、それだけでなくとも印度内地に機業自足の氣運があるものを強制的に奨勵するやうな皮肉な因果關係を展開せずには置かないであらう。

且つ又濠洲聯邦國や新西蘭國現在に於ける繁榮は専らその農牧生産品價格の昂騰に依存して居るのであり、尙近來漸く英吉利本國から一朝非常時に際し、充分に看護されきれなくなつてゐる趨勢に直面し、その二つが有力な因子となり、次第に濠洲聯邦國の地理的自然に即した獨自な歩みを試みるやうになり、則ち英米二大國を握手せしむる南太平洋上の理想境と自讃しつゝ、濠洲は今や英吉利本國のみならず米國よりも同時に支援を確保せんものと努力を拂ひつゝあるやうである。

カナダ聯邦國は英聯邦を構成する各國に接すると同時に大隣米國の存在を考慮せねばならない特殊な地位に在り、而も農産品の市場價格のみならず産金價格の高低にも重大な利害を鋭敏に感ずる現情に直面させられてゐる。即ち米國は貿易業者及び生産業者に緊密な關係を有する世界の金問題の將來

を統禦せんとする大勢を示して居る事とて、尙更カナダ國がそのやうな強大米國と同一の歩調を保たうとする事は當然であり、最早成育しきつたカナダとしてカナダ人の爲めのカナダと云ふ意識が折柄の英米互惠通商問題に對しても種々具態化される可能性が強まりつゝある。

又現今の英聯邦内各國を通じ最も英帝國主義思想の強固なと評せられてゐる南阿聯邦國ですらも經濟的には農産品よりは寧ろ産金價格の高低及びその前途を第一に重要視して居り、この點多分に倫敦よりはニューヨークへの關心が強ひ南阿聯邦の對米依存性は決して看過され得ないのである。

然るに現在では例へ各自治領諸國が英吉利本國に對し親子である關係から兄弟にも勝る全く對等の關係に昇格したとは云へ、未だ政治的にも經濟的にも對英依存第一を實力により兎に角もオツタワ協定と稱する英帝國型を保持してゐる有様であるが、既に從來でさへ不滿の叫びに溢れてゐる英聯邦内の互惠通商協定として、若し世上傳へられる英米互惠通商協定の成立により不利な場面を實現するとすれば、濠洲・カナダ・南阿・南ローデシア・新西蘭の英自治領諸國は恰も堰かれた堤のさける奔流の如く各自現今の地勢實力に基いてそれ／＼最善の地歩を開拓せんとするやうになる事は必然であり、而も彼等自治領各國は經濟的に對米本位主義に轉換して利益を得る程度は、決して從來の對英第一政策に比較し勝るとも劣らぬものであると云ふ見通しさへも刻々に明瞭化されつゝある近狀である。

今日までの所謂英帝國主義者達は常に、英帝國内の特に英吉利本國と各自治領との結束及びそれへ加ふるに對米提携の強化策とを以つて世界統禦の金科玉條となして來たのであつた。處が時勢の推移

は皮肉にも彼等を進退兩難に墮し入れ、英帝國内の結束強調と英米提携の強化とは如何にしても兩全し難い現實を天下に公表しつゝある。

即ち互惠通商協定の内交渉進行と云ふ形態を以つて表はされた英米提携の強化策こそ、英吉利側としては政治的に米國へ所謂「英聯邦」のひさしだけを貸す心算かも知れないが、若し倫敦の當局者達が自己近來の神經衰弱振りを忘れそのやうな企てを敢へてするならば、却つて經濟的に、英聯邦てふ主家全體の戸主實權が不知不識の裡に大西洋を横斷しワシントンの方へ移行し書き替へられて了ふかも知れない情勢なのである。

それのみならず經濟的に對印度關係を悪化せしめ、埃及との提携を亂し易いやうな事態を惹起する可能性を多分に含むのが、昨今鳴物はやし入りで喧傳される處の英吉利の對米互惠通商協定が完全に實現する場合に不可避と見られる臺所勘定なのである。

換言すれば英吉利は今日まで躍氣となつて表面を固塗し維持し來たつた大英聯邦てふ屋臺全部と引換へを覺悟せねば、直に緊密な對米提携の強化は望み得ず、然し乍らそのやうな劃期的行動は未だ中部支那地方に於いて、威信云々を口にする英吉利當局として、先づ當分の間、期待は出來ない事柄であらう。

従つて若し英米互惠通商の取極めとなり英米提携の強化振りが、近い將來に大々的に喧傳されるとしても決して問題の核心までも緊密化される事は至難であり、斯る内容を豫め留意せば懸け聲の大き

い英米提携が叫ばれても餘り無意味な配慮や昂奮をせず済むやうになると私は確信する。

上述の問題以上に英米提携強化を進める途中に大障害となつてゐるものこそは例の戦債問題に相違なく、米國側として見ればヤング案やドーズ案と再度までも谷底へ飛び下りた氣持ちで舊戦債の棒引に等しい程大減額を容認してやつたにも拘はらず、その支拂ひさへも現今では既に忘れきつたやうな顔をしてゐると憤慨の念を禁じ得ないのである。

それに反し英吉利側に見ればそれらは聯合國側を強化する爲めに借り入れたものであり、英吉利自身のみ都合や必要で求めた戦債ではないと考へてゐる。

又年月を経過するに従ひ英吉利側の對米戦債に關する解釋の仕方態度も甚だ變形されて來てゐる事は明白で、今更毎年返還する爲めとは云へ巨額な資金を大西洋を一方的に横斷させるやうな處置は、直接に磅弗爲替相場を混亂せしめ強ひては世界の爲替相場を動搖させ國際貿易をあらゆる角度から見ても救ひ難い病的なものとして了ふであらうと云ふ點を先づ何よりも重大視するやうになつて來てゐる。

事が金錢貸借に關する行き懸りである爲めにこの問題の前には、世界殘存の二大民主々義國同志とて同じ英語常用國民仲間とか云ふ程度の強調位ひでは全く影を薄くされて了ひ勝ちなのである。

歐洲大戰以來既に四半世紀を閱みした今日最早全く忘れ去られたやうにも思はれ易いが、當時狂氣の如く策略を繞らせて成立を計つた借款問題の跡始末清算如何こそは、例へ英當局者が下野し英米の

取組みが自由貿易主義者同志と變つても、或ひは又米當局者が下野しお互ひに保護貿易主義を競ひ合ふとしても、それらの部分的變化に超越し英米提携の強化が談ぜられる限り常につき纏ふ因縁の深い懸案たるを失はない。

要するに同じ持てる者と通稱される同志でも、英吉利の持ち物と米國の持ち物と佛蘭西の持ち物とは強ち同一の代物ではなく寧ろそれぞれ形態内容を全く異にしてゐるものなのであり、且つ又それに對應する立場に置かれる所謂持たざる國々も決して全部が同一のものを目標に行動しては居らないのである。

従つて所謂持てる國々であるからとて無條件に頭から英米佛を強ひて一括して考へ大單位に見做して體當りせんとする事は必ずしも孫子の兵法とは合致しないであらう。

而も英米佛が自發的に足並みを綺麗に揃へるであらうと外部からは見受けられ易いやうなもの、三人四脚の行動は愚か二人三脚の進退すら甚だ實行困難な内情をそれ／＼持て餘してゐる有様は以上に互り略述した通りである。

英米佛が彼等自身から率先して離ればなれの三本の矢を一括となし以つてその合成力の強さを行使しようとするのなら話は別でもあらうが、吾が方から敢へて彼等に三矢を一括するやうに奨めて強固なものにしてやつてからそれに對抗する必要は絶対にない筈である。

即ち英吉利には英吉利本來の都合があり、米國には米國自身としての立場があり、佛蘭西には佛蘭

西としての行き懸りを幾多持つて居るものであり、相手を見て法を説け、等と極言するやうな事は差控へるが、やはり吾が日本としては飽くまでも彼等個別的な立場や、それらの國內情勢の相違をよく呑み込んで行動する事こそ効果的であり最善の途であらうと思ふ。

下世話に云ふ、よく吠へる犬は概して餘り強い犬ではないと。

近來しきりと傳へられる英米佛提携の強化に關する喧傳や懸け聲の類ひ亦然り、但し時局柄吠へられる側の人々も尠らず神經過敏になつてゐると云ふそしりは免れ難いやうでもある。

第五篇

英吉利とアラブ・猶太問題

英吉利政界に於ける猶太人
猶太母國問題と英國の苦境
倫敦のロスチャイルド家
大アラビア再興王と英外交
アラブ諸國を繞る英伊の角逐
英帝國を揺がすアラブ猶太鬭争

一、英吉利政界に於ける猶太人

先頃南阿聯邦のジョハネスバーグに於いて、所謂南阿ゴールドラツシユの五十年祭とかゞ催ふされた。

前世紀の中葉から末期にかけて、和蘭移民の後を追つて阿弗利加大陸の奥地へ殺到した英吉利移民達は、土砂に埋れ晝夜を分たず金鑛を探りダイヤモンドを掘り採つた。すると勿ちにして彼等の野營入殖する背後に、必需日用品を供給し享樂物を整へた店屋が出現した。そしてこの店舗の主人公は自ら額に汗する事なく、日用品や享樂物接待と引換へに莫大な金塊や寶石を手に入れたのである。

酷熱の蠻地に卒先して進入し大自然の壓迫と戦ひ金塊を掘りダイヤモンドを獲たのが本來の英吉利人であり、その背後に機を逸せず店舗を開き自ら手を下さずして莫大な獲物を、彼等現場の勤勞開拓者から體よく吸収したのが即ち英吉利國籍を有する猶太人であつたのである。

この傾向は五十年後の今日に於いても變りはなく、むしろ當初よりは濃厚になつて來たとも云はれてゐる。

英吉利の波止場で猶太人の仲仕を見受けず、倫敦の街並で猶太人の道路人夫は見かけない。けれども日用必需品は云ふに及ばず、凡そありとあらゆる物資の供給は猶太人の掌中に握られてゐるのが現

代英吉利の實相であると評しても過言ではない。

現今英吉利の國籍を持つ……即ち表面上立派な英吉利人である彼等猶太人は幾多の系統を曳いてゐる。そして公けには總數三十萬と算へられてゐるが事實は五十萬を遙に超へてゐるらしい。その内約半數は倫敦を中心にして居り、他は工業都市のマンチエスターやリーズ及びスコツトランドのグラスゴー近在に最も多く居住してゐる。

英吉利では滿二十一歳以上の男女共選舉義務を附與されて居り、従つて若し五十萬の猶太人が英國籍にあるとしたならば尠くとも二十五萬は投票權を持つてゐる割合となる。

英國の代議士は平均して三萬六千の人民代表とされてゐるから、二十五萬の投票には七人の代議士が、妥當の筈であるが然し實際には目下の英國下院に於ける猶太系代議士は妥當數の倍以上十八名を揃へてゐる。

猶太人種は他人種以上に同種族を助け合ふと稱せられるが、それでも七人の代議士を得難い筈なのに何故十八人も當選させる事が出来るのであらうか。

「政治には金が必要である」とは、英吉利に於いてもこのやうに猶太議員の不釣合に多い事によつて實證されてゐる。

尙猶太議員十八名を政派別に見れば、半數の九名が保守黨、二名が國家自由黨、二名が自由黨、残りの五名が勞働黨となつてゐる。そして十八名中の三名は現在の聯合内閣に席を占め、即ち蔽相のサ

イモンと陸相のレスリー・ホーアベリシヤと土木相フリッツ・サーストンとがそれである。

滿洲事變の勃發當時の英國外相レディング卿及び曾つての内相ハーバート・サームエルも英吉利國籍の猶太人である。

彼等の中には己れが猶太血統であると云ふ事を卑下して、猶太色彩を秘してゐる者も可成りにある。但しさうゆふ態度と全く逆に自ら猶太人である事を誇りとしてゐる者も亦相當にある、例へば運輸相から陸相を歴任し今や時めくホーアベリシヤ達はその代表的な人々で、彼の祖先は葡萄牙から英吉利へ移住し又祖先の同族からモロッコの回教國王を出したりしてゐるので寧ろ猶太血統に自負してゐる程である。

又先頃航空次官から土木相に昇任したサーストンの祖先は一説に祇教徒であつたと云ふが、何れにしてもイラクの首都バグダット方面に於ける有力な金融業者であつた事は眞實のやうである。

猶太……金融……と關聯して思ひ出される有名な英吉利のロスチャイルド家は、現在の處境か一人しか代議士を出して居らない。ジェームス・ロスチャイルドで、在野の自由黨に屬してゐる。然し彼は猶太人と云ふよりも、佛蘭西人てふ印象を一般英吉利人に與へてゐるやうである。

英國ロスチャイルド家一門から出した代議士ではライオネル・ロスチャイルドが最も回数を重ね、十三年間連続して下院に議席を占めてゐた。當時彼は極端な王黨員であり、さし當り今日の言葉で評すれば金融的なフアシストらしかつた。

現在の英國ロスチャイルド一族の中では、二十五歳を漸くすぎたヴィクター・ロスチャイルドが英吉利の猶太人種間に最も人氣があるけれど、彼は寧ろ學者肌で實際政治よりも科學の方に専念しつゝある。

英國内で猶太人候補者に最も安全な地盤とされてゐるのは、倫敦の商業中心區域に東隣りするホワイトチャペル區域であらう。

ホワイトチャペルと云へば猶太人街の代名詞にも近く、その方面には問屋業小賣商を初め雑多な猶太人が群り住み、選舉權を持つてゐる猶太人だけでも一萬五千人に近い有様である。

他の選舉區から選出されてゐる猶太人代議士は勿論猶太人同族間の熱烈な後援にもよるが、それ以上所屬政黨のおかげによる處が多いと見なければならぬ。

然し乍らホワイトチャペル區域だけは前述のやうに猶太系選舉民そのものゝ數が壓倒的なので特異な存在とされて居る。現在その地盤から選出されてゐる猶太人代議士バーネット・ジェンナーはウェールズ系の猶太人で辯護士を職とし、前々回は自由黨員として又前回には労働黨員として何の苦戦もなく當選した。

英吉利下院六百十五名中、十八名程の猶太人代議士は決して目ぼしい數とは云へない。けれども英國政府をして反猶太運動のアラブ人抑壓の爲め、二萬からの軍隊を遙々パレスタインへ出動させたのも、實は彼等數の尠い筈の猶太代議士の要求による處が多かつたのである。

前世紀に於いて既に數回に亙り猶太人の首相を出した程の英吉利、實に英吉利は猶太人にとつてパレスタインの親元國だけの値打ちもあり住みよい處に相違ない。

然し凡ゆる産業部門を通じ、例へば石油から煙草、大衆レストランに至るまで猶太人の實力に左右されてゐる英吉利社會にも、反猶太の底流がある事は見逃せない。殊に近來はナチス獨逸及び、それに應じた波蘭等の反猶太政策の餘波もあり、猶太人の家に投石とか、猶太人が毆打されたとか云ふ新聞記事なども數年前に比較するとめつきり増加して來てゐる。

即ち英吉利に於いても猶太人排斥の潮流は漸次下層階級の間にもなぎつて來た。但し決して實質的な損はせぬやうに大事をとる英吉利一般の通有性はかうゆふ點にもよく表はれて居り、獨逸式の果敢な行動が未だ示されないまでの事である。

二、猶太母國問題と英國の苦境

聖地パレスタインを母國として公然復活したいと云ふ望みこそは實に、世界中あらゆる猶太人が二千年の永きに亙り撓ゆまず子々孫々へ、傳へ抱き續けた幻想であつた。

そしてこの猶太民族全體の念願は前世紀以來猶太主義運動の姿を以つて組織された意志表示を行ふやうになり、殊に歐羅巴大戰こそはその運動に決定的な刺戟を與へたのである。即ち一九一七年十一

月勝敗未だ何れとも容易に決しかね特に猶太金融の強力な支持を必要とした聯合國側は、その代償として戰勝後パレスタインに猶太民族の母國を建設復活せしむると云ふ内諾を、英吉利外相から倫敦ロスタイルド卿に言明した。この言質こそは爾後二十年絶へず英國側の痛とされ又猶太側の虎の子とされて來たバルフォア宣言それであり、この行き懸りは世界に有名な事柄となつてゐる。

然し乍聯合國列強中何故にとりわけ英吉利が敢へて猶太母國再建に對し豫約を與へなければならなかつたか、その遠因は餘り世間に知られて居らなかつたのである。

それは歐洲戰亂勃發後間もなく英國軍需當局が、爆薬製造に不可欠な礦物の不足を痛感せしめられたのに初まつてゐる。當時マンチェスター大學の化學部教授を勤めてゐたワイスマン博士は在英二十五年に及ぶロシア系の猶太人であつたが、その缺亡礦物に代用する化學組成の研究に成功した。

當時英國陸相の位置に在つた俊敏なロイドジョージは機會を逸する事なく、ワイスマンに合成礦物法の譲り受けを交渉した。處が彼は一文の權利金すら要求せず、その代り猶太人安住地としてのパレスタイン確立に英國があらゆる盡力を傾倒すると云ふ豫約を希望したのである。何よりも差し當りの缺亡に窮してゐた英吉利當局がワイスマンの遠大な交換條件の是非なぞ、慎重に考慮仕直す餘裕を尠しも持ち合せなかつた事は想像に難くない處である。一方其の後幾何もならずしてワイスマンが、猶太民族統一運動の總指揮者に推擧されるやうになつた事も云ふまでもない。

猶太民族運動の組織はあらゆる國籍の猶太人を網羅して居り、その中央會議は恰も世界議會に等し

く世界中の猶太人代表が集まり、日常の執行機関である議長及び理事者達が彼等によつて選舉されるのである。

この團體は既に公式會員を百萬以上擁して居り、如何なる人種と雖も猶太系統の者はすべて會員となる資格を認められ、尙一個の猶太貨幣さへ所持して居れば中央會議代表の選舉權を行使出来る事となつて居る。

尙猶太貨幣は毎年鑄造され歐洲大戰前まで何處でも一個五十錢程で頒けられたが、現今では流石の猶太章も各國の爲替相場の變化に押され、強ち價格は一定して居らない。英國遊りでも戦前一個一リンが頒附價格とされてゐたそうだが、現在ではその二倍の二シリンに引き上げられてゐる。

猶太民族運動の中央會議は二ヶ年目に一回の割で開催され場所も隨時持ち廻つて居り、先年スキスのルーサンで華やかに取行はれた大會議は實に第十九回目のものであつた。

但しこの猶太民族統一運動組織は決して單一な團體ではなく、五十に餘る各種猶太團體の聯合によつて結成されたのである。

従つてその内部には猶太資本家團體もあり、労働團體もあり又左翼政黨もありファツシストまであると云ふ工合である。この間の情勢は去る昭和八年チエツコソヴァキアのブラーグに於いて開催された第十八回の大會が、その雜多の異分子包括振りを如實に示してゐた。即ち猶太ファツシストの猶太民族運動からの脱退騒ぎがそれで、彼等は猶太運動の渦中に在つて自ら改良主義派と稱へてゐた。

この一派の統令者ヤポティンスキーも、現代猶太運動の大御所となつてゐるワイスマンと同様にロシア系統の猶太人であるが、彼は屢々不法社會運動の廢によりパレスティン當局の刑務所入りをさせられた事もあり、猶太青年の間には没却視し難い勢力を把握してゐる存在である。彼等猶太ファツシヨ黨の第一目標はパレスティン統治權の獲得にあり、就中同地へ殺到する猶太人移民の統制權を如何なる犠牲をも賭して掌握しようとしてゐる。

然し乍らブラーグの猶太民族統一會議に於いても示された通り、未だ猶太人社會に於いては中間派たる猶太民族主義黨が多數を制して居り、左翼の猶太労働黨がそれにつゞき、右翼の猶太ファツシヨ黨は第三黨の域を出でない大勢に在つた。

猶太民族運動の執行機關はパレスティンに於ける移民統制及び土地買入用の猶太國家資金等を初め、幾多の樞要組織を牛耳り指導しつゝある。

大戰後期せずして幾多の猶太人は世界中からパレスティンへ移住を開始し、家屋を建て農耕地を開拓し、工業を勃興せしめた。

且つ又東歐羅巴諸國に於ける猶太壓迫或ひは獨逸の猶太排斥運動は、却つてパレスティンに於ける猶太人の地歩を堅固不拔なものとした。猶太排斥の荒波に押されてパレスティンに殺到した彼等の大部分は、通例の移民と甚だしく素質を異にして居り資本を附隨した移民の事として、猶太人のパレスティンと云ふ主張を強化する絶好の材料となつたのであつた。

殊に獨逸から移住した猶太人の中には著名な教育家・法律家や名醫或ひは倣腕の貿易商等が夥しく、これらの人々が例へ外部から強制せられたにせよパレスタインを根據としての前途は決して看過出来ぬものがあらう。

大戦勃發の當時パレスタイン地方には、僅か五萬五千人程の猶太人を數へたに過ぎなかつた。彼等は何ら保護を與へられなかつた時代のパレスタインに居住してゐた人々だけあり、齊しく熱烈な猶太教信者揃ひで猶太傳經にのつとりあらゆる猶太儀式を嚴守實行し、従つて頽弊等は決して剃らうともせず、猶太民族のパレスタイン復活を確信こそすれ斷じて政治的經濟的理由に基づく事なく或る偉大なる神祕によつて二千年來の念望は實現されると信じきつて來たのである。

然し乍ら大戦後パレスタインに洪水のやうに流れ込んで來た新住猶太人が餘りにも物質化し、又猶太宗教儀式にも強ち神聖觀を持たなくなつてゐる姿に直面した先住猶太人は渺らず失望した。そしてパレスタインに何代となく居住して來た猶太人と、外國に育つた猶太人との間には均らす事の出來ない深い溝が掘られてしまつてゐる。従つて彼等先住の猶太人は同じパレスタインに在つても、強ち現代吾々の識る猶太民族主義者とは見做し得ないのである。

パレスタインへの猶太移住民は最近の五六年間に急激な膨張を來たし、去る一九三〇年中の三萬突破を皮切りに三四年は四萬二千、三五年には殆ど六萬に近く今日では總數四十萬に達し、早くも同地總人口の三分の一を占めるやうになつた。然し乍ら猶太人側では決してそれに満足しては居らない、

現情パレスタインは未だ多數の猶太移民の消化を可能と見られて居るのであるが、委任統治者たる英吉利當局は先住民族のアラブ人へ對する氣兼ねから猶太移民の制限を實行しつゝある爲めである。

毎年猶太民族運動の移民調整機關は豫めその年度内に於ける移民引受可能數を申告し、パレスタイン統治政府は從來常にその半數以下のみしか移民許可をしなかつた。パレスタインへの移民は嚴重な法規によつて制限されて居るのであるが、約一萬七千圓以上の資本持參者は何人も移民の適用を受けない。

又専門技術者にして約八千五百圓以上の資金を所持する者、或ひは機械職工にして四千三百圓以上を持參する人々も前述の移民制限から除外されてゐる。

パレスタインの首都とされてゐるエレサレムの五十年前の姿は總人口二萬四千を擁し、アラブ人と猶太人住民との割合は五對一でアラブ人が壓倒的な地位を占めてゐた。

然るに今日では全人口十萬に對し、猶太人はその六割を占めるに至り即ち過去半世紀間を通じアラブは二倍にとゞまりそれに反し猶太人は十五倍の強化を告げた譯で、この比率のみを以つてしてもパレスタインが如何にアラブ民族側へ不利な趨勢の下に在るかを察知出來得るであらう。

羅馬時代の初期までパレスタインのエレサレムは猶太民族の都と誇つたのであるが、羅馬に落し入れられて以來二千年エレサレムは各時代の強國が掌握する處となり、遂ひに猶太人へは還元されなかつた。

現今のエレサレムは二様の市街から成立つて居り、古來のエレサレムは城壁内に在りその外圍り一帯が庭園都市と自稱される大エレサレム市街を形成してゐる。大エレサレムは殆ど過去十三年間の短時日に構成されたもので、百哩餘の新道路をめぐらせ、猶太民族運動に關する幾多本部の堂々たる建築物は立ち並んでゐる。

特異な施設の一つにヘブライ大學がそれらに伍して居り、そしてこの大學はヘブライ語（初期猶太語）を死語から蘇生させようと企てゝゐるのが主な目標とされて居る。且つ又如何なる現代猶太人にも利用出來得るヘブライ語辭典の編成も、それに次ぐ使命とされてゐる。

實に彼等猶太民族は祖國を失ひ各地に落ちのびてから、地方的に必要な應じて新猶太語を數知れず作つて來て居るので、凡そ猶太初期のヘブライ語とは甚だしく懸け放れたものとなつてしまつてゐるのである。

但し現在のパレスティンに於いては第一に英語、次いでヘブライ語及びアラブ語の三つが公用語とされてゐる。

近來激増したとは云へアラブ住民の未だ半數にすぎない猶太人ではあるが、既に彼等はパレスティン社會を教育的に工業的に農業的に、又商業的には勿論の事すべて實質的な統制權を自己のものとしてしまつてゐる。

幾世紀となく沙漠の風波に委ね聖地巡禮の一地方とされてゐたパレスティンも、今や逃避猶太人の

生命線として從來の如き宗教的開發を遙に超越し、全土を擧げて現代的大市街を構成するに至り財政的にも貿易的にも刻々近東地方の中心地盤を築きつゝある。

又その名も示す通り何物をも獲られなかつた死海はパレスティン東部國境をなしてゐるが、猶太人の投資によりさしもの死海も醫藥用鹽類及び肥料鹽の産地化され、近代經濟界に蘇生の途を見出し初めてゐる。元來この死海は地中海の水面より約一千三百尺も低く、就中カレア海岸などは水平線以下實に一千四百尺の低地々方として地理學上著名な存在扱ひを受けてゐる。

或ひは又東隣りの純アラブ國家たるトランスジョーダンとの國境線となつてゐるジョーダン河に於いても、猶太資本と猶太勞力のみによつて三萬二千馬力の水力發電施設が最近完成を告げてゐる。勿論それだけの能力ではパレスティン所要の電燈電力の何分ノ一にも達せず、次々と發電計畫を進めつつある。

地中海の東部沿岸をなすパレスティンには二つの國際港があり、南方のジャツファ港は首都エルサレムの海口をなして居るが、北方のハイファ港の方が近代的な施設を擁して居る。近來猶太人はこのハイファ地方にも意を注ぎ、例へば製粉・石鹼・セメント・煙草・纖維等の重要なパレスティン近代工業をすべてこの地方に企劃して着々實現せしめてゐる。

又ジャツファから世界各地へ積み出されるパレスティンのオレンヂはジャツファ・オレンヂとして有名であるが、戦前の年産四十萬箱に比し現今ではその十八倍に當る七百萬箱を輸出するに至り、而

もこの七割餘が猶太住民によつて栽培されるものである。

パレスタインは近來グレーブ・フルートを大量輸出し初め、これはオレンヂ以上に徹底して居りその生産は全部猶太人によつてなされ、アラブ人は全く置き去りにされた格好であり、從來猶太民族の最も不得意と稱せられる農耕園藝に於いてすらこの調子である爲め、先住アラブ人としても不安に驅られて騒擾を起さずには居られないのである。

それでは何故にパレスタイン農産業に就いて、猶太人がアラブ人を壓倒し繁榮を獨占するやうになつたのであろうか。栽培方法の高度合理化及び機敏な取引方法こそは、パレスタインに於ける猶太農業の絶對的な地盤を確立したのであつた。

現にパレスタインには百三十餘の猶太集團農場があり、それらは何れも一ヶ所三百三十町歩から六百十餘町歩の耕地を擁し、二十人乃至八百人の猶太農民を收容してゐる。

而もそれら農場は地方により或ひは野菜と家畜の二本立經營で、或るものは牛乳鶏卵本位とし、或る地方の農場では果物や穀物を専門としてゐる。農耕地は何れも個人所有の形式を採り、場合に應じては猶太民族運動の財政機關が資金を補助して新來猶太農民に彼等自身の農耕地を買ひ入れられるやうにしてゐるのである。又それとは全然別な形式として、一農場全部を一體として共產經營してゐるものもある。

近來パレスタインに於ける猶太人は、約八萬町歩の農耕地を所有しそれによつて四萬八千餘の猶太

農民が活動しつゝある。そして彼等の生産品は協同販賣機關の手を通したもののだけでも一九三五年度中牛乳バターの二百三十萬圓果物野菜の九十萬圓等の巨額な成果を示してゐる。

以上の事々は如何に猶太人が聖地パレスタインに於いて、實質的な統制權を獲得してしまつたかと云ふ具體的な歩みを物語るものであらう。

猶太人は過去十二年間に互つてパレスタインへ無慮七億萬圓に近い巨資を投じて、只管近代的な猶太母國の地均らしを強行しつゝある。又パレスタイン在住猶太子弟教育の爲め、毎年三百餘萬圓を公課以外に使用し、醫學教育用としてそれらと別に二百七十餘萬圓を費ひやしてゐる。エルサレムに於けるロスタヤイルド病院の如きも逐年その施設を増大し、最近では大々的な醫學專門學校を附屬開設する程になつて來た。それらの指導者達が何れも一九三三年以來、獨逸を追はれた有名な猶太國手揃ひである事は云ふまでもなく、ロスタヤイルド醫學校教員の二十一名までは既に獨逸の名醫として知られた人々であると云ふ位ひである。

猶太母國としての新パレスタインを語る場合、兎角に同國內第一の都市を形成しつゝあるテルアヴィヴの勃興振りが見落され易い。實にテルアヴィヴこそは、數年來の猶太入殖の熱狂振りを具體的に反影してゐるのである。

即ちテルアヴィヴは南部パレスタインの國際港ジャツファに北隣りする海岸地方に在り、二十五年前までは全く奥地の砂漠同様淋しい砂丘地帯にすぎなかつた。處が今日では人口既に十五萬首都エル

サレムよりも人口に於いて經濟に於いて遙に重要性を増し猶太人のパレスティンとして第一の都會となり今後益々發展膨脹を確實に豫約されてゐる。然も人口十萬のパレスティン首府エルサレムがその三分の一までアラブ人を包擁してゐるに反し、このテルアヴィヴは十五萬全部が猶太色を以つて満たされてゐるのである。従つて猶太母國パレスティンの將來を考察すれば、テルアヴィヴこそは猶太經濟の地力を發揮して、早晚近東地方の物資集散の大本山となるであらう事は疑ひもない。テルアヴィヴは一面に於いて種々なローマンスに當んで居り、例へば一九〇八年（明治四十一年）生活苦と爲政者の壓迫に耐へかねたジャツファ在住の猶太人六十家族は遂ひに意を決し彼方北方の砂丘へ移住を始めた。そして程なく六十の小屋が崩れる砂丘を支へつゝ建て並べられ、その地方一帯を彼等はテルアヴィヴと命稱した。テルアヴィヴとは古代猶太の著名な部落であり、春の丘と云ふ意味である。

現住民の服装や作法は全く猶太風ではあるが、歐洲各國語を耳にするのがこのテルアヴィヴの特異性で、南佛の靜養地ニースになぞらへて全猶太人の保養地としても發展しつゝある。然し乍ら意外にもテルアヴィヴはそれでゐて、反面には五百に近い各種工場が僅か數ヶ年の内に林立するに至つたのである。

従來パレスティン地方は何ら工業原料もなく動力の見込もなかつたので、單なる農業國以上には出でぬものと見做されてゐた。けれども猶太人の聖地にかちり着こうとする熱意と資力と商才とは歐洲大戰後遂ひに機會を獲て公然と母國達成に傾倒する事が出来、彼等テルアヴィヴやハイファ等の各種

工場は遂ひにパレスティン消費の大部分を供給するまでになつた。

而も繊維工業・皮革工業・機具工業を初め、チヨコレート煙草製品に至つては逆に輸出さへ可能の現情となつて來てゐる。

現今パレスティンに於ける交通網の殆ど全部は、猶太人に實權を握られてゐる。全住民の未だ三分ノ二を占めるアラブ人がそれら現代の交通機關をボイコットしても、パレスティンの實質的な猶太母國化は些かなりと速度を緩められては居らない。

首都エルサレムよりジャツファ及びテルアヴィヴ間の四十哩道路などは、鐵道の外に大型乗合自動車が一時間四回の割合で頻繁に往復して居る程で、山陵地帯の路線であるにも拘はらず、その貨銀は往復三圓にしか相當せず、一哩三錢八厘にも達せない低廉さである。

海上運輸には既に公然と猶太旗を掲げた猶太汽船が組織されて居り、ハイファとニューヨーク間の定期船經營に乗り出し始めた。

因みに猶太國旗とは、白地に青い太線二本を引き、その二線の間には旗竿近くの部分へ猶太表徴たるデヴィツドの星を配しそれに並べて二つの三角形を上下逆に重ねたものを描いてゐる。

猶太人が母國と強調するパレスティンは形式上から見れば、未だ英吉利當局に辯務せしめてゐる國際聯盟統治領の一つである。但し他の委任統治領と異なる點は、パレスティン統治の主眼が何物よりも猶太人に安住地を與へる事に在つた。

従つて猶太人の入殖を奨励し歓迎せねばならぬ建て前に置かれてゐるのであるが、その反面先住アラブ人の安全と権利を保護せねばならないのが受託統治國の責任であつた。

人的に猶太移民の洪水で恐威を豫感せしめられたアラブ人は、それ以上に猶太資力とその移民數に何十倍してパレスティン經濟を掌握しつゝある強烈な壓力に抗し得ず、遂ひには幾多の直接反撥行動をつゞけてゐる。

然し乍らパレスティンが實質的に、既に猶太母國化してしまつた事は前述幾多の經濟的社會的現情が立證する處である。

猶太人は幾世紀となく世界各地に流浪の生活を強ひられてゐる期間を一貫し、それら各地に散在する人々はパレスティン復活の希望によつてお互ひの心を強く結んで來た。あらゆる猶太儀式は常に、パレスティン復活の希望誓言を付け加へる事を忘れなかつた。

その猶太民族の念願は遂ひにバルフォア宣言を契機として、否ワイスマン博士の合成鐵の發明を契機として實現した。歐羅巴各國の猶太排斥の氣運こそはその實現達成に拍車を加へたものであり、爲めに猶太民族統一主義者達は却つて反猶太風潮を天恵とさへ絶叫してゐた程である。

そのやうなパレスティンを舞臺として起されたのがアラブ人騒擾問題で、既に一昨年以來統治責任者たる英吉利は遂ひに二萬の出兵を行ふのやむなきに至り、差し當り現状維持の強制的平穩さを保つてゐる。處がその根本的解決策の發案を委ねられたパレスティン對策委員會は未だ倫敦を右往左往し

つゝある。先頃英國議會で否決された第一案によればパレスティンを三分割し、一部を猶太國に一部をトランスジョーダンに加入せしめてアラブ人の意に委せ、所謂聖地たるエルサレム・ベスリヘム・ナザレス・ガリリー海及び奥地のアラブ國と地中海とを通ずる通廊地帯を英吉利當局の手で統治して行かうとするものであつた。

然し乍ら英吉利朝野はこの提案に對して餘り氣乗りせず、又肝腎の猶太人もアラブ人も逸早く強硬な反對氣勢を示した。

若し英吉利政府がその三分割案に賛意を表するとすれば、云ふまでもなくそれは英國のアラブ民族に對する二枚舌を意味する事となるのである。即ち一九一五年英吉利當局者としてのヘンリー・マクマーン卿は、若しアラブ民族が土耳其帝國に反抗して英國側を支援するならば、アラブ人は他のアラブ國土と同様にパレスティンを吾が物扱ひにしてもよいと云ふ言質を與へたのであつた。

それと前後して英國政府はワイスマン博士に猶太國パレスティン建設援助の内約を與へ、表面的にはマクマーン卿の對アラブ人豫約より二ヶ年遅れた一九一七年に至りバルフォア宣言として國際線上へ登場したのである。

何れにしてもパレスティンに於いて英吉利當局が猶太人に對して言質を完全に實行すると云ふ事は、その反面英吉利のアラブ人に對する言質を全く裏切る結果となり、三分割案のやうに猶太人にもアラブ人にも受けが悪い事こそ起きるが、どうしてもこの兩者を満足せしむる方法は從來の英帝國常識を

捨てぬ以上統治者英吉利としては望み得ない因縁にからまれてゐる。

而も新國家を構成する猶太人達は、波蘭系ロシア系獨逸系及びルーミア系の猶太人多く、英吉利系猶太人は一般の想像とは逆に尠いのであり、此點にも英吉利識者達は英國將來の爲め利用性の稀薄な外國系猶太人の多數な現状パレスタインを取急いで猶太國に單純化させる事を好まないものである。

又パレスタイン三分割案は、英吉利をして猶太國ともアラブ國とも均等に防禦協約を締結する事を提議して居るが、是も徒らに英吉利の權利を放棄し責任のみを増大するものとして英國内の多數は反對意見を表明した。

要するに今日まで研究されて來た英吉利當局のパレスタイン解決策は、根本として公平味を缺く嫌ひがあり、又實際的には圓滑な成果を期待出來ないものである。

即ちマクマーン卿からアラブ人へ與へた約束が破棄される事によつてのみ、バルフォア宣言による對猶太人の約定が確保され得る因果關係が次第に明白となつて來た。

三分割案によればアラブ人の領け與へられる領域は同じパレスタイン内に相違ないのではあるが、主として不毛の砂漠地帯であり且つ海港への回廊も考慮されては居るが誠に不便利な部分を押しつけられる事となる。

然るにそれに反し猶太人の方へはパレスタインの經濟的有効地ばかりを分割する結果となり、その地域の現住民は猶太人の二十六萬に對しアラブ人二十三萬を數へて居る。これは廣さにして英吉利の

ウエールズ或ひは吾が四國地方にも等しく、その隣接地に英吉利の直轄する聖地々方が各所に五六ヶ所ダンチツヒ自由市然と構へ、そして波蘭の回廊式にアラブ地域及びトランスジョーダンから地中海への通路を設定する譯で、今更第二の外交難關ダンチツヒを作り上げ態々第二のザール地帯を新設するの愚に等しい對策である。

何故に英吉利はパレスタイン問題に對して快刀亂麻の對策を採り得ないのであるか、過古の二重言質の爲めでもあるかも知れない。確に過古の對猶太内約及び公約と、對アラブ公約との矛盾も英吉利の態度を要領得ないものとする要因に相違ない。

然し乍らそれにも勝る原因こそは、決して過古の二重言質の爲めではなく實に現在及び將來の國策上、英吉利は對パレスタイン問題の窮境に立たされてゐるのである。

即ち事單にパレスタインに關する問題ではあるが、それは世界中の猶太人に影響を及ぼし、又全アラブ民族、強ひては彼等の信奉する回教を通じ、あらゆる世界の回教徒を刺戟せずには居らない。混亂國際金融界に英吉利が依然として優越の地歩を確保するには、今後益々猶太金融の支援に據る處多大なものがある。一方重油時代に際し英吉利のイラク王國依存性は愈々加へられ、彼地は勿論イラク油田よりの油送管を横たへるトランスジョーダン何れもアラブ國家として楚々たるものであり彼等アラブ諸國は齊しく代表を派してパレスタインの前途を自己民族の有利に解決せんものと側面裏面から努力を惜しまないのである。

且つ又同じマホメットの信奉上からして、パレスタインに於けるアラブ人は云ふまでもなく、トランスジョーダン・イラク等のアラブ國家は、朝野擧げて印度に於ける回教徒との關係が誠に深いのである。この印度に於ける回教徒の一群こそはガンヂー・ネール等の反英に終始する印度教徒と對抗の立場に在り、英吉利としては甚だ頼母しい分子となつてゐる事は衆知の大勢である。

従つて若し英吉利がパレスタインに於いてアラブ民族を是とすれば猶太金融の反撃に遭ふ事は必然であり、一方猶太民族の母國化を公認すればアラブ諸國の反抗を誘發しフアツシヨ伊太利の思ふ壺となり且つ又日を追ひ統治困難を極める印度に於ける御用派をも敵に廻して了ふ危機があるのである。但しパレスタインに於ける猶太母國化は既に實質上完成の域に達して居り、結局は英吉利として現在パレスタインに永住するアラブ民族八十萬の爲め他に適當な國土を興へねば永久に根本的な解決は望まれぬ大勢に在り、表面上全然問題にはされて居らないが東アフリカのユガングの一部を提供する案も浮び、或ひは又人口稀薄の爲め國防の安全を絶對に期し得られない事を大悟した壕洲の北邊一帶に肉弾式に入植させてはと云ふ案も指摘されて來てゐる。眞に英吉利百年の計を考慮する識者達はそれらの案を必ずしも机上の空論とはして居らないが、兎に角一萬人に達する英吉利兵の血を流したパレスタインと云ふ過古が一般の英吉利朝野には強く思ひ出され易いので容易に百年の計も立ちかねるのである。

事パレスタインに關する限り遙か歐洲の問題のやうでもあるが、そのやうな内容を思ひ合せれば或

ひは印度の内情を變化せしむる危機を含み、或ひは壕洲をも引き合ひに出す程、その影響する處は誠に東洋的な色彩の強いものであり、決して吾々も輕視し去る事は出来ない問題なのである。

(昭和十二年十二月・國際知識及評論所稿)

三、倫敦のロスチャイルド家

マヤー・アムツシエル五人の子供の内、最も才能優れ遂ひに倫敦ロスチャイルド家の礎石と仰がれるやうになつたネーサン・マヤー・ロスチャイルドが、倫敦の聖スキズインで永眠したのは一八三六年の事であつた。そして彼の葬儀には一平民の身分にも拘はらず、歐羅巴諸國の代表や各地の王公族又は倫敦市長を初めとして、朝野あらゆる人士が列席し如何に彼の聲望が素晴らしいものであつたか、百餘年を閱みした今日未だに猶太人達の誇り話とされてゐるのである。

當時名もない獨逸のフランクフォートから倫敦に來て商賣を初めた一介の青年が、それから四十年後に前代未聞な死華を咲かせようとは猶太人仲間ですらも誰一人として想像した者はなかつた。

そのネーサン・ロスチャイルドにはライオネルを初め四人の子供があつた。そして彼は「他國のロスチャイルド家と密接に提携し經驗に富む同族達の忠告や助言を進んで受け入れて益々倫敦のロスチャイルド家を興隆させるよう」吳々も遺言した。

彼の永眠から既に一世紀を經過した今日ではあるが、倫敦のロスチャイルド家の門前には昔に變らぬ紋所が磨き輝やかされてゐる。そしてネーサン・ロスチャイルドが残した遺言が家憲とされ、平和産業・公正の三つを表徴として來た。

現在倫敦のロスチャイルド家はライオネルとアンソニーの兄弟によつて支配されて居り、巴里のロスチャイルド家及び維納のロスチャイルド家との關係も相當によく保たれてゐると云ふ。

勿論あの歐洲大戰は各國に跨る彼等同族の關係を困難な立場に置いたが、強ちさういふ事は空前でもなかつたのである。倫敦と巴里のロスチャイルド家は聯合軍の立場にあり、維納のロスチャイルド家は獨逸軍の立場に當然據つた。そして三家とも適年の者達はすべて從軍し、倫敦ロスチャイルド家のエヴェリン等は英軍の一員として土耳其軍と戦ひ、あの猶太人の聖地とするパレスティンで遂ひに野露と消えた程であつた。

従來は倫敦・巴里・維納の三家共營業の損益を均等に共同してゐたが、大戰勃發以來引つゞき倫敦も巴里も維納も全然獨立した經營に變じて來た。然し三家とも相變らず繁げく情報を取り交してはゐるやうである。

創始以來百數十年、その間經營や連絡の組織は色々に變つたが、今日の彼等は三家とも同一祖先に對して尊宗の念を失つては居らない。例へば先祖の留意してゐたと云ふ公共に對する慈善等も益々廣く勵行し、猶太人種に決して限る事なく汎く一般に及ぼしつゝある。猶太人同種族は強く助け合ふが

他人種に對してはその反對な態度を採ると云ふのが世上の猶太人と評せられてゐるが、ロスチャイルドは世評の例外をなしてゐるのである。

このやうな事が特異の存在を形造り、實に倫敦ロスチャイルド家が英吉利に於いて財政的に限らず社會的にも未だ最高の水準を確保出來得るのは、そのやうな反面を持つてゐるからであると稱せられてゐる。

それならば何故に彼等は財政的に優位を持続出來るのであらうか、即ち彼等は世界の事實に出來るだけ緊密の關係を保つやうに努力し、經濟情勢の變轉に適應し國際結婚を進んで行ひ、且つ又常に國際間の相互貿易に力を注ぎ、決して一部分の取引きや片寄つた貿易に肩身を入れない事を必ず實行してゐる結果と云へるであらう。

歐洲大戰に直面して、倫敦ロスチャイルド家の一族は英吉利と獨逸との友交關係確保、即ち英獨間の開戦防止に非常な努力を拂つた事は有名である。

然し潮流に乗りきつたカイゼルやその獨逸言論界の態度は、ジョージ五世も眼中に置かず英帝國の情力も没脚視し去つた。そして遂ひに運命は英獨を開戦に導き、ロスチャイルド家の努力も水泡に歸したのである。

今や全世界に於ける金融や産業や交易の状態は甚だしく變化し、曾つては殆ど彼等ロスチャイルド一族の掌中に左右されてゐたものも、強ち昔日と同様とは限らなくなつて來た。

英吉利の號令が世界の隅々までは行渡らなくなつた事と正比例して、歐洲大戰後倫敦ロスチャイルド家の英吉利政界に對する威力も昔程ではなくなつたやうである。

若し彼等一族が獨逸のカイゼルをして英吉利に對する態度を變へ得てゐたならば、或ひは同種猶太排斥のナチス獨逸の出現もせず、そして又肝腎の英本國を衰運に向つてスピード・アツプさせずすんだ譯でもあり、それこそ倫敦ロスチャイルド家の今日は始祖に幾層倍する聲威を贏ち得てゐた事であつたらう。

四、大アラビア再興王と英外交

近來打ち寄せる列強制覇の荒波に抵抗し、敢然古來の慣習を維持し乍ら而もそれら列強の文明を吸收しつゝある國は、アジア・アフリカ兩大陸を通じて非常に稀れである。

處がその大勢に逆行して意外な新興勢力が近東の一角に出現しつゝある。傳統の風習を西洋文明の流れに洗はせ乍ら而も嚴として己れを持し日々その聲威を加へてゐるイブン・サウドの大アラビア即ちそれである。

從來アラビアの天地は平和論者の對象とは成り得て居らず、恐らく將來を通じても同様であらうと云はれて居り、又その社會では血統と云ふ事が重要視され乍ら反面誠に強い民主々義的な風潮を含み、

例へば血統がよくともその事だけでは社會を統治する力は與へられないのである。さういふ特異なアラビアの社會に於いて、多小誇稱すぎる感もあらうが回教の始祖マホメット以來アラブ人の生んだ最大の偉人としてアラブ人民から廣く愛慕され畏敬されてゐるサウド王は、アブドル・アジズ・イブン・アブドル・ラーマン・イブン・フェイザル・アス・サウドと云ふ長い正式な姓名の所有者なのである。三百年前の獨裁官オリヴァー・クロムウェルに諷して英吉利方面からは「アラビアのクロムウェル」と暱名されてゐる彼は、強い信仰心と強い争闘心を持ち、恰も闘ふ爲めに産れて來たやうな人であり、燃えるやうな信心に生きて居り乍ら一方偶像破壊主義者であり宿命論反對主義者なのである。

彼は幻時生家の没落に遭ひ二十一歳の時までベルシャ湾に面するクワイトに亡命生活を送つて居たが、一度風雲に乗じ遂ひに名實を一貫した劍と信仰とによつて大アラビア統一の霸業を達成し吾が日本に四倍する領域を號令するやうになつた。

但しアラビアは現在に至るも猶回教寶典コーランに則る神權政治國であり、一門の長は精神的な支配權を持つてゐるがそれと同時に何事をなすにも一門に諮問するを慣はしとしてゐる。茲に獨裁的にして然らず專制的にして然らず、全く民主的なアラビアの國家が形造られてゐるのである。

前世紀の中頃フェーザルによつて中央アラビアの古都リヤードを首府として復興されたワハビ王國は、一八九一年その後繼争ひに因を發しその虚につけ入つた土耳古を背景とするラシド一門の進撃にあへなく崩れ、當時十二歳のサウドは父親（フェーザルの第四子）に連れられて都落ちしベルシャと

近接するクワイトに隠棲するやうになつた。

其の頃のクワイトはベルシヤ灣の貨物集散を兼ねる淋しい漁港にすぎなかつたが、數年ならずしてベルリン・バグダット直通鐵道の延長點としてこのクワイトを獨逸が熱望するやうになり、一躍して世界外交界の注視を集めるやうになつた。實に一九〇〇年當時の情勢としてベルリン・バグダット線をクワイトまで延長する事は、獨逸帝國の印度洋進出を意味するに外ならなかつた。

而もクワイトのアラブ酋長はそのやうな微妙な國際情勢に處するには至極適當な人であり、サウドはこの名酋長の行動を實地に見聞する機會に恵まれ乍ら成長したのである。

長ずるに及び元氣に滿ちにサウドは片鄙なベルシヤ灣にちつとして居られなくなり、二十一歳の時數人の手下を連れ單に冒險的な興奮を得る目的で奥地の砂漠地方に分け入つた。それと前後してクワイトの酋長はサウド達一門の仇敵であるラシド王朝との争鬭を開始したが慘敗を喫し、その爲めにサウドの一行は歸途をばまれ殆ど一ケ年に亘り砂漠地帯に隠遁を餘儀なくされたのであつた。

其後絶えず機會を窺つてゐた彼は、一九〇二年の一月遂ひにラシド王朝の治下に在つた祖先の古都リヤードを僅かの手兵で深夜奇襲し、ラシド派の總督を即座に下野させ忽ちにして彼自身リヤードの長となつてしまつた、實に數分間の神速さであつたと傳へられてゐる。

それは恰もアラビアの砂漠に輝き出でた一つの明星にも喩へられ、サウドは若冠よく一瞬の裡にワハビ王國再興の礎石を築き第十三代王の宣言を發した。

次いで陣容を整へた彼は、大土耳其帝國の威勢を借るラシド王朝との決戦に進んだ、アラビア南部地方はラシドの治下にあつたものの心服して居なかつたのでサウドの進攻は容易であつたが、リヤード以北は困難を極め一進一退四ケ年に亘つて激しい戦鬭が繼續されたのである。

一九〇四年サウド自身も戦傷したがラシドと土耳其との聯合軍を打ち破り、この時から土耳其はヘジャズを除きアラビアに對する野心を放棄した。次いで一〇〇六年ラシドの戦死から其の後の三年間と云ふものは北部アラビアの無政府時代とも稱せられ、實に五人の王族がそれぞれ割據をつゞけたが結局一番若かつたサウドに機先を制せられてしまつた。

サウドは祖先ワハビ王朝没落の主因ともなつた自領保全主義とは反對にラシドの舊領地へもどしどし進路する事が出来ると云ふ時運に恵まれてゐた。

一九一二年、イブン・サウドは近代アラビア史上特筆すべき軍隊的同胞部落を各地方に始めて組織し、それ〴〵地方の回教寺院を中心に部落々々で有名な人望のある説教者を指揮官として遊牧民や浮浪民に定地耕作を指導しアラビア民族間の同胞愛を強調しマホメット精神の具現振興を説いたのであつた。

元來、或る強い信仰的な指導者の出現に對しては絶對の服従を示しその集團行動力を俄然發揮すると云ふ事はアラビア民衆の特質とされて居り、サウドの遊牧浮浪民の定住獎勵策はその反面に於いて一朝有事の際それぞれ彼等を殖民地兵化出来る點に就いても絶大の成功を示した。

然し彼の對遊牧浮浪民政策が軍事上役立つと云ふ事以上に重要視され賞讃を博してゐる點は、この統制的定住及び宗教振興運動により、一般のアラブ人間に秩序の觀念が芽生へて來た事である。浮浪民族の通性として他人からの掠奪は勝手氣儘であるが、近來アラビアに於いて尠くともサウドの統治力の及ぶ範圍内にはこの種の不安が殆ど一掃され盡くしたと云はれてゐる。

例へば從來メツカ詣でをする巡禮者の幌馬車は、必ず掠奪に遭ふものとされてゐた。實にアラビアは今日のやうな掠奪のない安全な時代を未だ曾つて経験した事がなかつた。この社會的惡習の改良一つのみで既にサウドは現代アラビアの第一人者と仰がれ得るのであり、それ程にアラブ人の掠奪風習は幾世紀以來改良を熱望され乍ら實現され得ず常に不安な存在となつてゐたものであつた。

社會改良に意を注ぎ而もアラビア大陸中に匹敵するものなき有力な殖民兵を各部落々に構成したサウドは、歐洲大戰の勃發直前に土耳其の虚を突きアラビア中央地方に於ける土耳其の殘黨を全く掃蕩し茲にワハビ王朝の復興アラビアを堅固な土臺に築いたのである。

それと前後してクワイトに駐在する英吉利政府の代表は歴史的な砂漠横斷を行つた、一九一四年春の事である。即ち復興アラビアのサウドと英吉利との外交關係は實にこの時から初まり、其後聯合國側としての英吉利が獨塊側の土耳其との開戦を決定した時英吉利は遙々サウドに提携を申込んだ。

當時サウドとして都合のよい事には未だ自己の勢力を及ぼしきらぬアラビアの北部地方は既にラシドの緣故により土耳其側に加擔してゐたので、異議なく英吉利からの提案を受け入れて行動を開始し

た。

然し乍ら歐洲大戰の後期に入り英吉利政府はリヤードを本據とするアラビア東南部のサウドと、アラビア北部のラシド殘黨とを對立させて置く必要を感じ出した。そしてサウドは最初の話と異り適當にあしらはれたが、敢へて英吉利の不信を詰るの舉に出でず只管機會の展開するのを待ち耐へたのである。彼の大政治家たる態度は、この時既に發揮されてゐたと云ふ。

一方一九一五年以來、アラビア西部のメツカ方面を含むヘジャズ地方を統治する舊土耳其系のハッセン王と同様に、サウドは英吉利から軍資金を支給されてゐた。そして後年大アラビアを統成するやうになつたサウドはその金を主として浮浪人民の育英に利用し、後年没落したハッセンは冒險的な政治的野望に振り向けてゐたと云ふ事は興味ある對象であらう。

一九一九年、當時最早英吉利としては同じアラブ人種の國々でも寧ろイラクやフランスシヨードンを重要視し、アラビアにはそれ程の關心を持たなくなつてゐたが、イラクの統治者フェイザルもフランスシヨードンの統治者アブドラも共にアラビア西部のヘジャズ王ハッセンの息子であつたので、勢ひ英吉利政府のアラビアに於ける態度はサウドに對するよりもハッセンに厚かつた。

英吉利からの軍用金もハッセン王へは毎月二十萬磅の巨額であつたが、サウドの方へはほんの足止め料にすぎない五千磅であつた。そのやうにハッセンの者よりもその子供であるイラク王やフランスシヨードン太守の心證をよくする爲めに英吉利政府はサウドも年來欲してゐたアラビアのカーマ地

をハッセンに公然領有させた問題が程なく起された。

サウドとすれば甚だ輕んぜられた形であり、彼はそうと見るや一瞬を入れず例の各地に存在する殖民兵を總動員してハッセン王のヘジャスを包圍してしまい何時でも必要次第總攻撃に移れるやうな陣形を整へた。而もサウドの本領を發揮しハッセン王威壓に充分の健全さを示し乍ら調子に乗らず、高飛車に倫敦へ使者を送りアラビア問題に關する全面的の協議會開催を提議して英吉利政府へ迫り寄つたのである。

又それと同時にサウドは北部寄りの中央アラビアを攻略し、茲に中央アラビアを一貫するネジト王になつた。

一九二四年四月クワイト會議は結局英吉利側の失敗に歸し、勢ひ例の軍用金給附も立消えとなりサウドは全く自由な立場から同年の九月に公然とヘジャズ攻略の軍を進め翌月遂ひにその首都メツカを手中に收め、一九二六年の一月メツカの回教本山に於いて彼は愈々正式にヘジャス王をも兼ねる宣言を發した。

そして従來のアラブ進軍に必ずつきものであつた掠奪暴行をサウドは自己の軍隊に絶對させなかつたので、彼の名望は被征服地方の住民間にも高められて行つた。

一方、彼と英吉利との關係はサウドの忍耐的な態度と英吉利の政治家的態度とにより、表面は常に圓滑そうであるが實は一九二二年から一九三〇年に至る十年間近くと云ふものは、英吉利當局の印度

本位か埃及本位か一致せなかつた對アラビア政策を巡り、英國外交とサウド外交は常に机の下で深刻な足と足との蹴り合ひがつけられたのであつた。

サウドはヘジャスの統治にも手を染める事となり、その第一の改革はメツカ巡禮者に對する絶對安全さを確立するにあつた。ヘジャスの財政は世界各地からメツカへの巡禮者に據る處多大である、けれども従來その途上の掠奪は當然とされ而も衛生施設とて殆どなくメツカ巡禮は命がけに近いものとされてゐた程である。

然るにサウドは浮浪アラブ人民に農耕を教へ定住させ且つ掠奪せずとも生活出来るやうに仕向けたので、彼の統治するアラビアに於けるアラブ人の生活状態は、次第に秩序を整し、安寧を保つやうになつた。

彼の清教的なマホメット信仰心は昔に増して強められて來てゐるが、一方又決して現代科學を輕視しては居らない。例へば前統治者が禁止的態度をとつてゐた自動車のメツカ乗り入れを敢然許可し、今年から埃及カイロからの定期空輸さへも認めると云ふ事である。或ひは又各重要部落間を自動車で連絡し電信施設を進め各地の正確な情報交換を計り、上水下水の設備に着手し銀とニツケルの通貨を流通させるやうになつた。

彼はそのやうに舊來の慣習を確保し同時に時の流れに應じて枝葉末節を適宜に改進しつつ、一九三二年遂ひにアラビア全土を統一しそして大アラビア期せずしてサウデイ・アラビア(サウドのアラ

ビア)と稱號されるやうになつたのである。

然し乍らアラビアには尙多くの未解決な大問題が残されて居り、往昔に比較して浮浪民は激減したものの、未だ相當な數を示して居り、且つ又同じアラブ人の國土であつてもイラクとかトランスジョーダンと異りアラビアは農耕に對する天恵が薄いのである。家畜の類ひも現在までの經驗では大した成功は傳へられて居らない。

近代的な運輸機關の採用で例の駱駝貿易は殆どその跡を絶ち、アラビア經濟界の不振は駱駝貿易の没落に在りとさへ評する者もあつたやうである。

たゞ石油と鑛物資源に於いて未だその試験時代の域を脱しないが既に英米資本の根強い進出があり、又一般實業界に對し英吉利系の埃及資本の活躍は見逃せないもので、一九一四年以來英吉利外交を常に切り抜けて來たサウドも今や徐々に英吉利資本の包圍に墜ち入りつゝある状態となつて來た。

且つ又それを一層複雑化するものは回教政策を掲げ地中海に紅海に反英工作に餘念のない伊太利の、アラビア割込運動である。

會つて英吉利外交を巧みに處したサウドは今後も英吉利資本と伊太利外交とを巧みに對立せしめつつ、大アラビアの近代化を成し遂げ得るであらうか。五十有九歳の彼は今やその本舞台に登場しようとしてゐるやうだ。

五、アラブ諸國を繞る英伊の角逐

最近獨伊接渉の結果、パレスティン問題に關し伊太利側から具體的統治案を國際聯盟へ提出し現在の英吉利委任統治制を廢し英佛獨伊各國による國際管理制の施行を要求し、又伊太利のアラブ民族接近策を獨逸は支持する事を約したと、佛蘭西側では大々的に報導し、以つて對英提携の強化に備へようと努力を惜しまなかつた。

パレスティン騷擾の深刻化及びそれに綾なし織り込まれた對伊抗爭により、英吉利のアラブ諸國との關係は近來非常な微妙さに惱まされつゝある事は強ち無根ではないやうである。

一九三六年世間體には全く平等な更新條約を取り交はした埃及こそは、英吉利が關係を持つやうになつた最初のアラブ語常用國であつた。

英吉利に占領された一八八二年以來絶えず續けられた埃及國一千二百萬の回教徒(現在埃及に於ける猶太人は約六萬と稱せらる)の反英獨立運動も、歐洲大戰後漸くその希望實現の自信を強め、とに角も五十餘年後に所期の目的に到達した。是は埃及人自身の向上充實が然らしめた事でもあらうが、同時に英伊對立の深刻化と云ふ成り行きが側面からその實現に向つて拍車を加へた要因も見逃せないものであつた。

即ち英吉利とすればスエズ運河確保の爲めにはその地元國埃及に於ける自國の立場を根本的に改善せねばならなくなり、この緊要さは伊太利の地中海工作が積極化して以來一層痛切味を加へたのであつた。

一方、埃及側は伊太利のアフリカ大陸政策の進展により西隣りの伊領リビア及び南東に接する伊領エチオピアから稍もすれば挾撃せられる状態となり、從來の行き懸りよりも先づ眼前差迫る國防上伊太利と反對の立場に在る英吉利と是非共握手する必要に墜ち入つたのである。この間の事情は先頃締結された新英埃條約を一見すれば明瞭であり、英聯邦交通網の一要點としての埃及の對英保證並びに埃及國境保全に關する英吉利の對埃保證がその根幹を爲してゐるのであつた。

即ち英埃關係は見ようによつては、伊太利伸張の爲めに却つて抗爭から一躍英埃相互依存の途を驛進するに至つたものと稱せられるのである。

彼等埃及人は回教諸國の盟主を以つて自ら任じてゐるが、回教國中でも純アラブ人國家として最も指導的な現状を占めてゐるのは恐らくイラクではなからうか。近世に於いてアラブ國家主義の最初の叫びを聞き得たのは、實にイラクの首府バグダットであつたとさへ傳へられてゐる。

一九一七年英吉利の後押しで土耳其に反旗を翻へしたフェイザルは、戦後この地方が期限つきで英吉利の委任統治領となるや太守に推され、次いで一九三二年獨立政體イラクと成育され同時にフェイザルはイラク國王となつたのであり勢ひ彼の在世中イラク國の親英風潮は殆ど絶對的に近かつたので

ある。

そして獨立後直ちに最初のアラブ國家として埃及にも先んじて國際聯盟に加入し委任統治領の形式は全く消え去つたのであつたが、英吉利は新獨立國家としてのイラクと協同防禦約定を取結び、ペルシヤ灣に接するイラク唯一の海港バスラに英空軍根據地を開設しその儘居居つたのであつた。

伊太利の親アラブ工作はパレスタインに於けるアラブ民族のみならず、その影響は既にこのイラク朝野にも及ぼされ或ひは親英派と親伊派の形に於いて或ひは猶太提携派と猶太排斥派との姿を以つて相剋し、爲めに政界の急變さへも惹起した程である。

即ち一九三六年末王位繼承後未だ何年にもならない二十五歳のガージ國王は、一瞬の政變に遭遇せられベキール・シドキー將軍の獨裁を容認するの外なくなつた。親英派の雄であつたジャツファ・パシヤ等がその當時暗殺された事に徴しても、新興獨裁勢力が尠くとも英吉利側に有利でなくなつた點は否定出來なかつた。今日のイラクとて強ち反英的ではないが、パレスタインのアラブ・猶太、抗爭を黙視する能はずと爲す態度は次第に強められて居り、彼等が理想の終局に汎アラブ帝國の實現を描いてゐる事は想像に難くない處である。

では何故にイラクが英伊のみならず、列強に注視せられるのであるか。それは今日に始まつた事ではなく、既に一九〇〇年當時米國の食指も動き、獨逸も伯林からその首都バグダッドまでの鐵道直通の大經倫を行つて居た程であり、陸路印度への要地たるのみに止まらずそれ自身の豊富に埋藏する石

油資源に魅力を帯びてゐるのであつた。

即ちイラク北部のモスール油田地方がその焦點であり、現在は英吉利ベルンヤ石油會社及び英吉利當局が後楯となつてゐるイラク石油會社の統制下に置かれてゐるが、この統制權は既に幾度となく轉換された過古を持つてゐる。

英伊二國間同志のみでも既に三回その統制權を繞つて奪還が行はれた程で、獨逸も佛蘭西も深刻に割込工作を怠らず繰返へしつゝある。

一九三五年操業を開始した有名なイラクの送油管施設は、アラビアン・ナイトの夢幻境から地中海に達する延長一千二百哩のパイプラインにより輸送能力一ケ年四千萬噸、建設費一億七千萬圓は主として英吉利側の支辨に成り、途中からこの送油管は二線に分れ本線は隣邦のアラブ國家トランスジョーダンを横斷し問題のバレスラインに至りハイファ港から對英供給の役目を果し、他の一線は佛領シリアのトリポリ港に出で、専ら佛蘭西の石油國策に對應する形態を示してゐる。

従つてこの石油線施設から見たイラクは、現在までの處依然として對英本位であり且つ對佛本位のやうに見受けられるが、バレスラインのアラブ騷擾に際し常にこのパイプラインも襲撃の厄に遭つてゐる事も見逃せないであらう。

故に伊太利側の對イラク親善工作は、バレスライン問題の悪化につれ英吉利側として全く等閑視は出來難いのである。

元來埃及もアラブ問題には餘り積極的な態度を採らなかつたが、このバレスライン問題の經過には可成り注視しつゝあるやうである。尤も埃及の方のはイラクに比すれば切實性薄く、從來唯一の昂憤劑とされてゐた對英抗爭運動の引き揚げにつれ民心を猶太問題のバレスラインに轉換させると云ふ政策も多分に加味されて居る。

イラクに永住する多數の猶太人は、バレスラインに於けるアラブ・猶太・抗爭の爲め微妙な立場に置かれて居り、猶太民族主義運動によりイスラエルの理想世界が再現され得るかも知れないと云ふ輝やきにも増して、例へ外見上のみにせよ地元國の統治者アラブ民族の反動を挑發し易い現實の危機を彼等は知悉して居るのである。

従つて先頃もイラク在住猶太民族首腦者達は、バレスラインを飽くまでも猶太母國とするワイズマン博士達の猶太民族主義運動との絶縁を公式に聲明した。即ちバレスラインの猶太主義運動者は主として中歐及び東歐の各國に於いて壓迫される猶太人の爲め自由の天地を獲る事の妥當さを強調するに對し、イラクの猶太群はアラブ社會に於いてアラブ人の意志に反して猶太人だけの政治的中心を敢へて造らうとする事を指摘しつゝある。

今やイラクの當局者は二つの局面を善處すべく迫られて居り、その第一はアラブ諸國の代表として、アラブ民族が一千年に亘つて現存するバレスラインの非アラブ化に對し極力阻止せねばならぬ對外國問題であり、第二は國內に於ける少數民族主として猶太人の保護及びそれらの活用利用化と云ふ對内問

題である。

實にイラクに於ける猶太住民は世界各地の猶太民族を通じ、最も富の多い又影響力を擴く及ぼし得る一群と稱せられてゐる。例へばユニオンジャツクの旗幟に護られつゝ、上海や南京の中樞部で重きをなしたサースン財閥も、イラクのバグダッドを總本家として居り、倫敦に時めく土木大臣サースンも亦イラクからの流れとなつてゐる。

従つてアラブ國家主義的なイラク現政府もこの現實の經濟地力を無視する事は餘りに冒險とされ、結局パレスタイン問題に對してはその石油需給の誼みで英吉利政府へ精々働きかけ核力アラブ人へ有利に解決方を迫る程度を目標とせねばならず、汎アラブ帝國理想の實踐は好むと好まざるとに拘はらず當分棚上げて置かねばならない状態に在る。茲に伊太利側の汎アラブ親善工作の進出する餘地ありとも見られてゐるのである。

イラクとパレスタインとの中間に横たはるトランスジョーダンには往時の聖河ジョーダンの東部をなし東パレスタインとも稱せられた程で、問題のパレスタインとはイラク以上に利害關係深く且つパレスタイン解決策の三分割提案に際しても直接引き合ひに出される立場に在る。

従つてパレスタインに於けるアラブ・猶太抗争の深刻化は直接にも間接にも幾多の影響を感じしめられ、既に一九三六年の七月以來アラブ人警察隊及び國境防備軍はすべて豫備兵召集を行ひ戰時體制を施してゐる。

但しトランスジョーダンの戰時氣構への特異性は、外敵に備へる事よりもむしろ内部の動搖が重大視されてゐる事であらう。

即ち國王格の現太守と肉親の王太子との猶太人對策を繞る抗争激化によるもので、反猶太を高揚する王太子側の勢力が刻々に強化された爲めに、父王太守側の現政府の正規兵總動員とまで荒立つて來たのである。

猶太民族主義者はこのトランスジョーダンを廣義パレスタインの一部なりと主張し、このアラブ半獨立國たる英吉利委任統治領をせめて實質的だけでも自己の勢力範圍に引き入れんものとあらゆる機會を窺つてゐる。

そしてトランスジョーダンに於ける農耕可能地約四百十萬町歩を若し猶太殖民地とする事が出来るならば、現今各方面を惱ませてゐる猶太問題は困難なく解決され得ると彼等猶太運動の指導者達は強調してやまない。

トランスジョーダンはパレスタインの三倍に近い領域を占めてゐるが總人口も二十六萬にすぎず、密度の割合もパレスタインの一平方哩約百三十人程度に比し僅か九人強の現状を告げてゐる。

現太守のアブダラは歐洲大戰當時例のローレンスと協力したメツカのハツセン王の第二子であつたが、ローレンス達でさへもアブダラよりも第三子のフェイザルの方を相談相手とし、従つて戦後の分配も次第に多く、シリアを臨時に與へられ次いでイラクに封ぜられたのに較べ、その兄たるアブダラ

は漸く不毛地帯のトランスジョーダンに位階を與へられたにすぎなかつた。

土耳其帝國華やかにし頃のコンスタンチノール大學卒業てふ自負を持つ彼自身としては、全く不遇を感じつゝも英國當局からの年俸二十五萬圓によつて現状を保つてゐる仕末である。

數年前次弟のイラク國王フエイザルがスキスで客死した當時など、アブダラは愈々トランスジョーダンの太守からイラクの國王へ昇格するものと獨りぢめしたものであるが、イラク側ではその機會を與へず逸早くフエイザルの一子ガージを英吉利留學の中途から呼び戻し襲位となり、再びアブダラは失意の目に遭つたのである。

太守としてのアブダラには種々の批評が傳へられて居るが何れにしても彼は猶太民族運動の指導者達と親交もあり、猶太人の要求に應じてトランスジョーダンを解放し彼等の手により開拓させる事は強ちアラブ側の不利とはならないと云ふ意見を持つてゐる。然しアラブ民族主義者からそれを見れば、アブダラ太守はアラブ人であり乍ら不倶戴天の猶太人崇拜に憎しきつてゐると云ふ事にもなるのである。

アブダラ太守は私有財産として約八萬町歩からの土地を以前より持て餘し、只管その處分を希望しつゝあるとはアラブ主義者の指摘する處であるが、アブダラ太守は例へ相手は猶太人であらうとも土地を高く賣りつけて開拓させ且つその猶太地主を嚴重に統制する事こそアラブ民族として最も有利な得策であると躍氣になつてアラブ地主一致の贊同を得んものと努力した。

然し彼の長子タラアが先づ足許から反對の叫びを擧げ茲にトランスジョーダン國內情勢の不安が起きたのである。

王太子タラアは英吉利のハロウ校出身で二十五歳。あらゆる事々に手を出しすぎると云ふ評判はあるが父太守の猶太政策には徹底的に反對し、「若しこのトランスジョーダンを猶太人に解放するならば私は父を射殺する」とさへ會議の席上で大言を憚らなかつた。

この意見の相違に加へて父太守が去年五十二歳で、王太子タラアの反對する一黑人女とも敢へて結婚した對立感情も入り亂れ、それ以來トランスジョーダンのアラブ指導階級は二軍に分れ現太守の猶太利用派と、王太子の猶太絶對排斥派とがお互ひの間隙を衝かんと睨み合つてゐる。

そしてタラア派は主として山岳地帯に構へバレスタインのアラブ民族側と提携し、且つイラクの國家主義者と聯絡をとり尙又同じ回教國同志と稱して近來とみにアラブ民族との接近策に餘念のない土耳古をも後楯とし、以てアラブ民族の親英第一人者と自任するアブダラ太守派の掃蕩軍を巧みにそらせて進出の機會を窺つてゐる。

即ちこのトランスジョーダンにも、伊太利宣傳の舞臺が多分に曝されてゐるのである。

最近紅海の西沿岸エリトリアのマツサワを武裝強化した伊太利は、次いで紅海の東沿岸に延々と横たはるサウデイ・アラビア國に對し「回教派の味方伊太利」を強調し、その本山メツカを包含するイダン・サウドのアラビア國との親善工作を行ひ、以つて地中海につゞく紅海の統制權をも確保せんと

しつゝある。

然し乍ら勃興サウデイ・アラビアは歐洲大戰當時以來、やゝもすれば英吉利外交に後塵を吸はせた程近代のアラブ民族中着目すべき異彩を放つて居り、強ち親英國とは見做されない存在ではあるが、既にその新興經濟組織へは同じマホメットを奉ずる、回教國の埃及資本てふ姿によつて英吉利系統の資本が可成りに入り込んでゐる事實は看過出來得ないであらう。

且つこのアラブ國家には現在他のアラブ諸國に共通する猶太人對策の惱みも殆どなく、従つてパレスティン問題に對してもサウデイ・アラビアは比較的冷靜を保ち得る立場に置かれてゐる。

尙又イラクの現國王ガージの祖父でありトランスジョーダン太守アブダラの父であるハツセン王がメツカの王座から滑り落ちサイプラス島へ亡命させられた仇敵こそ、今や大アラビアを率ゐる彼イブンサウドその人であり、既に幾多の歳月を閲みしその恩讐感は薄らいだとは云へイラク並びにトランスジョーダンとサウデイ・アラビアとの三統治者の心からの提携は各自異つた對立的な過古を持つてゐるだけに無理な註文と云はねばならないであらう。

一九三六年秋パレスティンのアラブ總罷業が遂ひに武装反亂とまで惡化するに及び、四アラブ國家の統治者が連名で水を入れた事は當時近東の外交界に異彩を放つた。そのアラブ人四國家とは前記のサウデイ・アラビア（パレスティン領域の百倍大・住民約一千萬）イラク（パレスティンの約十八倍・住民約三百萬）トランスジョーダン（パレスティンの三倍弱・住民二十六萬）、及びエーメン（パレ

スタインの約八倍・住民二百五十萬）であつた。

エーメン士候國はイラク王國と同様に國內に猶太人問題の惱みを持つて居り、パレスティンの英吉利統治開始以來イラクとエーメンは呼應して合計一萬三千人の猶太人を自國からパレスティンへ移住せしめた程で、従つてエーメンはこのパレスティン問題に關する限りイラクと協同の行動を採らねばならない大勢に在るが、それ以外一般の政經問題に就ては地形の關係もありサウデイ・アラビアと一致の行動を必要としてゐるやうである。

而もエーメンに接續しアラビア南部海岸線一帯を占めるハドラマウト保護領は、最近英吉利領地としての統治が強化されアデン灣に對する英吉利の立場は甚だ積極的となつて來て居る、外況に備へる上から見ても、エーメンのサウデイ・アラビア提携策は絶對的なものとなりつゝある。

ハドラマウト英吉利屬領はエーメンとオマンを連鎖するにも等しい地勢を擁し、この地方に對する英吉利統治の強化はアデンの英軍港の補強工作に役立つものであるが、總人口二十五萬、妻君まで與へて優遇する正規兵七百の他一千三百の豫備兵が居り、兵士になりさへすれば砂漠地方の貴重飲料たる羊乳を妻子へまで支給される制度は、ハドラマウト特有のもので爲めにアラブ民族間でもこの地方は有名な存在とされてゐると云ふ。

上述の如く紅海に沿ふサウデイ・アラビアのヘジャス地方もエーメン國も同じアラブ國家ではあるがトランスジョーダンやイラクのやうにその對内問題は深刻化しては居らないのであり、伊太利とし

ても或ひは復興土耳其としてもトランスジョーダン及びイラクの方に幾多進出の間隙を見出し易いやうである。

従つて別言すれば英伊の地中海覇権を繞る角逐は、種々その抗争形態を變轉しつゝパレスティンに上陸しトランスジョーダンを過ぎイラクへ東漸し、果してそれが印度一億三千万の回教徒大衆を動搖せしむるか否かは各自の見解に委ねる處であるが、現今近東地方に於いて英伊進退の目標とされつつあるイラクのモスール油田を指して、既に四十年前彼の伯林・バグダット一貫交通策を以つて近東に臨んだカイゼルこそは近況に接し誠に感慨深いものがあるのであらう。

即ち英吉利としてはパレスティン騷擾の解決に際し稍もすれば猶太勢力に引き摺られ過ぎる事を極力警戒してゐるのではあるが、其處に多大の間隙を國際間に曝け出してゐる事は彼等自身も認めて居り今更獨伊側から國際管理案を稱導されても意外とはせないが、パレスティンは元來英吉利聯邦の一部に非ずと口先では云つてゐるものゝ歐洲大戰を通じ一萬に達する英吉利軍人の血を流した過古が常に潜在意識となつて居り、従つて容易に根本的な解決策を斷行する決意が得られないのである。

即ちそのやうな矛盾した苦惱がパレスティン問題の解決責任者たる英吉利側にあればこそ、アラブ民族を廣く刺戟し且つ全猶太民族不満の汎濫を招くに至り、以つて相對的な立場に據る伊太利側の地歩が自と築かれつゝあるのであらう。昭和十三年三月・國際知識及評論所蔵

六、英帝國を揺がすアラブ猶太鬭争

波立ち騒ぐ地中海争覇の立役者が英吉利と伊太利とである事は、最早知らぬ人の方々こそ尠いもの、それにも増して近代地中海を繞り重要な役廻りを占めてゐるアラブ民族の存在は兎角に看過され易い傾向に在る。

西班牙のフランコ將軍が破竹の勢ひで北上を開始した當時、その軍勢の要素を成してゐたムーア土民兵は云ふまでもなくアラブ民族の一派である。

又伊領リビア大地のアラブ住民は擧げて、東地中海沿岸の英吉利委任統治領パレスティンに於けるアラブ民族の被壓状態を激し、ムソリーニ首相へ實質的な蹶起を要請しつゝありと云ふ。

或ひは又佛蘭西保護領モロッコに於いても、それら西班牙問題に刺戟され、パレスティン問題に反撥するアラブ民族獨立運動が、フェズ（往昔ムーア王國の首都）を初め、海港ラバトやカサブランカ等と各地方を序曲を奏でつゝあり、茲許英吉利も佛蘭西も期せずしてアラブ受難と云ふ形である。

ヴェルサイユの平和會議あつて以來、パレスティンに於けるアラブ民族と猶太民族との睚み合ひは年中行事とされ、寧ろ騷擾問題が起されなかつた年の方が珍らしかつた程である。

その珍らしい平靜振り……實は無味な沈黙が數ヶ月間去る昭和十二年の上半期に互つて續けられた

のであつたけれど、七月に至り現地調査委員会による英吉利政府の所謂パレスタイン三分割處置案が發表されて以來、又もや暗愴たるアラブ猶太の拮抗はパレスタインのみに止まらず、地中海沿岸各地から近東地方へと擴げられてゐる。

形式上では國際聯盟から委任されてパレスタインを統治してゐる英吉利であるが、先づ砂漠の駱駝を一刀三斷しその頭部を自分が抱へ込み、胴體と前足二本の部分を猶太民族に與へ尻と後足二本の部分をアラブ民族へ押しつけて、萬事を解決しようと考へてゐる姿が即ちパレスタイン三分割案に於ける英吉利當局へ對して放たれた世評であつた。

其後遂ひに北部地方の猶太人執政官の暗殺、次いで首府エルサレムのアラブ人市長及びアラブ民族運動指導者に對する逮捕令が發せられ、或ひはイラク油田からの油送管線が襲撃され、一方又それを機會に進出せんとする所謂猶太ファシスト（猶太民族主義運動内の右翼にして修正派と自稱す）の青年部頭領の逮捕さへも傳へられるに至つてゐる。

その領域から見れば吾が四國地方と大差のないパレスタイン繞り、何故に騒擾が絶へず刻々その成り行きを重大視されるのであらうか。

即ちそれは信者總數二億六千萬と號せられるマホメット教を強甚な背景とするアラブ民族と、總人口こそ概算一千六百萬にすぎないけれど、彼等の財力實に世界の大半を制するとさへ稱せられる猶太民族との取り組みに加へ、英吉利外交の多角性が緩なし織り込まれ端なくも三角關係を暴露し、その

清算場所をパレスタインにのみ求めてゐる爲めに稱せられる。

元來パレスタインは歐洲大戰勃發直前までの四世紀の永きに互りオットマン帝國土耳其の一部を形成し、部分的には聖地死守傳統固持の正統猶太人も居住してゐたが、住民の大多數はアラブ人によつて占められてゐた。

處が猶太住民の方は今世紀に入つてより猶太民族主義運動の指導統制よろしきを得てその數こそ餘り多くはなかつたが、外國各地在住の猶太人は陸續としてこの祖先の天地パレスタイン目指し入り込む手順を次々と整へつゝあつた。

次いで歐羅巴大戰の勃發となり聯合國側は獨逸に組みした土耳其の實勢を殺ぐ必要に迫られ、且つ又英吉利一國自身としても印度に對する威信確保を期する爲め、近東地一帶の回教徒アラブ民族との提携を企てる事に躍氣となつたのである。

且つ又それと同時に英吉利及び聯合國側はその金融及び貿易支配の實力、世界に到ると稱せられる猶太民族から積極的な支援を仰ぐ事も是非必要とされてゐた。

それ故に強ち意識して二枚舌を行つたのでもなかつたであらうと思ふが、英吉利政府は危急の緊要に迫られて後日の難儀を顧慮する暇もなく、一つしかない座席に對しアラブ民族と猶太民族との二人へ豫約券を發賣して了ふやうな事態を惹起した。そして豫約領收金を何らかの形式でも還へす事なく、一つ席へ無理に二人を靜座させようとする爲めに問題は却つて大きな波紋を描いてゐるのである。

大正四年の十月二十四日、當時英吉利高等辨務官として埃及カイロに在つたサー・ヘンリー・マクマーンは、メツカのアラブ大守ハツセンが要望した條件通り新獨立地帯を其儘アラブ領土とする事を認めた文書をハセツン太守へ送達し、以つてアラブ民族が土耳其帝國に反旗を翻へし間接的に聯合國側へ協力せしむべく獎勵したのである。

然し乍らそのアラブ新獨立區域に對する解釋が甚だ明瞭さを缺いて居り、其後當のマクマーン高等辨務官自身も倫敦政府當局も對アラブ諒解區域内にはパレスティンまでは包含されてゐなかつたと主張し、それに反しアラブ民族側とすれば何ら特別に規定のなかつた以上、常識論からしてもパレスティンはアラブ新獨立地帯に包括されたものと確く自説を採つて退かないのであつた。

その紛争の種子が蒔かれた當時と前後して、猶太人側も逸早くワイズマン博士（現猶太民族主義運動の大御所格）の軍事的發明の代償として、陸相ロイドジョージから英吉利政府の對猶太特權容認の内約を獲てゐたのであるが、遂ひに大正六年十一月二日バルフォア英外相は公式に、「英吉利政府は猶太民族の母國をパレスティンに建設せんとする企てに賛意を表し且つその實現に向つて最善の援助を措しまぬ者である」と云ふ文書を、猶太民族代表としての倫敦ロスチャイルド家のロスチャイルド卿へ手交せねばならない破目になつたのである。

即ち是が後世猶太民族の虎の子とされた有名なバルフォア宣言なのであるが、それにはパレスティンに既に先住してゐる人々は例へ猶太人に非ずとも、すべての對等の保護及び權利を與へるやうにと

但し書きが記されて居た。

そして翌年に至り佛蘭西政府もこのバルフォア宣言支持を正式に表明し、次いで平和會議を経て舊獨逸領の諸地方が國際聯盟により各戰勝國へ委任統治と決した際にも、パレスティンのみは猶太民族の母國建設でふ特別條件が敢へて附隨させられると云ふ行き懸りに在つた。

次いで大正九年の七月一日、パレスティンは愈々正式に英吉利の治下へ入り、自由黨の領袖であつた英國籍猶太人たるサー・ハーバート・サムエルが選ばれて初代のパレスティン委任統治領總督に就任し、早速と同年の九月から向ふ一ケ年間に互り一萬六千五百人と云ふ大量猶太移民のパレスティン入殖を許可したのである。

但しアラブ現住民の方から見れば、遙々倫敦から來任の最高執政官が例へ歴然とした英吉利の國籍を取得してゐる人とは云へ、ライジングサン石油に關係の深い猶太色彩濃厚な政治家に相違なく、内心多大の不滿を感じてゐた處へ、矢次早とそのやうな大量猶太移民を現在自分等が住んでゐる土地へ入殖許可の取計らひを敢行された事として、パレスティンに於けるアラブ住民の憤慨焦躁は既にその頃から内面的に蔓延し遂ひに大正十年アラブ騷擾は表面化されを猶太大抗争の幕はきつて落されたのであつた。

流石の英吉利當局も其場で解決する事を得ず不穩を繰り返へし翌年に至り、「バルフォア宣言はパレスティンの全領域を猶太母國の再建用地として考慮したものではなく即ち猶太母國がパレスティン

内に再建され得る事を意味してゐたものである」と云ふ、限界のやゝこしい所謂チャーチル覺書を發表して漸く當座の鎮靜に成功した。

それ以來猶太新來移民は可成り小數に制限され、大正十二年から昭和元年まで合計約六萬七千名に止まりこの四年間は近代パレスタインとして珍らしくも表面平靜の裡に経過したのであるが、時たま猶太入殖民制限緩和の兆しに俄然アラブ住民側を刺戟して再び不穩状態に入つた。

程なくそれに押されて再び猶太移民數は嚴酷な制限を行はれたが、アラブ猶太兩住民抗争の禍根は既に深く強く植へつけられてしまつたのである。そして遂ひに昭和三年から翌四年へかけて、あの重大なパレスタイン反亂を誘發させてしまつた。

英吉利當局が容易に解決策を得られず苦しんだ事は現今もその頃も變りなく、漸くその翌年に至りサー・ジョン・シンプソンの現地報告に立脚するパレスタイン土地解決案なるものを官報紙上に發表したのである。

それは労働黨内閣の下に爲された爲めか、猶太人側へ對するよりも寧ろアラブ人側に多分の同情を寄せたものと評せられ、勢ひ反動的に猶太民族一致しての激烈な試案撤回運動の惹起を見るに至つた。詰りめ寄せられた英國政府もその鋒先の強さに窮し、遂ひにマクドナルド首相から書信の形式を以つて、猶太民族主義運動の首領たるワイズマン博士へ、先の官報所載のパレスタイン土地解決案を骨抜きする旨傳達せざるを得なくなつた。

然乍し昭和八年に至り、歐羅巴大陸の各地に澎湃として起つた猶太人排斥の風潮は、千丈の堤堰をも押し流す勢ひでパレスタイン目指し猶太移民の洪水を齎らした。

即ちその前年約一萬弱に制限されてゐた猶太新來移民數が制止線を突破し、實に三倍をも越す三萬三百餘人を算するに至り、次いで翌昭和九年にはそれにも増して四萬二千の入殖を見、昭和十年には無慮六萬二千に達する猶太新來移民がパレスタインへ入り込んでしまつたのである。

そして昭和十一年度の大騒擾のあつた直前ですら七ヶ月間に二萬二千と云ふ猶太入殖民があり、即ち近々五ヶ年間に十七萬と云ふ大量の各國籍猶太人がパレスタインへ新に落ち着いた譯で、このやうな移民の旺盛振りは同じ英吉利聯邦内に在り乍ら、移民實績の甚だ芳しからぬ大濠洲島邊りの當事者へも皮肉な示唆を與へたものであつた。

パレスタインに於けるアラブ民族の騒擾不穩はそのやうに從來も何回となく行はれてゐたのであるが、昭和八年以後特に昭和十年の一ヶ年六萬二千人を突破する猶太大移民群の來住に直面させられたアラブ人側は、最後の反撥振りを示し總ストライキのみに止まらず遂ひに完全武裝の反亂をも惹き起す程に事態は險惡化したのである。

統治者たる英吉利當局もその常駐兵力一萬では到底時局を收拾し治安を保つ見込立たず、二萬の増兵派遣をせねばならない程にパレスタインを繞るアラブ・猶太兩民族の睨み合ひは深刻の度を加へつつある。

現在パレスティンに於ける猶太住民はその數から見れば未だアラブ住民の三分一を越した程度に過ぎず、漸く二對一の弱勢に在る譯なのであるが、世界各方面に百戰練磨した猶太移民の來住に對しては、數こそ三倍近くのアラブ側も實質的には全く壓倒され勝ちとなつてゐる。

加ふるに經濟力豊かな猶太新來者達からせり上げられてアラブ富豪達は傳來の土地を喜んで手放して了ふ傾勢強く、アラブ大衆としてそれを見れば恰も自分の體内からさへも火を發したと同様で、狂氣の如くになつて猶太移民のパレスタイ入國禁止を絶叫せずには居られないのである。

大正十一年パレスティンに於ける猶太人總數は正統派及近代入殖派を全部合算しても八萬數千に過ぎなかつたのであるが、昭和十一年には僅に三十七萬臺を突破し、この十四年間の増加率は正に四十四割を示してゐる。一方アラブ側も同期間内に二十萬からの増加を數へ、新來住民だけの總數に就いては敢へて猶太人側と遜色はなかつたが、アラブ住民自體の膨脹率からすれば猶太膨脹率の比ではなく、即ち回教徒アラブ人の膨脹率は四割四分に止まりキリスト教徒アラブ人も四割九分程度の増加にすぎず、實に猶太人側の十分ノ一てふ劣勢比率に残されて來た。

換言すれば、大正十一年當時パレスティン總人口の僅か一割一分を占めてゐた猶太住民は、既に昭和十一年度に於いて全體の二割八分に到達し、程なく全人口の三分ノ一をも突破せんとする氣配歴然な現情を呈したのである。

それならばパレスティンに最近殺到した彼等猶太移民は、主として何處の方面から渡來したのであるか。パレスティンは現今未だに英吉利の治下に在る、従つて彼等猶太移民の大多數は云ふまでもなく英吉利から移住した者であらうとは何人も推察し易い處ではある。

然しそれは意外にも、英吉利國籍に在つた猶太移民は誠に少數で、大正八年から昭和十年までの十六年間にパレスティンへ入殖した猶太移民總數二十六萬人中の實に四割二分と云ふ十一萬まではすべて波蘭國から國替へした人々であつた。

このやうな變態的現象は波蘭籍猶太人のみに止まらず、パレスティン猶太移民數の第二位を占むるのがソヴィエト聯邦からの三萬人であり、第三位が獨逸からの二萬二千人次いでルーマニアの一萬三千人と、それら波蘭・ソ聯・獨逸・ルーマニア四ヶ國からの人々だけでパレスティン猶太移民の三分ノ二を受持たせられてゐたのである。

その他注目し得る處としては、イラク及びエーメンのアラブ二國家が共同して一萬三千の猶太人をパレスティンへ住み替へさせた事であらう。

獨逸からの猶太移民もナチスが政權を獲得するまでは殆ど問題の數ではなかつたやうで、前記の二萬二千名も極く最近の數年間に一舉殺到した人々であり、前獨逸籍の猶太移民は今やパレスティンの猶太民族間に於いて最も有力視されつゝある。

尙昭和十一年度の八ヶ月間に行はれた猶太入殖民の二割七分までは、やはりそれら獨逸からの人々であつたと傳へられてゐる。

パレスタイン未曾有の武装反亂と稱せられる昭和十一年度騒擾の直接動機は、その四月十五日パレスタイン北部地方のネーブラスに於いて一名の猶太人がアラブ人に殺害された事から起されてゐる。

然し乍らそれは單なるきつかけにすぎず、パレスタイン立法會議の創設以來既に數ヶ月間に互つて抑壓されてゐたアラブ人側の感情は既に尖鋭化しきつて居り、ネーブラス事件は全く燃え上らうとするものに石油でも注ぐやうな役目をしたのであつた。

そしてアラブ人側はエルサレム回教總監のアミン・フツセイニを指導者として、遂ひに猶太移民のパレスタイン入國に對する指定的禁止を要求し、先づ總ストライキより初め次いで武装反亂へと悪化しゲリラ戰を隨處に展開するに至つた。

彼等は同時に廣く近東各地及びアフリカ各地に於ける回教徒民族の大同支援を要請し、又パレスタインの統治者英吉利が稍もすれば不倶戴天の猶太民族側へ傾く態度を牽制すべく、その英吉利と對立の成り行きに在る地中海現代の雄者伊太利との提携さへも敢へて辭せぬと云ふ行動に移つてゐた。

一方英米に於ける猶太系の有力人民に強要せられたやうな英國政府は、三萬の英人軍隊を動員し強治安の維持に努力し、且つそれに前後してイラク・サウディアラビア・エーメン・トランスジョーダンの四アラブ國家の統治者も仲裁に入り、兎も角も半年後の十月十二日に至りパレスタインはしばしの平靜に歸したのであつた。

因みにその六ヶ月に互つた惡質なストライキは、約八百人のアラブ住民、八十人近くの英人兵士暨

官の生命を賭したものであつたのである。

次いで英吉利政府は例の現地踏査委員會を組織し、その委員達は三ヶ月に互りパレスタインに出張したが、この調査期間ですら猶太人の移民数は極力制限されてゐたものゝ、アラブ人側の要望通りの暫定禁止は斷行されなかつた爲めに、當初アラブ人側はその出張委員を拒否して話相手とならなかつた。然し根氣のよい委員側の態度と公平なる調査と云ふ強調に我を折り、結局猶太人側と同様にアラブ人側もそれ〴〵自己主張による資料を提供したのであつた。

そのやうにして造り上げられたものが、先頃再び問題を巻き起したパレスタイン三分割處分案なのである。即ちその大要は、パレスタインの地中海沿岸の大部分を區劃して純猶太人國家となし、トランスジョーダンと隣接する奥地の地方を現地のアラブ國家トランスジョーダンと合體せしめ且つ地中海への出口として一定の細い通路を興へ純アラブ國家を完うせしめ、但し聖地のエルサレムやベスレヘム及びナザレ等は特別區域として猶太にもアラブにも歸屬する事なく英吉利直轄の統治地帯にする

と云ふのである。

處がこの試案はアラブ側にも猶太側にも不評であつた事は勿論であるが、肝腎の英吉利自身の地元

に於いてすら頗る歓迎されなかつた。それは純猶太國の防備も純アラブ國の防備に對しても、英吉利が保證し共に防備の實を擧げると云ふ點が最も批難されたのである。

ツヒ然と構へさせ、又波蘭ならぬアラブ國の地中海向け廻廊をも新設し、却つて將來を複雑に導くやうな解決案なのではあるが、それ以外に格好な切り抜け策をどうしても見出せない英吉利の苦境は益益白日の下に曝らされるやうになつて來てゐる。

然し乍ら猶太民族側とすれば、當然にパレスタインに對する解釋は廣義なものであり、トランスジョーダンと現在稱呼されてゐる東パレスタイン及び、單にパレスタインと現在通稱される西パレスタインとの、ジョーダン河を挟んだ二地方を綜合した意味と主張されてゐる。

このやうな大パレスタインに母國再建の特權を二十年前に許與されて居り乍ら、今更それを放棄し西パレスタインのみの而もそれが三分割される一小部分だけに縮限されて了ふやうな事は、絶對に承服出來るものではないと云ふのが彼等今日の態度である。

それに反しアラブ民族側として見れば、マクマーン文書により宗主權及び居住權が公然と容認されて來たにも拘はらず、現在實地に居住するアラブ人百萬の生活が猶太新移民の來襲によつて根本から脅かされ、而もそれらを見ぬ事としてパレスタインでの不毛地帯と見做されてゐる地方へのみ今更引き籠れと強ひられては不本意ながら直接行動も敢へて辭せず斷然反旗を翻へし自己の立場を確保せねばならぬと云ふのが、彼等の胸中なのである。

尙茲に吾々局外者ですら看過仕難くなつて來てゐる事は、昭和十一年の騷擾以來その影響が單にパレスタイン内に止まらず、廣くアラブ諸國へも強く及ぼされ始めた情勢である。その第一は豊富な油

田を擁し英吉利と佛蘭西との需要を例の一千三百哩の油送管によつて引き受けてゐるイラク王國であり、既にメソポタミアと稱した往時から同國の經濟組織へ深く入り込んでゐる猶太人の實勢力を考慮してアラブ猶太提携を政策としてゐたアラブ穩健派が忽ちにして失脚し、今やアラブ民族主義強調の一派によつて統治されるに至つてゐる。

其他パレスタイン分割案により差し當りその範圍を増大する事となるトランスジョーダンに於いても、現在の統治者アブドラ大守は先づ猶太移民にアラブ所有地を高値で讓渡し巨富を收め、且つその猶太新地主達を統禦しさへすれば理想的であると云ふ意見の確信者であるのに對し、その長子タラアは猶太人絶對排斥を主張し、父太守の政見を妥協の權化とまで面罵し遂ひに一軍を率ゐて山岳地帯に據り、爲めにトランスジョーダンは猶太人との提携派及排斥派とに對立し、それ／＼互ひの虚を突かんとしてゐるのである。

従つてパレスタインに於けるアラブ人側は先づイラクを強固な後楯としてトランスジョーダンの反猶太派と聯絡を強め、又バリ放送局から強力な電波による伊太利の親アラブ工作と接し、或ひは又回教徒同士と云ふ名目により一役買ひたがつてゐるやうな態度の土耳其からの聲援をも辭せず、即ちその富に於いて英米當局をも動かし得ると評せられる猶太人側とは全く異つた背景を擴めて、自己の主張を貫徹せしめんとしつゝある。

然らばその兩者に對する英吉利自身の立場は現在どうなつてゐるのか。

二十年前ワイズマン博士に與へた口約及びロスチャイルド卿に手交したバルフォア宣言に含められた處の對猶太提携感も、又ハツセン大守に寄せた公文に盛られた處の對アラブ提携感も共に、それら何れをも存続せしめ且つ必要とする事は今日と雖も歐洲大戰中の當時と些かも變つては居らない。寧ろその頃よりも今日の英吉利としては一層に、對猶太及對アラブ提携の要を痛感するものと稱しても過言ではないのである。

支那に於ける「英國の威信」云々を自ら大聲するその事既に威信を失つたからこそその言動であるとさへ評せられてゐる今日、何れにしても落勢に在る英吉利が特に猶太民族の有する強大な金融の支持を絶對に必要とする事は勿論であるが、それと同時に刻々自分の手許から游離せんとする大勢の印度に於いて誠に頼母しい役目を果して呉れてゐる印度回教徒人民の親英熱をさまさぬやうにする爲めには、その信教マホメットを通じて印度回教徒大衆と關聯する處のアラブ民族の好感をも必要とする事は益々切實なものがある。而もそれらアラブ諸國の或る地方からは現代産業の血液とさへ稱せられる多量の石油が英吉利へ供給されてゐると云ふ、經濟的の要素さへも加へられてゐるのである。

即ち現今の英吉利としては、猶太民族の方は勿論大切であるが、アラブ民族の方も決して輕々しく見捨て難い因縁に置かれてゐる。それにも拘はらず近來やゝもすれば英吉利はパレスティン問題を繞り、英米在住の有力な猶太系人民の要望に引き摺られ易い傾向が多く、従つて一小委任統治領の裁斷如何にすぎないのではあるがパレスティン問題こそは多分に英吉利の弱點を曝け出してゐるもので

あり、爲めに地中海上に角逐する英伊抗爭ではあるが更にその局面を擴大しアラブ・猶太兩民族對立の姿に換へて、爭覇の舞臺を近東一帯に展開しつゝあるものと見做されるに至つた。

斯くしてパレスティン沿岸に打ち寄せる地中海の荒波は、近東砂漠地帯に龍卷を起し次いで印度洋に萬波を描き、やがては吾が日本海へもその餘波を及ぼす可能性を刻々に強めつゝあるやうである。

(昭和十三年一月・臺灣日日新報所載)

第六篇

自治領各地の趨勢

英領南阿の三人種とその大望

英領北米人の實相

佛系カナダの分裂運動

濠洲人と新西蘭人

濠洲政界の近情

英領西印度諸島の前途

溢れる印度の人々

印度の政情とその將來

一、英領南阿の三人種とその大望

英帝國の各自治領中、近來英本國が最も頼母しく感じてゐる南阿聯邦こそは、他の自治領が何れも英吉利系移住民に統治されてゐるのに反し、意外にも英吉利系ならぬ和蘭系の移住民に統治されてゐる事は些か皮肉でもあるやうである。

南阿聯邦に於ける在住民は主として黑人種通稱バントゥのブルー人、和蘭農民を祖先に持つポア人とそれから英吉利人によつて占められ、その内數に於いてはブルー人が絶對的に多く、英吉利人よりも遙に多數を擁するポア人が實權を掌握してゐる現状に在る。

ポア人の言語は和蘭語の轉化したもので俗に阿弗利加語とも稱せられ、南阿聯邦に於いては、この阿弗利加語と英語とが公用語として認められてゐるのである。

又ポア人と云ふ意味は彼等祖先が和蘭からの農業移民であつた通り、野人とか田夫とかの別稱に外ならない。従つて南阿の天地に時めくスマツツ將軍等の輝やかしい閱歴を持つ人々に對しては、例へ彼等が生粹のポア人であるにせよポアと呼びかける事は差控へた方がよいと云ふ事にもなる。但しそれだからとてその血統にさかのぼり彼等を和蘭人と云ふ譯にもゆかない。最早彼等はアムステルダムやヘーグよりも倫敦に一層の親し味を感じしきつてゐる今日である。即ち彼等自身としては、む

しる前途に富む阿弗利加大陸に生を享けたと云ふ事を誇らし氣にしてゐる状態であり、眞の阿弗利加人と自稱してゐるやうである。

そのポア人も精細に云へば和蘭農業移民ばかりを先祖にしてゐる譯ではなく、三割近くは十六七世紀頃の佛蘭西新教徒群の血が流れ込んでゐるのである。彼等ポア人が和蘭人特有の強情さ不撓さを享け繼いでゐる外に、その現住する大地へ強い愛着心を持つてゐると云ふ特徴こそは佛系祖先の影響であらうと見られてゐる。

ポア人一般は漸く近頃になつて教育に目覺めて來た程で、彼等は子弟を學校へ出すのを嫌ひ、常に農場内の雰圍氣だけで育て上げようとしてゐた。

然し乍らそのやうなポア人も一度教育されたとなると立派なもので、現にポア人の智識階級は英吉利人よりも卓越して居り、恐らく英帝國内の各地を通じて最も教養の高い人々であらうとさへ評せられてゐる程である。

一方、南阿聯邦に於ける英吉利系の移住民は、己れ自身達を「英帝國内に於ける孤兒」であるとしてゐる。それはこの南阿弗利加が彼等英人移民の爲めに獲得された筈であつたのに、いつの間にか實質的には再びポア人の國土と同様の結果となつてしまつた事を意味するに外ならない。

今日の南阿地方に於いて英人移民がポア人を眞に尊敬してゐる態度は容易に見受けられる處であり、彼等英人はポア人に對し、ポア人が英人に親しきを持つ以上の親しさを示してゐる。この一

事こそは南阿聯邦が英帝國內に在つて獨り、他の自治領とその歩みを異にする要點なのである。

云ふまでもなく南阿の天地は肉體的にも英人移民をよく育んだ、けれどその程度はボアール人には遙に及ばない。ボアール農民の或る者達は、野牛を押し戻す位に優秀な肉體をたゞへられるやうになつてゐる。

又前述の通り南阿地方に於ける英吉利人は、決して優勢な存在振りを示して居らない。その原因は幾多擧げられるが、英人移民は概して澤山の子供を持つのを好まない事もその一例で、充分に教育してやれるだけの見込がつかない限り、なまじ子供を持つては却つてその將來の爲めに可哀相だと云ふ見解に基づいてゐるものである。

それに反しボアール人の方は出産費すら不如意の場合でも、敢へて澤山の子供に取り巻かれるのを好む傾向が強く、従つて子供總勢一打程度はボアール人社會で餘り子福者扱ひされないのである。

且つボアール人は英人移民に比較して、肉體的に強く、又單純な食物で充分の勞働が出來ると云ふ強味を失つては居ない。とりわけボアール農民は彼等の飼育する家畜類より、僅にましなひきわり等に甘んじてゐる状態である。

然し乍らズールー等の南阿に土着する黒人種の、出産率はそのボアール人を遙に凌ぐ盛況を呈して居る。

彼等は主としてボアール人や英人移民の家庭勞働や走り使ひなどの單純勞働に備はれ、農村地方では

ボアール人英人達の子供の學校通ひに授業道具を捧持お供をしてゐるのが巨大漢ズールー人の姿である。南阿の婦人はボアール農民の女でも手を荒してはゐない、と云はれる程にズールー人の下男女中の供給は旺盛なのである。そして彼等は南阿地方にとゞまらず、全阿弗利加の如何なる種族よりも高い生殖率の記録保持を誇つてゐる。

濠洲の土着民アポリチニス族は殆どその跡を絶ち、新西蘭の土着民マオリ族も亦保護されてゐるとは云ふものゝ全滅に等しい今日、南阿地方に於いては全くその反對で土着黒人ズールー族達はボアール人・英吉利人の總數百六十萬の約四倍近い有様で、而も益々多産の壓倒的な大勢は齊しく現在の支配人種から警戒抑制の注視を受けてゐる。

一八二二年北米合衆國の奴隷開放運動の副産として獨立を與へられた西阿弗利加のリベリア黒人共和國の存在は別問題として、眞に自力を以つて太古の繁榮時代を再現し得る可能性に富む黒人種こそは、南阿のズールー族であらうとさへ期待されてゐる。それだけにボアール人や英人移民側として見れば、對黒人問題は深刻ならざるを得ないのである。

近來ズールー人には殊の外學習熱があり、その子供達は敢へて強制する必要もなく學校へも喜んで行き、又年寄までも子供の本を取り上げて習ひ取らうとする状態を示してゐる。要するに教へさへすれば、彼等には容易に學び得る能力が潜在してゐた點を近來の事實は明白に物語つてゐるやうである。それ故に彼等は益々敬遠され永久に單純勞働に釘づけされやうとしてゐるが、ボアール人や英人自身

が果して永久に熟練労働の分野を守りつゞける事が出来るかどうか、多大の疑念なきを得ない。

又例へそれがボアー人の眞似にせよ、ズール人と雖も日曜日には白いカラーさへ用ひる程になつて来た。そして週日には古服を纏つて立働いてゐるが、その服装の下にはボアー人も顔負けするやうな立派な體軀が包まれてゐる。彼等は勇敢であり人間業も及ばぬ力量を有し、辛苦に對する忍耐性が甚だしく強い。そして反動的に時としては、非常に残酷であり得る本性を有してゐるとも評せられてゐる。

そのやうな譯で現在南阿の支配者の位置に在るボアー人も英人達も、ズール人に武器の所有を認める勇氣は夢にも持ち合さないのである。即ち同じ恐怖の悲鳴にしても、濠洲の自稱神聖白人は外部問題に對してとあり、南阿の白人達のはそれと反對に内部に於ける自己存続の難問題に脅やかされる爲めと云ふ興味深い相違を持つてゐるものである。

ボアー人は彼等の祖先がこの南阿に入殖し初めて以來、先住ズール人に對して片時も鞭を手放した事がなかつた。そしてボアーより遅れて入殖を開始した英人は、例へボアー人に對する牽制的な意圖が含まれてゐたとは云へ、寧ろ事毎にズール人庇護の立場に廻つて来た。

それにも拘はらず肝心のズール人の方では英人よりも鞭を振りかざすボアー人に對して一層の親しみを感じてゐる。或る人はそれを評して、自稱「白人の先鋒」ボアーは英人移民より日焦けし、もつとズール人黒人の阿弗利加色に近くなつてゐるからだ云つた。

それ程に極端な事もなからうが、英人移民は常に一定の上位を保ちズール人を近寄せないのに反し、ボアー人は氣嫌のよい時にはズール人と何時間も膝を交へて笑談を交す特性が然らしめてゐるものと見られる。

又ボアー人は宗教心が強いけれどもそれと比例して鬭争心も非常に強く、例へば歐洲大戰當時東岸のタンガニイカ・西岸の西南阿弗利加に於ける獨逸軍を容易に掃蕩した南阿軍たるボサー・スマツツの兩ボアー將軍に率ひられたボアー人兵の勇敢さ、或ひは數年前の反亂ストライキに動員召集されたボアー農民は却つて英人系の兵士や警官よりも相手方に怖れられた事などが擧げられてゐる。

數に於いて壓倒的なズール人達の黒人群に對し、ボアー人も英人移民も甚だしく帝國主義的色彩を帯びてゐる事は當然でもあらうが、就中ボアー人の目標とする處はかの南阿弗利加に於ける英人移民の先驅者セシル・ローズの影響感化を吾がものに取り入れ、ボアー人の阿弗利加統一の爲め出來得る限り英本國を利用せんとするに在る。

この間の事情は先年の戴冠式會談に際しても領けるもので、他の自治領以上に強硬な英帝國主義を主張したのは南阿政府に外ならなかつた。

一方英本國としても共存の立て前へからして其處に南阿聯邦を利用し得る途が横たへられて居り、従つて最も頼母しき自治領と云ふ譯にもなり得るのである。

又南阿聯邦の特異性は二つの首都を擁する點にも表はれて居り、議會は會つて英人移民の上陸地た

りしケーブタウンに、政府はボアー人の共和國たりしトランスヴァール州の首府プレトリアにそのまま繼承されて来たのである。

彼等ボアー人は曾つてのトランスヴァール共和國及びオレンヂ自由國を本據として、喜望峯州・ナタール州の合體する南阿聯邦を支配するに至り、今やスワジランドを吸集し英自治領の南ローデシア及び英保護領の北ローデシアの併合を策し、大阿弗利加統一の宿望に向つて着實の歩を進めつゝある。従つて彼等南阿政府の統治下に在る舊獨領西南阿弗利加などは、例へ國際聯盟からの委任形式によるとは云へ、獨逸へ返還する事を夢想だに考へて居らず、又英本國の受託統治による東阿のタンガニイカの返還に就いてすら彼等は躍起となつて阻止につとめてゐる。

曾つてダーウキンは、南阿弗利加こそ世界人類の發祥地であると叫んだ。又セシル・ローズは南阿を基準としての、白人阿弗利加統一を絶叫した。けだし金鑛と肉體的健康の天地南阿弗利加は、それらの槍舞臺としてふさわしいものであらう。

南阿の一角ケーブタウンに昂然と屹立する巨像セシル・ローズは遙か北邊を指示し、「諸君の内地は彼方に在り」と激勵しつゝある。これは當時彼が、英吉利同胞に向つて高調した一句であつた。然るに未だ半世紀をも經ずしてローズの期待した英人移民の使命と位置は、いつのまにかボアー人に取つて換られてしまつてゐる。

このボアー人が果してよくローズの白人阿弗利加統一の厚望を實現し了はすものであらうか。或ひ

は英人移民がボアー人に置換せられた如く、時代の變遷に押され彼の「諸君」とは即ちズールー黒人を意味する前途が到来するであらうか。

それは只管神の、公正なる解釋に期待すべきであらう。

二、英領北米人の實相

近來一時的にもせよそのやうな傾勢は影を潜めてゐるが、曾つては英自治領の旗頭たるカナダ聯邦を初め英領ニューフランドも又それに統轄されるラブラドー半島も齊しく、今にも北米合衆國へ合併するものと見做されてゐた。

就中カナダ人自身ですらも、カナダは名義上のみ英吉利國王の統治形式を保つてゐるものであり、現實には米國の北邊擴大線にすぎないと云ふ意識が相當に強められてゐた。

勿論それには可成り多くの理由もあつたやうで、卑近な例を挙げれば即ち、カナダ貨幣は英本國のと全く異なる米國風でありその對外爲替相場も米弗と殆ど同一水準の足取りを示してゐる程に、英本國よりも米國への經濟關係が密接であると云ふ事が先づ第一に數へられる。又英國風に見受けられないやうなカナダ都會地に於ける高層建築なども米國風の強い感化を示すものであり、一般の住民様式も主として米國風に則り極端な主婦本位に簡易化され、食事時間も勢ひ英國風の悠長な氣分は餘り好ま

れない。

映畫の類ひにしても肝心の本國英吉利や佛歐西物は尠く合衆國物が壓倒的に多く、従つて外來の社會的影響は殆ど米國そのまゝとも稱せられる事々が指摘されてゐる。

然し乍らその反面に、彼等は米國風と批評される事を決して喜ばず、むしろ英國と何らかの因縁を結びつけられるのに誇りを感じると云ふ特有な心理を持つてゐる點を見逃してはならないであらう。

尙餘事ではあるが米國人でさへも一應の衣食が足りるやうになると、英吉利古代好みの家財道具を欲しがる者や、一歩進んで英吉利舊家の系圖譲り受けを希望する者が相當にある。さういふ種類の米國人が如何に多いかと云ふ事は、倫敦の大英博物館圖書室を一瞥すれば領けるものであり、平民的な聞き高い米國の人々として誠に意外な一端と云はれやう。その圖書館では彼等の秘命を體した多くの系圖専門のプローカーが入れ換り立ち換り、名にし負ふ萬巻の古書を漁り廻つて格好な系圖調べに血眼の有様を呈してゐる。

けだし尙古心の發露であるのかないのかは別問領として、米國の人々でさへそのやうな工合であるから、米國よりも移住民人種が交雜して居らず純英吉利系統に近く、又米國よりも對英關係の深いカナダ方面の人々が、例へ強い意識はないにせよ英國風と稱へられたい心持ちは當然の事かも知れない。

「カナダの奥地ではスコッチ訛りの方がパスポートより役に立つ」と云はれてゐる位ひに、カナダ方面には英吉利島でもとりわけ雪や寒風に慣れた北部のスコットランドからの移住民が多いやうであ

る。

又西部のカナダと米國との國境無防備地帯に繁茂する特有な灌木に對し、カナダ側のアルバータ州では奈翁擊破の英吉利名將ウエリントンにもちつてウエリントンニアと通稱し、米國側のモンタナ州では反英獨立の覇者ワシントンにもちつてそれをワシントンニアと名稱してゐる。即ち同じものに對する名稱の國粹的な相異の好一對であり、この事などは常にカナダの對米合併否定論者に引例されるやうである。

カナダは自然の大地それ自身既に特異性を持つて居り、恰も粗朴な獨自の立場に據りこの國はこの國だけ一人ぼつちで立ち上つてゐると云ふ感じを示してゐる。この姿こそ歐羅巴北邊からの移住民を、獨占的に引き寄せてゐる魅力のカナダに外ならない。

茲に吾々は英領の北米人と北米合衆國人との差異を明確に察知出來得る。即ち自然の壓迫を耐へ忍びつゝ前進する者と自然の援護に努力の拍車をかけて前進する者との差違である。

數年前北米大陸を襲つた金融恐慌は幾多の米國銀行を破綻に導いたけれど、カナダ方面の銀行は些したる動搖すらも示さなかつた。勿論米國とカナダとはその銀行組織も異り、又銀行家氣質と云ふものも異つてゐる所爲もあるが、それはとりも直さず派手な米國人と地味な英領北米人との舞臺裏が公開されたにすぎなかつたものである。

従つて米國及びカナダ等の英領北米の有する風土的自然條件の差異は、例へその移住民が歐羅巴の

南北何れからの方面より入殖したにせよ、計らずして伊太利・西班牙的な米國人とノールウェー・スウェーデン的な英領北米人との今日を造り上げたこと云ふ事が出来るやうである。

米國に比較すれば英領北米の各地は遙に人間個別の持久力が物を言つて居り、又それらの天地へ米國と對應の文化を築き上げるには實に、米國が今日を獲る爲めに拂つて來た努力に幾層倍する努力を傾倒せねばならない程不利な自然に押されてゐる。

この傾向は英領北米の諸地方でも、ニューファンランド（吾が本州の約半分・人口三十萬）が最も甚しいやうである。ニューファンランドはその名も示す通り、英吉利が海外に獲得した最初の天地であり、英帝國中最も古い殖民地であつた。

彼等ニューファンランドの移住民達は、英領北米への佛蘭西勢力の侵入を或る程度に喰ひ止める役目を果して來たと云ふ誇りを持つてゐるが、殊に一八六七年カナダの英領化確立以來は肝腎の英本國からも疎かに待遇されてゐる。

海豹や鱈の北洋漁撈がその住民の九割を占める職業であるが、數年前三季節もつゞいて不漁に遭ひ且つ世界不況の重壓を蒙り、爲めにニューファンランドの財政は殆ど破滅に瀕した。それにも拘はらず遂ひに英本國よりの財政援助も乞はず辛うじて辻褄を漸く合せて今日に及んでゐる。

そのやうな氣風はカナダ人にも見受けられる處で、彼等の内相當多數の人々は失業補助金をあてがはれるよりは飢餓の方がましだと云ふやうな、餓くまでも自尊心の強い頑固さを持つてゐるやうであ

る。

古來白雪のカナダを幾度となく眞紅に彩つた英系移民と佛系移民との覇權闘争は、既に久しいものである。現今でさへ佛系指導者達は佛蘭西系カナダ人民を糾合して獨立を計り、東部カナダの米國を境ひする聖ロウレンス地方のカナダ分離に次いで、カトリック教を背景とするラレンシア共和國の結成を目標に、運動をつゞけてゐる。

カナダには佛系カナダ人専門の學校があり、新聞があり、そして佛系カナダ人だけの文學さへも生れてゐる。それにも拘はらず佛系カナダ人は、決して佛蘭西式の小黨群る新共和國の結成を希望しては居らない。

カナダとても入殖して定住する以上、彼等の家である事には相違ない。而もカナダの大地は彼等佛系カナダ人を、佛蘭西に於ける佛蘭西人よりも遙に強健なものに導いた。従つて佛系カナダ人はその好むと好まざるとに拘はらず不知不識の裡に、佛蘭西人よりも一層カナダ人そのものに變化してゐると見るのが至當であり、この傾向は今後益々強化されるものと稱しても過言ではなさそうである。

カナダを初めニューファンランドもラブラドーもその將來に多大の自信を誇つてゐる。就中カナダは、萬事永い前途を見つめて敷設行動を進めて來た。

例へば差し當り殆ど必要もない鐵道網が、將來の開拓繁忙の時に具へて、既に四萬哩も敷設すみの状態である。又中央の未開地方には幾多未來の都會敷地が區劃され、上水下水大道は勿論歩道さへも

先んじて施設を了へ、専ら移住者を待つと云ふ調子である。

カナダ人は米國を稱して機會と云ふものに築き上げられた國となし、自分達のカナダは忍耐に築き上げられてゆく未來の國土であると高調してやまない。

彼等英領北米人の自慢話の材料は三大洋に接してゐる大自然の外に今一つある。それは歐洲大戰前後を通じて英本國に於ける保守黨の第一人者となつたボナー・ロウの事である。彼はカナダ東部地方のニュー・ブランズウィックに産ぶ聲をあげ、幼にして大西洋を渡り祖先の故郷スコットランドを地盤にして母國政界に乗り出し、大戰中から戦後にかけて殖相・藏相・首相の要職を歴任し、一方一九一一年から一九二三年の六十五歳で病没する直前まで、同じ保守黨でもカナダならぬ本元の英吉利保守黨を首領したのであつた。けだし自慢の一つとされ、カナダ人の鼻を高くさせた事は無理もないのだつた。

その外にも英領北米人は、まだ自慢話を持ち合せてゐる。

即ち歐洲大戰に際し英本國が危急に墜ち入つた時、英帝國の諸邦中眞先に馳せ参じたのが彼等カナダ人でありニューファンランド人達であつたのである。歐羅巴大陸に砲聲が鳴り初めてから二ヶ月をたぬ内、既にカナダ第一軍やニューファンランド第一軍は大西洋を渡つてゐた。

歐洲戦開始の直前にカイゼルは、英吉利の背後をなす各自治領殖民地の人間力は考慮する必要もないと云ひ放つてゐた。然しその言葉は獨逸軍の體驗によつて、果敢なカナダの人間力は例外視せねば

ならないものとなつた。平和克復後英帝國は自治領諸國の聯合國體と變轉し、とりわけカナダは他領に比較し英本國と優位の關係を保ち、オッタワ會議には他領を壓倒し英本國との密接關係を残る處なく利用し効果を充分に享受した。

然し乍らそのオッタワ協定もカナダ方面の歓迎する處であるから、當然に他の英帝國內各領の齊しく又歓迎するものとは云へなかつた。カナダの満足に反して濠洲の不满・印度の反對・英本國の内紛等々を招來した事は、世上明白な成り行きであつた。それに反し若し他領諸邦に有利なオッタワ協定であつたとしたなら、カナダは當然に不滿な結果に直面させられた筈であつた。

このやうに英帝國內に於ける本國各自治領殖民地の利害不一致さは、今更乍ら各自治領等の工業國への進展を斷乎中止せぬ限り望まれぬ大勢に在り、吾々の對英帝國意識は須らく既に各自治領殖民地を率ひる英本國から、スカンディネヴィア・アルゼンチン近くは南方支那に實質的な歩道を確歩せんとする英本國へと塗り變へられて居らなければならぬ。

ニューファンランドには古來「全員一緒に爲さねばならぬ」と云ふ格言が尊ばれてゐる。然しその全員一緒にの範圍は昔と必ずしも同形ではなくなつた。又カナダ軍の標語にも「一致は勝利」と云ふのがあるが、この一致てふ意味も刻々に英帝國一致から英領北米だけの一致に内容的な變化を示しつつある。

即ち最早現代のカナダやニューファンランド等の英領北米人は英帝國に於ける英領北米人ではなくな

つて居る。勿論米國に於ける英領北米人でも有り得ない。云ふまでもなくカナダのカナダ人であり、英領北米の英領北米人てふ認識が強められて來てゐるのである。従つて將來のカナダ・將來のニュー・フランド等は、必ずそれを基調として萬事が表現されるものであらう。

三、佛系カナダの分裂運動

昨今、下剋上と云ふやうな事が云はれてゐるがその言葉は正に、母國である筈の英本國を逆に指導するかの態度を事毎に示してゐる英自治領カナダ聯邦に當てはまるものであらう。然しそれ程オツクワや倫敦に於ける英帝國會議などで獨自の勢力を發揮するやうになつたカナダにも、その内部には親英派の保守黨や親日米派の自由黨に共通する惱みが強められて來てゐる。

即ち何代となく引つゞきカナダへ入殖した佛蘭西の系統をひく人民達により重要な國內運動が昂められてゐる事は、諸外國は云ふまでもなく肝腎の英帝國總元締めである英吉利に於いてすら一般には餘り知られてゐないやうである。

處がこの運動は世間の注視が他方面に集注されてゐる間に刻々とカナダ全洲へ影響を及ぼし、特に日本の關東地方にも相等するクエイベック州内に於いて最も勢力を増大しつゝある。

その地方に於ける佛蘭西系のカナダ人民達は、彼等だけの青年團諸機關を組織しカナダの現行國語

たる英語を殊更に用ひず佛語の新聞を發行してゐるが、それ以上に注目を要するのは彼等佛系カナダ人獨立運動の背後に、英吉利の國教である新教チャーチ・オブ・イングランド派に對抗する舊教カトリック派が構へてゐる事であらう。

彼等はカナダに於ける佛系人民を糾合して獨立を圖り、北米合衆國と境をなす聖ロウレンス河岸一帯に、カトリック教を國教とする「ラレンシア」新共和國の結成を目標に進んでゐるのである。

彼等には人文的に地理的に宗教的に異なる各州を、敢へて一單位として保持する現情カナダの不合理を説き清算分裂の當然さを強調してゐる。

佛系カナダ人のみの天地ラレンシアと叫ぶ豫定の新國家が實現するとすれば、そのやうな譯で勿論舊教國に相違なく世界の舊教を信好する各國の政策必ずしも一致してゐるとは限らないが、現在クエイベック州に於いては教會側が主となつて教育・出版・佛系労働組合及び社會一般の公序良俗の類ひに至るまで統制してゐる點に徴して、或る程度まで豫定新國家の動向も察知出來得るであらう。

且つ又彼等は民主主義を非とし議會政治は當然に國勢を内争の爲めに浪費させ易い政黨の存在を必要とする缺陷ありと評し、同時に共產主義の物質偏頗に反對を表示してゐるやうである。

尙産業の諸部門に對しても亦町村自治に對しても精神的とは云へ、統制一致を強硬に主張してゐる點から察して相當中央集權的でファツショ臭ありとも解されるが、この點に就き彼等運動首腦者達は州權の集中を圖る事によつてカナダの部分々々の分裂獨立を一層容易にさせる爲めであると稱して

ゐる。

佛系のカナダ人民はかのエチオピア問題に際しても、徒らに英帝國の屋臺を維持するのみであるとの見地から、國際聯盟に於ける伊太利掣肘案にカナダ政府が合流する事を強硬に反對したものだつた。但し彼等と雖も、故國佛蘭西に於けるフリーメイソンとは相容れない立場に在ると云ふ。

又彼等佛系カナダ人が英帝國の治下に在るのを快しとせぬ事は前世紀からの因縁であり、從來例へ一七七六年の米國獨立抗爭・一八一二年の英米戰爭・一八六七年カナダ自治領の確立等、重要な變化に際し恰も彼等は常に英吉利主權に忠順であつたかのやうに見えるが、實際には或る時は彼等移民の生存上やむを得ざる爲め或る時には政治的方便により又或る時には佛系人民の獨立を有利化する將來の爲めにさう云ふ態度を採つたものに外ならなかつたのである。

眞底から英吉利統治に對して忠實であつた事は恐らく絶無と稱せられてゐる程であり、佛系人民のカナダ聯邦よりの分裂……ラレンシア共和國の誕生は結局時の流れによつて解決される運命に在るやうである。(昭和十二年七月・臺灣日々新報所載)

四、濠洲人と新西蘭人

濠洲島が歐羅巴人の知る處となり、新和蘭と名稱されたりしてから既に三百三十餘年。其後英吉利

の領有に歸しボタニー灣に於ける英吉利囚人の強制移住を手初めとして、積極的な英吉利殖民が開始されてからでも最早百七十年に垂んとしてゐる。

當時濠洲島三百萬平方哩の大天地(吾が日本全土の約十二倍)を、獨り吾が物類に安住してゐた土着民アポリヂニス族は、今や濠洲人口六百七十萬の僅か一分にも足りない六萬を數へて居り、かすかにその名残りを止めるにすぎない状態である。

彼等は何故に衰退したか、後進移民の壓迫もさる事ながら、同種族お互ひに争ひ合ひする習慣を容易に改められなかつた要因も見逃せないやうである。

濠洲島の原住民アポリヂニスは一説に世界最下等の人種とも評せられてゐるが、肉體的に見れば背高く骨格秀いで、又視力特に優れ獸物の足跡をたどり探す術などはアメリカ印度人達よりも遙に鋭敏であると云はれてゐる。

一般の濠洲人亦體格優れ視力も土民に劣らぬ高標準を保つて居り、それらは濠洲の清新な大氣や青天の下に恵まれてゐる爲めと見られてゐる。自稱白色濠洲人の視力はそのやうに優秀なものであると云ふ。けれども遺憾な事にはそのよい視力も單に現物の皮相を觀察出來得る程度に止まり、大濠洲百年の前途などは到底に見通しきれない模様である。

來る一九四〇年は新西蘭にとつても記念すべき年であり、丁度百年前のその年から英吉利人とりわけ主として英蘭人の移住が大量的に、それらの諸島へ向つて開始されたのであつた。

然しその入殖當初は濠洲と異り、可成りの困難や支障が横たはつてゐた。即ち濠洲土着のアボリチニス族よりも遙に進化したマヨリ族が既に、島内各地に根強く居住してゐたのである。けれども新西蘭の土着民マヨリ族も結局は濠洲島の大勢と同様に後進移民に押され勝ちとなり、現在では新西蘭總人口百六十萬中の五分にも充たぬ七萬臺を漸く維持する有様である。

マヨリ族もアボリチニス族に劣らず、背高くスポーツ向きの體格の所有者として有名であり、それに感化された譯ではなからうが一般の新西蘭人も濠洲人相等の肉體を誇つてゐる。

濠洲人・新西蘭人の共通してゐる特長は幾多あるが、野外運動或ひは野外競技などを非常に好む點はその尤なるものであらう。それは兩自治領とも氣候に恵まれ、夏冬何れの季節でさへも野外運動に適してゐる爲めと見做されてゐる。

就中濠洲人は甚だしく同じ英自治領中でも、「カナダ人は仕事第一・濠洲人は運動第一」てふ相對語さへ存在してゐる程である。

又濠洲でも新西蘭でも多くの人々は、富豪に大飛躍をしようとは考へても居らないようである。但し強行労働は相當にするが、それも暮しに困らない程度の隠退を早く實現したいと云ふ希望の表はれに過ぎないのである。彼等大多數の理想とする處は、全く自然淘汰されるやうな時機に至つて隠退するのでは凡そ意味ないと云ふ事になつてゐる。

又濠洲も新西蘭も兩自治領とも歐米の先進國に比較しては、將來はいさ知らず現在に於いては富豪

が尠く且つ貧民も尠く、富の配分が適當に行はれてゐるやうである。

従つて紳士氣取りも餘り流行らず、人間同志と云ふ平等意識が強い。但しこの人間平等觀は彼等濠洲自治領人民の仲間内だけに限られてゐる平等である事を、吾々は誤解してはならない。

彼等の所謂條件付き人間平等觀は面白い方面にも表はされて居り、例へば世界的に有名な人々が濠洲に上陸しても決して立往生するやうな花火的な歡迎は期待出来ない。寧ろそれらの外來者が内心不満に感ずる程、彼等は高官や人氣者に對して冷靜である。

又風變りな例として、數年前當時王太子であつたエドワード八世前國王が、或る濠洲人と握手されてゐる寫眞を撮られた事があつた。すると頭の悪からぬ濠洲の寫眞屋が國王握手の半分を利用して誰彼の資格も差別もなく希望者の寫眞を撮つては、國王握手寫眞の半分に繼ぎ足して替へ玉寫眞を大量に生産したものである。

「エドワード前國王と握手する」の寫眞を誇らし氣に掲げてゐる濠洲人が案外多いのは、さういふ舞臺裏があつた爲めで日本は勿論英吉利本國に於いてもそんな寫眞屋の存在は斷じて許されないのであるが、其處に濠洲自治領の態度及びその人民の特異性を察知せしめられるであらう。これなどは彼等濠洲人の有する人種平等觀の一端とは云へ、頗る變態的な表はれでもある。

濠洲社會も新西蘭社會も非常に民主的である事は、植民地氣質の通行性として強ち珍らしくないかも知れない。英本國に第一回の労働黨内閣が出現した時などは、「裱英吉利も遂ひに平服となり吾等

と行を共にするやうになつた」と評し、大いに拍手を惜しまなかつた程である。

英帝國內の各地を通じ、婦人参政權を眞先きに實現させたのは本國の英吉利ではなく、最小自治領（と云つても吾が本州と九州との領域に等しい面積を擁してはゐるが）たる新西蘭であつた事は何人も意外とする處である。

前世紀末既に濠洲に於いては、「社會主義政策を吾等の時代に」てふ標語が幅をきかせてゐたと云ふ。その所爲か今日の濠洲聯邦は英本國を凌ぐ程に労働者庇護の法令が多いやうである。けれども彼等濠洲や新西蘭に於ける労働黨は英吉利の労働黨にも劣らぬ温健さを持って居り、列國の社會主義政黨とはその内容に於いて甚だ異つてゐる點に吾々は留意せねばならない。

因みに先頃倫敦で開催された英帝國會議に代表として出席した新西蘭首相が、労働黨首領である事はその適例の一つであらう。

カンガルウが濠洲島の代表的動物である事は餘りに有名であるが、肉食をせぬ温和なカンガルウを濠洲動物中の第一位に取扱つてゐるその事即ち濠洲人の温和振りを示す好箇の一例であると、濠洲の人々は誇稱してゐるやうである。

然し乍ら一度眼を濠洲聯邦の對外貿易に轉すれば、その濠洲人の自讃カンガルウ氣質は脆くも否定されざるを得ない。實に濠洲島總輸出の五割五分と云ふ過半数が、可弱い羊の毛や肉に依存してゐる現情こそは何としても秘せない事である。

世界で紅茶を最も多量に飲用する國民は、と問へば恐らく十中の八九人まで即座に英吉利と答へ易い。處が意外にも人口平均割の消費量は、濠洲や新西蘭の方が遙に高率を示してゐる。それに反比例して濠洲人の麥酒類飲用量はその領域を紅茶に奪はれて餘り多くはないと云ふ。従つてこの點だけに濠洲人の自稱する通りなカンガルウ的温和性を認めてもよさそうである。

現代の濠洲人と新西蘭人とは如何なる差異があるのであらうか。何れも英吉利人を祖先としてゐる事には相違ないのであるが、内容的には強ち同一視出来なかつたのである。即ち濠洲へは同じ英吉利でも、主としてスコットランド・ウエールズ・アイルランド地方からの移住民が多く入り込んだ。それに反し新西蘭の方へは、主としてイングランドからの移住民が多かつたのである。同じ英國人には間違ひない爲め、このやうに移住民が地方的に異つてゐる事なぞは何でもないやうに外部からは見られ勝ちである。

然し乍ら同じ英吉利諸島でもイングランド人とスコットランド人とウエールズ人及びアイルランド人とは、人種と云ひ言語と云ひ習慣と云ひ宗教と云ひ強ち同一ではないのである。とりわけアイルランド人の大部分は既に十五年前自由國を結成して英本國から分離し去り、先頃の英帝國會議へは頭として代表を送らない程にイングランド拒否の氣分を濃厚に持つてゐる。

又スコットランドには今日猶スコットランド獨立黨が存在してゐる始末で、ウエールズも地方によつては「ゴッド・セーヴ・ザ・キング」の英吉利國歌が歌はれないと云ふ有様であつた。

この實勢から推して、英吉利諸島に於ける被壓迫人種となつてゐるスコットランド人やウェールズ人やアイルランド人を主として構成された子孫濠洲人と、征服人種であるイングランド人を主として成り立つた子孫新西蘭人との間に自然と差異のある事はむしろ當然な話である。

但し近來兩自治領への入植移民の人種色分けは、漸次混合される傾向に在る事も全然見逃す譯にはゆかないであらう。その好適な一例は新西蘭の現首相サベツデで、アイルランドからの濠洲移民を祖先とし彼自身亦濠洲に産れ乍ら三十年前新西蘭へ住み替へた過去を持つてゐるのである。

曾つての支那は濠洲上陸を試みた。それは濠洲島西北部の金鑛に魅力を感じた爲めと評せられてゐる。黄色人種は常に黄色金屬に魅了されてふ彼等濠洲人独自の筆法により、支那に次いで日本が彼等から目の仇扱ひにされるやうになつたものである。

爾來幾十星霜彼等濠洲人の疑惑の眼は絶へず新嘉坡の彼方北方遙かに注がれつゞけた。處が餘り外面ばかりに氣を奪はれてゐる裡に、いつしか大事な足許の弗箱たる羊群が或ひは近い將來に失業させられるかも知れない事態が勃發して來たのであつた。即ち復興獨逸に於ける綜合羊毛工業の躍進それであり、云ふまでもなく合成羊毛の出現こそは濠洲をして非常に焦慮せしめつゞある問題なのである。

濠洲及び新西蘭は未だ歴然とした英帝國內の自治領なのではあるが、その社會生活には既に北米合衆國の影響が可成り強く侵入しつゞある事を見逃せない。但し氣候風土の相異か經濟發展時期の相異か、彼等濠洲人には米國式のスピードさは及ぼされてゐないやうである。

元來日本人はやゝもすると表面の稱號なり字句なりを、直譯し易い光榮の缺點を持つてゐる。そのよい例に英帝國の呼稱に對する皮相的な意識があり英帝國と稱する限り餘りに英本國と各自治領や各王領殖民地とを一括して考へたがる傾向が未だに根強くある。同じ帝國でも吾が日本のは正しくエンパイアであるが、英吉利のは既にエンパイアではなくコンモンウェルス・オブ・ネイションズと變化して來てゐる點を認識すべきである。通稱名のブリテイツシ・エンパイアを依然鵜呑みにして、その内容に大改組のあつたと云ふ事を知らぬではすまされないのであらう。

何れにしても吾が日本と英吉利との根本的な相互認識を基調とする提携が、吾が日本の發展の爲めにも最も望ましい事は云ふまでもなく、只從來のやうに濠洲・新西蘭等の各自治領を率ひる英本國としての舊式な對英意識を捨て、寧ろスカンディネヴィア及びアルゼンチン近くは南方支那に實質的な歩道確保せんとする英吉利として、慎重に再認識せねばならない。

又それと同時に、英帝國の自治領としての對濠洲觀を捨て對新西蘭觀を去り、濠洲人の濠洲或ひは新西蘭人の新西蘭として彼等を充分に認識仕直さねばならないと思ふのである。

(昭和十二年十一月・南洋協會雜誌南洋所載)

五、濠洲政界の近情

各自治領諸國が英本國に對し從屬關係に在つた當時は英吉利政界の對日動向さへ確めればカナダなり濠洲政界なりの對日動向は自と判然したのであるが、各自治領の成育し英吉利本國と對等の關係を結ぶやうになつた昨今に於いては、例へ同じ英聯邦内に屬するとは云へ英吉利政界と各英自治領政界とを強ち同一視出來なくなつて來て居るやうである。

例へば先頃四百萬の投票民によつて行はれた濠洲聯邦總選舉の醜し出した雰圍氣などは、その間の變遷を如實に物語つて居るやうであつた。

從來濠洲政界にはライオンズ氏に率ひられる濠洲聯合黨とページ博士を首領とする地方黨及びカーティン氏を指導者とする労働黨との三分派があり、聯合黨と地方黨との聯立内閣は既に二期六ヶ年繼續され今又向後の三ヶ年をも豫約されてゐる。聯合黨・地方黨何れも獨自單一では組閣維持の能力がない事は以前も現在も同様であるが、比較的密接な兩黨提携が持續されてゐる爲めに労働黨はやむなく苦節九年の在野を強ひられてゐるのである。

去る濠洲聯邦議會總選舉に際し最も論争の的とされたものはやはり國防問題であつた。養老年金及び失業健康保險の掛金問題も聯邦銀行の政治的統制化問題も、結局國防問題に全く人氣の焦點を奪ひ去られた恰好であつた。即ち聯合黨及び地方黨の共同陣は「戰雲を濠洲島外に阻止せよ」と強調し、在野の労働黨側ではそれに對して「戰雲の外界に濠洲を置け」と絶叫した。

そして濠洲聯邦新下院議員七十五名の色彩は、聯合黨・地方黨の聯携與黨がその五割五分に相當す

る四十一名を占め辛うじて多數を制する事となり、野黨の労働黨は三十二名を數へ他に中立二名となつた。因みに舊下院に於いては與黨側が全員の三分ノ二に近い四十七名を擁し、現在よりは遙に壓倒的な勢力を發揮してゐたものである。

若し日支紛争による時局的恐怖感が差迫らなかつたならば、聯合黨・地方黨の政府陣は恐らく從來に引きつゞく過半数は容易に獲得出來なかつたであらうと評せられてゐる。

實にライオンズ首相の聯立内閣にとつて、極東及び歐洲各地の事態の緊張振りこそは時の氏神であつたのである。

但し國防問題が花形の題目とされた聯邦議員選舉に於いて、國防大臣が落選の憂き目に遭つた事は甚だ皮肉な成り行きであつた。

一方、濠洲聯邦の上院は議員三十六名中、半数づゝ改選される事になつて居り從來は聯合黨・地方黨の共同陣が壓倒的な聲威を張つてゐたが、今回の半数定員改選に於いて濠洲聯邦七ヶ國の内東北部のクイーンズランド及び南オーストラリアの二ヶ國のみ成功しただけで、他の國々では何れも労働黨の進出に押されてしまつたのである。

結局半数改選後の新上院分野は、聯合・地方兩黨の政府派が二十一名に減じ、反政府派の労働黨が十五名となり茲に濠洲聯邦政界は上下兩院共第一黨の榮冠を労働黨に與へたのである。

從來貿易及び關稅政策に就いては強ち一致するとも限らなかつた濠洲聯合黨及び地方黨とは、その

共同の敵手たる労働黨の復活傾向が次第に顯著となるにつれ好むと好まざるとに拘はらず彼等二政黨の提携は強められ結局は合體するものとの觀察さへも下されてゐる。

但し以前程の強固さは漸次弱められてゐるにもせよ同じ聯立内閣で同じ首相ライオンズが二期六ヶ年を勤め上げ、而も尙今後三ヶ年依然として施政の局に當ると云ふ事は濠洲聯邦としても空前の記録なのである。彼の歐洲大戰當時のヒューズ聯邦首相ですら三期は居据れず、六ヶ年の二期繼續のみで退いた。

且つ又昭和十二年春季には濠洲聯邦憲法の改訂問題を繞り舉行された人民投票の結果は、却つて提案者たるライオンズ政府側自身が敗北を喫せしめられた程であり、例へ聯合黨と地方黨と合致した三矢一括の力を以つてしてもライオンズ聯立内閣の存続は危惧されてゐたのである。

結局先頃の濠洲聯邦總選舉は一般濠洲人の非常時局に際し敢へて政變を歓迎せぬと云ふ心裡と、在野労働黨内の極左分子の態度が反政府軍の鋒先を分散したと云ふ二つの理由で與黨が勝利を獲たものと見られてゐる。

濠洲國防問題に關し政府側の聯合黨・地方黨の所説と、反政府側の労働黨の持論とは非常に鋭い對立を示しつゝある。

即ち與黨は「濠洲独自の孤立政策は國家的自殺行爲なり」てふ警鐘を亂打して、英吉利との提携強化の要を叫び所謂英帝國を一單位とする國防政策を主張し實行しつゝある。

それに反し野黨は絶對的に濠洲の孤立策を標榜し濠洲島独自の國防計畫を是となし、曾つて彼等労働黨自身の施政時代に建設を見た濠洲海軍は暫時そのまゝに止め専ら空軍の充實による對應策を要求してゐる。

彼等は公言を憚らない「濠洲は決して海外の戦争に捲き込まれるやうな事があつてはならぬ、若し世界大戰再開の曉といへど既に現實の英吉利は遙か東の濠洲島までは防護仕難い情勢に轉じつゝある、従つて如何に萬全と見かけられる集團的國防政策の充實を計るとも一朝有事の場合には否應なしに濠洲自身の空軍にのみ依存するより他に何ら途のない事を見出すであらう」と。

即ち國防問題の形に於いて端なくも表明せられた濠洲人の近情は實にその五割六分までが依然として所謂英帝國宗の信奉者であり、他の四割四分が英吉利聯邦内のみに閉籠る事をせず廣く世界に独自の生活を營まんとする人々であるとも見做す事が出來得るやうである。

「今や南歐の地中海は吾がタスマニア海峡にも等しい濠洲島の沿岸へ刻々と近接するに至つた」とライオンズ聯邦首相は地球面の壓縮を説いた。即ち換言すればそれは吾が土佐沖亦濠洲沿岸の一部を構成しつゝありと云ふ意味にもなり、従つて濠洲政界の一舉一動は吾々としても次第に單なる他人の話としては聞き流されなくなつて來て居るのである。(昭和十三年一月・南洋協會雜誌南洋所載)

六、英領西印度諸島の前途

國際問題多端の現代を通じ、英帝國內に於ける最善の平和境を求むれば先づ第一に西印度諸島が擧げられるであらう。

曾つて西班牙の開拓者が來り先住のカリブ蕃民を驅逐し、西阿弗利加より黑人奴隸を輸入し而も開拓一段落の後には雜草と等しく焼き捨てたと云ふ、有色人種二重の受難史を持つ西印度諸島ではある。次いで英吉利人が劍と銃とを以つて彼等西班牙人の支配勢力を驅逐し、それ以來の西印度諸島には血の洗禮もなく大體に平和な歲月を過してゐる。其後は騷擾もなければ反亂もなく、人種闘争も見ずストライキの類ひも誠に稀れのやうである。

但し今日の西印度諸島に於いては既に、隻手空拳を以つて一代の富を築く事は至難になつて來てゐる。開發富源は最早その飽和點に達してゐるのである。けれども富裕な生活及び自由な社會福祉の施設を樂しみ得る點に就いては、未だ他の英領諸邦に比較して最も著しい存在とされてゐる。

西印度諸島に産出するバナナやオレンヂ等の果實類は他の何れの産地のものよりも甘味が多いと云ふ定評そのまゝに、その在住民は皮膚の色如何に拘はらず非常に溫和な個性を形造つてゐるやうである。

英領西印度諸島の總面積は吾が臺灣より稍狭く二百萬の人口を包擁して居るが、北端米國と接するバハマス群島から南端ヴェネズエラ國と接するトリニダド島に至るまで、その何れの島々に於いても歐米人より阿弗利加人が多い。

然し南阿聯邦に於ける白人のやうに、壓倒的多數の有色人に對する恐威は感じられて居らず、この點は西印度諸島の持つ特長と見られる。それと云ふのも西印度諸島に於いては有色人種に對してとりわけ差別的な社會制度はなく、有色人でも白色人でもすべて同一の機會を與へられてゐるからであらう。南阿聯邦の現勢力指導者達も只管カナダ自治領や濠洲聯邦のそれを追ふ事なく、西印度諸島の人種無恐威狀態を學ぶてふ雅量こそ眞の白人南阿の爲めに緊要な態度ではなからうか。

西印度諸島は同じ英帝國內に在り乍ら、そこに在住する者はニグロ血統の人々でも醫師とか法律家とか技術家とかの専門智識の習得に對して制限又は禁止されては居らない。従つて黒人の醫師あり辯護士あり市長さへも出現する譯で、有名な米國の反ニグロ運動の人々でさへも西印度の旅行にはニグロ人領事に査證を仰がなければならぬと云ふ微苦笑場面も有り得るのである。

國際地圖面上に於いてさへ五十に餘る島々を包擁する西印度には、經濟的に成り立たない小島多く、中には單に朝々英吉利國旗の上げ下げだけの爲めに吏員が住んでゐると云ふ島さへもある。

これら諸島に對する米國側の關心は久しいもので、西班牙の領有時代にも彼等は屢々現金を持つて買取りの交渉に來た。そして遂ひに一九一七年歐洲大戰の騒ぎを外に彼等は西印度諸島の中邊に位ひ

する丁抹領有のサンタクルーズ島等の肩替りを實現したのである。

次いで平和克復後、米國は戦債の一部と引換へに英領西印度諸島中最大のジャマイカ島の讓受けを、英本國に向つて熱望した。事ここに至つて西印度在住民は擧げて反對氣勢を示した。その有色群は米國の對ニグロ政策を懸念し又白色群は住みなれた英帝國からの離脱を好まなかつたのである。

何故米國は西印度諸島中でも自國僅か數十哩の洋上に横たはるバハマス群島に手を觸れず、遙か遠方のジャマイカ島を要求したか。それはジャマイカ島が西印度諸島中最大であり且つ中心を爲して居り、この島を掌中に收めれば他の小群島は自然と統制出來得るからであつた。

然し乍ら英本國は大戦に疲弊させられたとは云へ一片の領土にも賣地札は掲げて居らず、又現地住民達の對米賣渡不賛成に意を強くしその米國提案は軽く一蹴され、結局西印度諸島に於ける英帝國主義の強調に利益したやうである。

曾つて砂糖大根が砂糖黍を壓倒するかの氣配を示し世界の砂糖黍事業は遠からず壊滅するとさへ稱せられた事があつた。當時西印度諸島に於ける第一の産業は砂糖黍であり人々は非常に困惑させられた。

栽培業者は何れも不況に打ちのめされ或る人々はココア栽培に轉じた。然しその價格は西阿弗利加品と激しい競争をしなければならぬ立場に置かれてゐた。次いで彼等は果實の栽培を試みた。例へば世界的に暑中珍重されるライムとか胡桃・バナナ・椰子の類ひで、是等は西印度に於いては砂糖やコ

コアよりも遙に有利なものとなつて來たのである。

然し茲に西印度諸島は不知不識して、英吉利を離れ好まぬ米國に漸次接近する足取りを進めた。即ち砂糖黍をその第一の産業とした時代には専ら經濟的にも對英本位であつたが、果實産業に轉向して以來の西印度經濟は自然と有無相通する米國に依存するやうに變化したのである。そして西印度諸島の港々は何れも米國船法の測歩に委ねられた。

それを見兼ねたカナダ自治領は經濟的にも有無相通じ又同じ英帝國內の一員である西印度諸島との經濟提携に積極的な乗り出しを行ふに至り、一時米國船の獨壇場化した西印度諸島を巡る洋上も現今ではカナダ系の英國船が復活し絶えず米國側の進出を牽制しつゝある。

即ち英領西印度諸島を經濟的にも英帝國のよき一員として確保出來得てゐる事は、一重にその功をカナダ自治領へ歸さなければならぬのである。

バハマス群島・ジャマイカ島・リーワード群島・ウキンドワード群島・バーベドス島・トリニダド島等それら西印度諸島に昨今等しく叫ばれてゐる要求は何であらうか。

聯邦結成即ちそれである、英帝國內に於ける個々の殖民地領土から一步昇格の自治領を結成したがつてゐるのである。

然しそれには二つの支障が横たはつてゐる。一つは西印度諸島は一個の政治組織にすべく餘りにも小島が多いと云ふ事である。それら島々間の船舶による定期連絡は經濟的に到底成り立たず、空輸施

設の經濟化時代を只待望してゐる現状にある。

今一つの支障は西印度諸島中ジャマイカに次ぐ大島である不安定なトリニダド（吾が四國の約四分の一）の存在である。このトリニダド島は大きさこそジャマイカ（四國の四分ノ三弱）の半分にも及らないが、その有するアスファルトの天然湖を以つて大倫敦の錦裝を一手で引受けてゐるだけあつて、諸島中最も繁榮を誇つてゐるのである。西印度聯邦が出現すればジャマイカの首都キングストンを聯邦首府とする事が一般の常識ではあるが、トリニダド島はそれを自己の首都ポート・オブ・スペインに樹立する事を主張して譲らない。然し乍らトリニダド島は諸島中でも南米大陸と指呼の間に在り、近接するヴェネズエラ國の絶えない政治的革新やストライキの影響をその儘受けついで居る傾向強く、従つて他の島々としては西印度聯邦首府をトリニダド島に置く事を不安がつて肯んじないのである。何れにしても英領西印度諸島の進歩なり向上は、合衆國及び南米に對するカナダの發展上最も好ましい事には相違なく、従つて西印度の前途こそは例へ間接的にせよ太平洋の前途にも影響を及ぼす點は留意に價ひするものであらう。

七、溢れる印度の人々

過去十ヶ年を通じ印度に於ける人口總數は一割六厘の増加率を示して居り、これは實數上約三千五

百萬人の増加に相當し僅か十ヶ年の間に佛蘭西（佛人實數三千八百餘萬）一國に近い人口が、新に出現した譯である。

そして今や印度はその人口の莫大さに於いて、世界中第一位に在る支那人をも凌ぐ程の形勢を示すやうになつた。

若し印度が近來のやうに、例へば過去十ヶ年に涉り一割以上餘の人口増加の趨勢を持続するとしたならばその結果はどうなるであらうか。それは印度政廳の將來へ投げかけられた最も難しい問題の一つとされてゐる。

印度民衆の大多數は今日既に最低生活線の維持にすらあへいで居り、今後農業耕作の改良や産業開發向上の速度は果して克く人口の増大に並行して成就されるであらうか、印度統治に關する識者達の齊しく危惧する處である。過去十ヶ年の大勢を以つてせば全印度の人口は、七十五年目に丁度現在の二倍となり實に世界人口の三分ノ一近くは印度色を以つて塗りつぶされるであらうと稱せられてゐる。

人口激増の印度に於いて教育施設も躍起となり擴大されたものではあるが、過去十ヶ年を通じ一般の教育施設は二割五分近くの増加に止まり、全人口に對比すれば僅か百人に一人だけ讀み書きの出来る人々を増したにすぎないのである。

人口の増加振りは概して英本國直轄の印度十五州よりも、土侯統治の印度各地に於ける方が甚だしかつたやうである。

そして現在印度全體を通じ、一通りの読み書きの出来る者は滿五歳以上の一千人中僅か百八十五人に止まり、その内百五十六人は男性で残りの二十九人が女性と云ふ割合を示してゐる。即ち逆にそれを見れば全印度人民を平均して、男性百人の内八十四人は明盲であり又女性も百人中九十七人までが文盲であると云ふ事にもなるのである。

印度土侯の統治諸國の内婦人の読み書きが最も進んでゐるのは、印度半島南端の西岸地方コーチン國及びトラヴァンコールであり、ビルマ地方もやゝそれに匹敵すると稱せられてゐる。

十年前まで読み書きの出来る印度婦人は二百七十五萬にも充たなかつたさうであるが、近來は漸く四百萬人と云ふ者が教育を一通り受けた事になつて來た。その四百萬人も對外的には巨大な數字であるが、全印度人口に比すれば誠に微々たるものに過ぎない。

そして現今の就學女子兒童百人中九十人までは昔のまゝの野生的生活に甘んじ僅かに百人中の一割だけが初等教育を受けてゐるやうである。

元來印度に於いては永年に亘り、男女兩性の均衡のとれて居らない状態をつゞけて來た。即ち全印度を通じ男性總數は女性よりも一千萬人の超過であり、この成りゆきは恰も植民地に於ける男女比率と同様な現象を呈してゐる譯である。何故植民地でない印度に於いて女性數が男性數より一千百萬も尠いと云ふ不均衡さを示してゐるのであらうか、それには大體に次の三つが理由として擧げられてゐる。

第一には印度の今日までの慣習が女性をして徹底的にむしろ閉ぢこめに等しい程家内へとどめて置くやうになつてゐる事、第二は年少結婚に累せられて少女婦人達の産褥に關連した死亡が夥しい數に達してゐる事、第三には婦女の覆布風習等により生じ易い結核病等の爲め死亡する婦女子が相當に多い事である。

去る昭和四年發布を見た印度人口問題の痛である幼女結婚禁止法案こそは、その實施方法に手ぬかりがあつたのか現實には逆に禁止年齢たる十五歳以下の所謂幼妻を急製する結果を生じてしまつた。十年前の全印度には無慮八百五十萬程の幼妻が居たと稱せられる。それが或ひは過渡期の現象のみであればよいが今日では一躍千二百萬を越える程になつた。

即ち全人口が一割増加した期間を通じて幼妻結婚者は實に四割四分の激増を敢へてしたのである。この驚愕すべき數字は實に僅か六ヶ月間即ち昭和四年の秋幼女結婚禁止法案が制定され、それが實施された翌年四月までの豫告期間に取行はれた慌水結婚である。寧ろその六ヶ月間と云ふものは印度教徒、回教徒の何れを問はず、却つて幼女結婚を刺戟したやうなものであつたのである。

即ちその禁止法案は十四歳以下の女兒を持つ兩親へ徒らな恐怖心を與へたにすぎなかつた。而も禁止法は何ら組織的な豫防政策を兼ねる事なく單に處罰を以つて望んだ。然しその處罰こそは結婚が行はれてしまつてから施行されるもので、例へ處罰を行つても幼女が結婚したと云ふ事實は最早解消すべくもない。印度の婦人諸團體も最近漸くこの幼女結婚未然防止教育と云ふ點に主眼を注ぎ、根本的

な動きを示すやうになつて來た。

それは云ふまでもなく印度婦人公民権の獲得に際し何物よりも有力な障害とされた爲めであり、印度の新憲法下に於ける婦人參政權は例へ部分的にせよ實現の運びとなり、やがては幼女結婚もその跡を絶ち、及んでは男女不均衡問題も自然に解決され得るであらうが、根本の印度人口激増の懸念はそれにより益々増加の要素を強めるに相違ない。印度の指導者達はこの溢れ出でる人々に對し、如何なる百年の計を持つて居るものであらうか、その影響に對し吾々は決して無關心では過し得ない程に地球は縮小しつゝある。

八、印度の政情とその將來

初め自治政府の實現を期して出發し、次第に積極化して遂に英帝國離脱による完全獨立の獲得を目標とするやうになつた印度の國民會議派は、對英抗爭既に五十年の連続史を根氣よく綴つて來た。

そして昭和十二年の四月、土侯の統治下に在る諸國を包含せぬ英領印度に對し曲りなりにも自治政府制は實施されるに至り、總選舉の結果は十州地方中の六州まで國民會議派が過半数の得票を擡し、國民會議派はそれ〴〵州政府を組織出來得る事となつたのであるが、敢へて州政府の組織を回避し、折角の新制度をも拒否し通し此の際一舉に完全獨立の機會を窺つてゐる。

このやうに近代印度の對英抗爭の主體となつてゐる國民會議派が立籠る國民會議と云ふものは、今から丁度五十二年前に第一回の會議が催はされ英人代議員の多かつた所爲もあるが穩健な政治家のみによつて充たされてゐた。

當時の國民會議派はゴカリを首領として全般的に人氣よく、反對側からは印度革命派と評せられてはゐたが實質的には今日で云ふ自由主義の急進派の程度にすぎなかつたやうである。

一八九〇年頃の印度國民會議派が掲げてゐた政策は、自治政府の確立を最後の目標としてゐたが、一方に於いて英吉利の統治を是認し且つ又英帝國內に於ける印度と云ふ事を絶對的なものと見てゐたのであつた。

然しその國民會議派の内にも當時既に、幾多の反英極論者が包擁されてゐた。ボムベイ出身のテラツクヤやブンジャブ出身のラヂパットライ達はその代表的な人々で、彼等は寸時も妥協を考へぬ反英主義に據つてゐたのである。そして彼等反英極論者は絶えず國民會議派全體の指導權獲得に幾多の行動を盡くしたのではあるが、ゴカリの生存中は彼の聲望に壓倒されて目的を果せず、勢ひ國民會議派全體としても比較的溫和な行動に終始してゐた。處が一九一五年ゴカリの他界によりさしもの中庸派も動搖を來たし、遂ひにその翌年反英極論派が宿望を達し國民會議派を牛耳つたのである。

従つて其後の國民會議派の大勢は常に準英的な政府に對し政務の進行を妨害し、一九二九年に及んで彼等の最後の目標とする處は英帝國の羈絆を脱する完全獨立の印度であるてふラホール宣言として

表はれて来た。彼等の標語によれば、妨害から驅逐への一步前進なのであつた。

従來國民會議派の多くは法律家・醫師・教師等の専門的な知識階級によつて占められてゐたが、近頃では都會の勤勞者とか地方からは小作人も選出されるやうになりその顔觸れは非常に複雑となつて来た。

尙國民會議派の各分派の内でもガンヂーを以つて代表された一群は最も有名であり、彼等は印度に於ける特殊民を強制的に孤立させてゐる幾多の因襲を撤廢せんと努め、一方印度近代産業の工業化を排撃し且つ印度四姓階級間の對立こそは帝國主義的闘争よりも遙に被害が多いと云ふ點を強調しつゝある。

或ひは又國民會議派昨年度の首領に當選したネール及び今年度の首領に當選したボース等を仰ぐ漸進的革命派の一群は、彼等の時代に印度社會主義天下の出現を期して居る。急進革命派の分子は、スターリンの生存中に印度共產化の達成を確信してゐると云ふ程である。

そのやうな各分派の一方には、印度傳統の幼女結婚をも是認し例へて進歩の爲めにせよ如何なる社會變化をも否認する印度教の或る一部の人々も割據して居り、或ひは保護關稅要求一點張りの印度産業資本家の連中も顔を並べ、八時間勞働制の獲得を目指す印度勞働組合の人々もすべて同じ國民會議派としてそれ／＼の群れをなして居る。

従つて國民會議派は事英吉利の統治に關する限りは共同の攻勢を採り得るのであるが、印度の内政

問題に關しては強ち一致の足並みは期待されて居らない。

去年の四月新憲法が實施されて以來、印度國民會議派はその争闘方法に一大轉換を強ひられた。従來彼等の行動は印度に於ける外國勢力の行政執行に對し妨害し排撃を事としてゐたものであるが、新憲法の破壊が今後彼等の第一義とされるに至り漸次對内的要素の色彩を濃厚にして來てゐる。

新憲法による自治政府の組織を引き受けるか拒絶するかと云ふ事についても既に國民會議派各分子の足並みは甚だしい不揃ひさを示した。各自必ずしも同じ立場とは限らず、又利害の異なる人々を一括包擁する國民會議派としては蓋し當然の成りゆきであつた。

その拒絶論者によれば、例へば回車會議等による所産とは云へ英吉利の手に成つた新憲法を基礎とする統治機關の引き受けは、印度及び印度民衆を英帝國主義發揚の爲めにのみ利用されるに過ぎないと云ふのである。

又承認論者は遙に現實的な立場を持つて居り、新憲法による政府組織を既に選舉民に公約した關係もあり、自治によつて出来るだけ早く差し迫る社會問題や經濟不安を解決したがつてゐるのである。

そして結局は拒絶論者も現實論者に引摺られ或る妥協を餘儀なくされ、例へば國民會議の議決に對しては印度皇帝の代理人である印度總督もその有する特權を行使せぬと云ふ條件つきで、新憲法による自治政府組織に乗り出すやうになつた。

近來あらゆる國際情勢の變化を通じ、印度に直接に又多くの刺戟を與へたものは同じ英帝國內にあ

つたアイルランド自由國の獨立に外ならなかつた。彼等印度に於ける反英派の人々としてそれを見れば、英本國の手近に在り乍ら、敢然獨立運動を強行し而も貧農的小島にも拘はらずどうか一經濟單位を保ち得てゐる、と云ふ事になる。況して印度は地中海の遙か東方に位ひし、富源はアイルランドの比でなく、領域もその六十八倍に近く飛躍の好材料に恵まれてゐると解釋し易い。富源に恵まれた印度であればこそ距離の遠近を超越して、英本國の對印利害は深刻であり、アイルランド問題とは全くその趣きを異にしてゐる筈であるが、彼等印度國民會議派の反英群は南アイルランドに則り綠色旗を高揚して素志の貫徹を期してゐる。

然らば印度に於けるデ・ヴァレラは誰であらうか、即ちその第一人者こそは前首領のパンデット・ジャワハラ・ネールその人に外ならない。彼は劍橋大學卒業以來その月日の過半を印度牢獄に過したと云はれる程で、ガンヂーより二十も若い五十歳の働き盛りである。次いではガンヂー運動の技師長と稱せられる當年三十七歳のチャンドラ・ボースであらう。

今や三億六千萬を超える印度民衆の切實な希望はもつと充分に空腹を満たしたがつてゐる事である、彼等は一生懸命に働き乍ら而も充分な食を得られなかつたのである。如何にこの道理に叶つた要望がどんな形式を採つて實行されるであらうか、印度統治の變遷是非は一にかゝつて此の點に在るのである。即ち新憲法が倒壊されるかどうかと云ふ事は、印度民衆の今日として恰も國際聯盟の存續如何に對する程度の關心しか有して居らない。先づその前に、空腹の問題が差し迫つてゐる。

従つて國民會議派の將來に對して最も懸念される點は、すべて破壊のみに過ぎ來り而も前途容易に建設の舞臺へ到達し得る見通しがつかない事である。投票民大衆が直接利害のない憲法問題に關し何回も選挙を繰り返へされ、而も依然として國民會議派に投票しつゞける根氣が危ぶまれてゐる。

即ち對内的には溼婆教・毘瑟教・陰陽教・回教・佛教の宗教的割據に累せられ、對外的には特に英吉利の利害と對立し易い印度の政情こそは交錯の尤なるものであり、前途は猶幾多の複雑化を免れないであらう。

第七篇

英帝國と舊獨領土問題

英帝國と獨逸の舊植民地

西南アフリカの前途

第二のライオンランド

煙草まで動員の回收運動

獨伊提携と南阿の焦慮

一、英帝國と獨逸の舊植民地

再武装したナチス獨逸の舊植民地返還要求運動、この問題は直接には獨逸對英佛の事に相違ないが、間接には歐洲大戰に参加した各國のみに止まらず世界全體へ影響を及ぼしかねない危険性を多分に孕んでゐる。

ヴェルサイユ條約締結以來、獨逸の舊植民地は僅かの部分を除き殆ど全部は例の國際聯盟委任統治の形式で戰勝國側の支配下に置かれてゐるが、受託統治の開始以來十年經ち二十年經ち時の過ぐるに及んで戰勝各國は自己本來の植民地と委任統治地域とに對する差異を甚だ漠然たるものと化し、指定統治區域を恰も自國領有地と信するやうにさへなつてしまつてゐる。

然し乍ら今更戰勝國側が委任統治の恒久化即ち領有を欲するならば、戰敗國が弱りきつてゐた平和條約作成當時になまじの委任統治等と云ふ其の場凌ぎの形式に據らず、何故に分割併合領有を斷行しなかつたかと云ふ理窟になるが、それには當時二つの支障が横たはつてゐたのである。

即ち一つには戰勝國側の輿論がカイゼル壓迫熱に昂奮してゐたにも拘はらず、特に英吉利の僑團西の當局は先づ第一に北米合衆國の感情を本位とせねばならぬ立場にあつた。第二には例へその大切な米國の感情を無視するとしても、獨逸領地をどういふ風に分割領有するか各國の意見は甚だ不一致を

極め到底その場で圓滿の取決めは出来なかつたのである。

當時英佛の兩國や白耳義に於いては委任統治など云ふ中腰的な態度を捨て、領地割當を斷行せよとする意見も部分的には強かつたものであつた。

委任統治形式の採用は期せずしてか、二十年後のハイレ・セラシエを遂ひに没落の悲運に導く原因を造つてしまつたのである。即ちヴェルサイユ條約の作成當時舊獨逸領地を決定的にそれぞれ分割したならば伊太利も當然何れかの地方の分け前に預つてゐた筈であり、従つて後年に至りワルワルやアドワの復讐と共にエチオピアを攻略する必要も強ち起りはしなかつたであらうと云はれてゐる。

委任統治問題に關しその委任統治を最も多く行つてゐる英吉利に於ける絶對多數黨たる保守黨領袖達の意見としては、彼等傳統の統一保守主義に強ち拘泥する事もなくこの問題に關する限り讓歩的のやうである。

前首相のポールドウィンは英國政府委任統治中の各地方再割當論を妥當なりとし、「若しヒトラーが世界平和の爲め眞に努力するならば英吉利は出来るだけの援助を惜しまない」と在任中に言明した程である。この場合英吉利の最大援助と云ふ事は獨逸に對して、委任統治區域問題が考慮されてゐるに外ならない。又現保守黨首のネヴィル・チャムベレン首相もその藏相時代に、英吉利の委任統治區域は明らかに英帝國の一部分ではないと力説した。

委任統治形態の採用に直接の責任を有し又平和條約に英吉利代表として署名したロイド・ジョージ

自身でさへも近來は、「若し吾々が恒久の平和を欲するならば現狀に即して委任統治問題が再び迫上に横たへられなければならぬであらう」と唱道する程に變化しつゝある。

獨逸の舊植民地要求問題で第一に論議されるのは、現在英吉利の委任統治下に在る東アフリカのタンガニカであらう。英吉利の或る權威者達は爾後四半世紀の歐洲平和がそれで確保され得るならば、タンガニカを潔く獨逸に返す價値は充分にあらうと云つてゐる。

然し乍らタンガニカに於ける獨逸勢力の復活は期せずして英領東アフリカのケニア及びユガンダの兩植民地が、南方からはナチス獨逸、北方からはフアツシヨ伊太利と云ふ兩獨裁勢力に挾撃される結果を必然に招來する。即ちケニア及びユガンダは南はタンガニカに接し、北は伊太利の新エチオピア地帯と隣りしてゐるからである。従つてケニア及びユガンダ方面からのタンダニカ獨逸還元に對する恐怖的な反對は相當に根強いものがあるやうだ。

且つ又南阿聯邦としても南北ローデシアとしてもスエズ運河經由の連絡を脅威され易く、勢ひ南阿の寶庫ジョハネスバークの空襲も忌避出來難い事となるのは必定であり、事表面は東アフリカに於ける委任統治區域の問題であるにも拘はらず結局それは南阿聯邦を孤立せしめる懸念が強いのである。そのやうな譯でタンガニカ委任統治領の對獨逸返還は現地よりも一層に南阿方面で眞劍に討議されて居り、ナチス獨逸の舊植民地要求の聲明が發表されるや時を移さず南阿のスマツツ將軍達は反對宣言を敢然行つた程である。

實は既に數年前東阿聯邦の結成運動も起きた事があるが、時の英本國政府筋はそれに餘り氣乗せせず、且つ特にユガンダに於ける印度系住民の反對により遂ひにケニア・ユガンダ・タンガニカの統一は實現しなかつたのである。そのユガンダが皮肉にも今日では、或ひは獨伊兩勢力の爭奪地帯とされ易い運命となつて來た。ケニア・ユガンダとはアフリカ語で埃太利を意味するとは、この間の情勢を語る通稱である。

従つて英本國政府が例へ委任統治地域に關して讓歩的考慮ありとするも、一方南阿聯邦や南ローデシア自治領・北ローデシア保護領・及びケニア・ユガンダ兩植民地に對して如何なる母國的考慮があるものか疑問であらう。現在英吉利政界を壓倒的に支配する保守黨の内部にも實は委任統治地域の獨逸返還に反對する者は決して尠くはなく、彼等は獨逸返還の意ある領袖連を目して統一保守主義に悖る者なりと非難の叫びをあげて容易に靜まらない。

即ち英吉利の委任統治地域……どうしても東阿のタンガニカが眞先に狙上へ押し出される都合に在る……を獨逸へ返還すると云ふ事は、表面上チャムバレイン首相達の所謂讓歩的な考慮によつて恰も滑らかに取り運ばれさうにも見受けられるが、實情は必ずしも一致せず或ひはこの問題が大保守黨の右翼を分裂せしむる動機となるかも知れず、且つ又アフリカ大陸に於ける英帝國各自治領植民地に對し母國としての信頼を失墜せしめる可能性を多分に包藏しつゝあるものである。

二、西南アフリカの前途

ナチス獨逸の舊領土返還要求の叫びは、今やさしものアフリカ大陸を東西兩方面から頻りに震動させつゝある。即ちその一方は東アフリカのタンガニイカ問題であり、他の一方は西南アフリカのダマラランド及びグレイトナマクワランド、所謂西南アフリカ問題に外ならない。

その西南アフリカの期限附統治を國際聯盟から委任されてゐるのが、英帝國自治領の雄たる南アフリカ政府であり、彼等は寧ろ西南アフリカの聯邦加入を永年來期待して居る事とて、西南アフリカに於ける舊本國への還元運動やナチスの宣傳を自由に濶歩させて置くやうな事は當然あり得ないのである。従つて西南アフリカに於いて英吉利系以外の在住人民の政治運動は禁止する、と云ふやうな南アフリカ政府の發令等は日を迫うて繁げしくなり枚擧に暇がないやうである。

西南アフリカ地方自體としては聯盟管理期限後の南アフリカ加入に強ち反對でもなさうである。即ちそれは南アフリカとして、ケープ・トランスヴァール・オレンジ・ナタルに次ぐ第五州を構成する事となるのである。

歐洲からの移住民としては最近十年間を通じ和蘭植民が最も著しく、爲めに昭和元年頃まで在住歐洲人の過半数を占めてゐた獨逸人は現在三割餘を維持する程度に後退した。

因みに昭和十年末に行はれた西南アフリカの總選舉は獨逸復歸派が全滅的に敗れ、十二席中の十席までが反獨逸の聯合派によつて獲得されてゐる。

傳來の土民總數二十五萬、彼等は獨逸復歸を敢へて希望する態度を示して居らない。否むしろ彼等の中の二大種族は、それを回避しようとしてさへしてゐるやうである。

偉丈夫型として著名なヘレロス族、黄色人に近いホツテントット族、彼等この二種族は獨逸式の進化を忌嫌してゐると稱せられる。

彼等二種族は西南アフリカに於いても特に目立つて、外來民の侵入と抗した。一八三〇年から五十年間と云ふものは、殆ど戦ひつゞけて彼等は祖先傳來の大地を守り通したのであつた。

然し歐洲から陸續として積み送られた荷物、即ち彈藥・酒・聖書は遂ひに彼等土民を奥地へ奥地へと押し込めて行つた。寄せ手搦め手から、恰も眞綿で首を絞めるやうに侵入されたのである。

其後獨逸帝國が積極的な強化政策で押し寄せたのであるが、單純な土民は眞綿主義も好む譯ではないがそれ以上に獨逸の強行主義を極端に嫌つた。

そして獨逸は西南アフリカの領有實現に四ヶ年の日子を費ひやし、土民達は飢饉と熱病と發狂とによつて全滅に瀕した。例へば一九〇〇年當時十萬を超えてゐたヘレロス族は、其後七年にして十分の一に激減せしめられた。ヘレロス族が西南アフリカに於ける幾多の種族中、最も反獨傾向を持つてゐるのはそのやうな過去があるからである。

他に目ぼしい種族としては、未だに部落統制を嚴に保つてゐるオーパンボス族あり、次いで西南阿弗利加に於ける最古來の住民たる所謂猿人種族がある。

又レーオボス・バスターズは和蘭語を用語としてゐるので有名な種族であり、この人種は英吉利・和蘭等の歐洲人やホツテントトとの混血と稱せられ、或る程度の自治政治を行つてゐる。

國際聯盟の委任統治期限後の西南阿弗利加はどうなるか、常道をたどれば原地在住全民の歸屬決定投票による事となる。然しその國民投票をしては、勝ち目のない事を獨逸側では充分に知つてゐる。

然し乍ら獨逸側では西南阿弗利加の歸屬又は前途の方針を住民投票によつて決定すると云ふ以上に、強い主張要求を掲げて獨逸還元を迫りつゝある。

即ち近代西南阿弗利加の基礎は、彼等獨逸人によつて建設されたものであると主張してやまない。

事實歐洲戦前まで西南阿弗利加は、獨逸帝國の秘藏つ兒植民地の一つであつた。一八八四年初めて彼等の入植が行はれてから、一九一五年舊聯合軍側であつたボサー將軍の率ひる南阿軍に攻略されるまでの三十年間、獨逸は此の地方に巨額の開發資金を費ひやしたと云ふ。曰く、井戸を掘り道路を造り地方役場を整備し波止場を築き以つて國際貿易界に西南阿弗利加を手引きしたのは獨逸の努力によるものであると云ふ。

西南阿弗利加の首府ウインドホーエクは、海拔六千尺の高原地方に在り獨逸風なバンガロウつゞきの町である。且つ又その政治組織も獨逸式の部分が多い。それにも拘はらず先の總選舉では、親獨

派が全滅的に敗退させられたのである。

一方、若し南阿聯邦が西南阿弗利加の加入を受けるとすれば、如何なる利益があるであらうか。地域的には殆ど倍加に近いが、例へ南阿聯邦の四分の三に等しいとは云へ、西南阿弗利加には不毛の部分が大きい事も考慮されなければならない。

葡萄牙領西阿弗利加のアンゴラに接する西南阿弗利加の北部地方十萬平方哩は、現今ですら猶萬人未踏の天地と稱へられて居る。

そして中央部にはエトーシヤ鍋と通稱される縦横七十五哩の大湖があり、この湖底は粘土層の爲めに或ひは各種動物の墓地とも名づけられ、夜分は幾多動物の骨が光つてゐるので有名である。

現在西南阿弗利加財政の大部分は、大西洋岸のルーデリツツ灣一帯のダイヤモンド鑛區によつて支へられると云つても過言ではない。同海濱地方は大きなダイヤモンドではないが、工業用ダイヤモンドの産出が相當に多いやうである。

穀物類の栽培耕作は殆ど不可能視されてゐるが、牧畜は可成りにその將來性を期待されてゐる。

不毛の土地を既にはげしく走行する鐵道網は齊しく獨逸によつて建設されたものであり、それらは或ひは産業上の見地からではなかつたかも知れないが、現今の住民達はその利便を蒙つてゐる事は確實であらう。

中部のロールヴィス灣は今でこそ國際舞臺の第一線に登場してゐるが、獨逸領時代には餘り顧慮に

置かれぬ海岸線であつた。ビスマークが西南アフリカを本據にして、その四隣に對して進攻の企てを進めた頃でさへもラールヴィス灣はそれ程に活用されなかつたやうである。

西南アフリカとは云へ、その中央高原地帯の氣候は一年中を通じて暮し易く、保養地としてさへも好適地であると云ふ。獨逸が數多い舊領土の中で最もその還元を冀ふ土地こそは、實に西南アフリカに外ならないと稱せられてゐる。

彼等西南アフリカの住民は大勢として、寧ろ南ア聯邦の一州となる事を欲して居り、且つ又その方策こそ眞に西南アフリカの爲めとなり又經濟的にも最も有利であると信じてゐると云ふ。

最近南ア聯邦のヘルゾグ首相は公然と、「西南アフリカは南ア聯邦の自然の一部であり、従つて吾々は西南アフリカが他國へ歸屬するやうな用意は全然ない」と表明しつゝある。

既に東アフリカに於いても、南ア聯邦とナチス獨逸とは對峙の形勢にある。西南アフリカに於いて南ア聯邦は果して自己の主張を仕通せるものであらうか。或ひは獨逸側のよく我意を押し通す事となるであらうか。その二勢力に壓縮せらるゝ西南アフリカの前途こそは、興味深い成り行きである。

三、第二のラインランド

ギニー灣に望む西アフリカの一角に、マンゴウと呼ばれる河流がある。

それは場所によつては幅一町にも達せず、アフリカ大陸として見ればさゝやかな流れにすぎない。然しこの一河川が近來歐羅巴政界の動向を反映し、國際境界線として或ひはアフリカのラインランドとして、その重要性を増しつゝある。

マンゴウ河は舊獨逸領カメルーンを東西へ五對一の割合に二分して南へ流れて居り、吾が朝鮮半島の二倍にも等しい東岸地方は佛蘭西の委任統治領、西岸地方（北海道と殆同面積）は英吉利の委任統治領とされて來た。

英統治領カメルーンはカメルーン山脈を取り圍んで居り、英吉利植民地のナイジェリア當局によつて行政を敷かれては居るものゝ、實際には既に大正十三年頃から再び獨逸への所謂舊植民地還元の歩みが始められてゐたのであつた。

護謨・棕櫚油・ココア・バナナ等を主産物に持ち十五の栽培國中現統治國側の英人經營は僅か二つにすぎず、他はすべて獨逸人の經營に屬してゐる。従つて獨逸人の在留民は三百名を超してゐるにも拘はらず、英吉利人は僅か三十名、それも殆ど全部が行政關係者ばかりと云ふ有様を呈してゐる。

然るに對岸の佛領カメルーンは、英領カメルーンと全く異り、佛蘭西専用の植民地として舊地主の獨逸側などの事は何のお構ひもしない。茲に又もや、第二ラインの流れが源されてゐるのである。

そして佛領側の海港ドウアラに對峙し英領側ではティエウを大玄關として築き上げたが、その海港を利用してゐる者は殆ど獨逸及び獨逸人ばかりのやうである。例へば歐羅巴からその英領カメルーン

向け一週一回の定期船は、定法の英吉利汽船ではなく獨逸船によつて行はれてゐる。

英領カメルーンに於ける獨逸植民は現在一萬二千萬餘の土民を使役して居り、獨逸人傭主は英吉利政廳の代理として労働者の人頭税取立てまでも勤めてゐる程である。彼等獨逸人は歐洲大戰の二十年も前頃からこの地方を識つて居り、カメルーンに於いては既に經驗すみの植民者なのである。

彼等獨逸植民達は比較的公平な態度を保持して居るが、それでも土民使傭人に對しては相當に労働を強ひるらしい。従つて大戰後英吉利の委任統治領となるや英國政廳は、土民に對する雇傭者側の私刑を禁止し且つ又半奴隸的な從來の労働契約法を認めなくなつた。その爲めに土民間に於ける獨逸人の威壓力も昔日のやうな効果は薄らぎ、獨逸人としても労働力に對し多分の安全感を失つて來てゐるやうである。

但しこの地方は英吉利の治下に在る領域としては珍らしく道路の設備が進められて居らず、或ひは英吉利側がこの地方に限り委任統治を狭義に解釋し、永久に領有化しようとする意志のない表徴とも見られてゐる。

同地方在住の獨逸人は昨今それら三つの理由、例へば雇傭者として土民に對する私刑禁止や労働強要禁止とふ實際に即せぬ立法及び道路の未開發を取り上げて、カメルーン舊植民地の獨逸還元の妥當を要求してやまない。

彼等獨逸人栽培業者達は、棕櫚油・ココア・ゴムの全産額の約半分及び少量のバナナを英吉利へ強

行輸出し、それによつて英貨本位の土民労働者賃銀・輸送費・輸出税等の支出を全部賄つてゐる。そして彼等の生産品の殆ど半分と云ふものは、獨逸人としての純利得となり盛んに獨逸本土へ輸送されてゐる。

佛領カメルーンは英領カメルーンに比較して約五倍或ひは質的に見て約九倍の面積を擁して居ると稱せられるが、在住獨逸人は僅か五十名にも足りないやうである。而も佛蘭西當局は獨逸人に對して種々の制限を設け、土地使用權なども經濟的には成り立たぬ程度にしか許容して居らない。

従つて佛蘭西人のみの植民地として確保されてゐるこの佛領カメルーンの經營は成果を示して居り、廣大な數多くの佛領アフリカ各地を通じて最も収益率のよい地方と見做されてゐる。

この佛領カメルーン存在は又政治的にも効率多く、地中海のアルジェリアから南大西洋のコンゴへ達する處の大西アフリカ佛蘭西制覇の最後の楔となつてゐるのである。

そして英領カメルーンの施政と異なる點は中央アフリカ縦斷を主眼とする道路の開拓及び栽培事業は歐洲人自身直接行ふよりも寧ろ地元土民達に對して奨励の方法を講じてゐる事等が擧げられるであらう。

獨逸人は若し佛領カメルーンを自分達が開拓するならば尠くとも現在の五倍以上の繁榮を實現可能と揚言して居り、佛蘭西人はそのやうな強行開拓は必ず何らかの形で土民に犠牲を拂はせるやうになり決してよい反響は望まれるものではないと應酬しつゝある。

實際の問題としては、現在の一躍五倍と云ふ事も土民の犠牲云々も言葉が大きすぎると、英吉利人は傍観して何れをも是として居らない。

佛領カメルーンは確に幾多の開拓が望まれては居るが、同じ西アフリカ地方へ多くの植民地を抱へ込んでゐる人口漸減の佛蘭西本國として、最早今まで以上に佛領カメルーン開發の餘裕はないやうで、獨逸側の着目も此の點にかゝつてゐる。

但しその獨逸も歐洲大戰前カメルーン植民地殊にマンゴウ河以東の、現在の佛領となつてゐる地方に對しては餘り施政の手が廻らず、その爲めに土民中にも反獨氣分は相當に漂つて居たと云ふ。そのやうな経過をたどつてゐる事とてカメルーンに於ける現在の土民の心理は、佛領地方に於いても英領地方に於いても強ち親獨とは斷定出來難いやうである。

今やマンゴウ河以東の佛蘭西人達は何か軍艦の急襲でもあるかのやうに向ふ岸のさわめきに脅えて居り、英領カメルーンに於ける獨逸人の舊植民地還元運動に對し、何故に統治者英吉利の政廳側が斷乎たる處置を採らないのかと批難し、英吉利側の靜觀さと鈍重さとに氣を焦ら立たせてゐる。

それに對しマンゴウ河以西に刻々と根城を深め強めて來た獨逸人達は、統治者英吉利ならぬ彼等の母國から毎週一回訪れる定期船の檣頭にナチスの旗幟を見上げながら、このマンゴウ河が將して今後何ヶ年間に涉つて佛國統治領との國境とされつゞけるものであらうかと高言を放つてゐる。

復興獨逸の舊植民地回收運動、その實演場は正しく東部にタンガニカ問題・南方に西南アフリカ

問題、そして西部にカメルーン問題を包擁する因果なアフリカ大陸に相違ないであらう。

曾つて安全第一の英國首相ポールドウキンは、今や英吉利の國境、ラインに移つたと大見得をきつて、彼の安全第一の信者を驚倒させた事があつた。蓋し至言である、何故ならば獨逸をめぐりやゝもすればその泥田へ引きすり込まれさうなカメルーン地帯を流れる小河川マンゴウとは、實にアフリカ語のラインを意味してゐたものであつた。

四、煙草まで動員の回收運動

ヴェルサイユ條約で失つた舊植民地の還元問題を獨逸國民大衆に鼓吹すべく、近來ナチス當局は煙草までも總動員しつゝある。

それは巻煙草十本なり二十本なりの中へ挿入する美麗なカードで、例へば表面に舊獨植民地の風景などを描き出し、裏面にはその地方の富源や獨逸本國に對する存在價值等が書き込まれてゐる。且つ土着の酋長等と曾つての獨逸植民地兵が適當にその繪の中へ彩られ、ナチスの尙武心は手廻しよく充分に織り込まれてゐる事は云ふまでもない。

然し乍ら何れにしても、獨逸の植民地返還要求運動により最も眞剣に直接の對象とされるのは阿弗利加大陸、とりわけその南部地方に相違ないやうである。南阿の獨裁官達は既に公然と、南阿に手を

觸れるなど獨逸に應酬し南阿聯邦としての廣義國防即ち舊獨逸領の西南アフリカ・タンガニイカ兩委任統治領の確保を期して英本國に積極的な態度を迫つてゐる。

歐洲大戰勃發二年前の一九一一年頃當時陸軍少將でハノヴァーに休職中だつたヒンデンブルグのやうな穩健派に屬する人々でさへも、獨逸は國內人口の増加の爲めばかりではなく膨脹國産品の輸出先が是非欲しいのであると公言してゐたと云ふ。

その頃の世界貿易界に於ける荒武者は云ふまでもなくカイゼル統治する處の獨逸帝國であり、英吉利は獨逸商品の至極格好なダンピング場とされ勝ちであつた。その爲めに流石自由貿易主義掉尾の時代にあつた英吉利も、獨逸品ダンピングの防止策には朝な夕な苦心させられたやうである。

獨逸は歐洲戰前既に極東の南北兩太平洋にすら領土を獲得してゐた。然し乍らそれら多くの舊植民地は例へ大獨逸帝國としての裝飾用には役立つものゝ、實質的な利用價值は戰前と現在とでは非常な變化をもたせられた。今日のナチス獨逸として只管要望する舊植民地は裝飾用のやうな浮は調子なものではなく、實質上に利益のある地方を希求してやまないのである。

南アフリカ一帯は永年の間、獨逸の植民地獲得の目標とされて來て居り、就中トランスヴァールの金礦地方には獨逸人と血統的に近い和蘭からの流れを汲む移民多く、例へそれ等移民が親英反獨逸的な態度を示してゐるとは云へ、これらの地方に對してはナチスに限らず實に全獨逸をあげて前世紀以來絶大な魅力を感じてゐるのである。

今後ナチス獨逸の果敢さを以つてそれら南方アフリカに對し如何なる方策の下に進展を企てるか、その切實さは或ひは歐洲再混亂をも賭して表面化せねばやまれぬ程に、内面的の動きは刻々に昂まりつゝあるやうである。(昭和十二年五月・野澤日日新報所載)

五、獨伊提携と南阿の焦慮

昨夏南アフリカ聯邦の國防相オスワード・ビロウは南阿國防強化を促進する爲めに折角ケープタウンと倫敦の間を往復したが、滯英中に感化されたものか英吉利保守黨首腦部の抱く意向そのまゝを受け賣りしたので、南阿に多い帝國主義信奉者達は勿論の事、英本國の帝國主義者群から散々の目に遭はされた。

即ち彼は「……尠くとも戰前の舊領土が還元されぬ以上、獨逸との恒久平和を期待する事は絶対に不可能であらう」と公言したのである。スマッツ將軍に率ひられる英帝國主義一本槍の南阿黨は云ふまでもなく、ハーゾグ首相に率ひられる共和的色彩を含む國家主義黨も、ビロウ國防相のその言葉には恰も自分達の兩足に火が着いたかのやうに大騒ぎさせられたのであつた。

結局ビロウ國防相の公言は南阿聯邦政府の諒解なしに行はれた失言として、南阿黨と國家主義黨との混和會合である例の南阿聯合黨のジョハネスブルグに於ける大會席上で取消し辯明がなされなけれ

ばならなかつた程に、南阿に於ける獨逸の舊植民地返還要求問題は強い刺戟性を帯びてゐるのである。そして今や南阿聯邦は英領アフリカ各地を打つて一丸とした所謂共通國防政策の實施に大意であるが、解釋の仕方によつてはそれは外敵に備へると云ふ潮勢を利用して南阿聯邦自身を盟主とするアフリカ合衆國を遠成せんと企てる政治的雰圍氣の強い運動とも見做されるやうである。

伊太利が繁榮羅馬帝國再建の大望を掲げ、東アフリカ一帯に軍事行動を開始して以來、アフリカ大陸の北端及び南端は期せずして急遽英本國に救援を求め、且つ既定計畫を一變し徹底した大々的な再軍備を迫つた。

次いで現在までの情勢に依ればその北部地方は例の新英埃條約の急速な締結によりファツシヨ伊太利の打ち下す鐵斧を辛くも支へてゐる形であり、一方南部地方に於いては前述の通り南阿國防相が倫敦政府と親しく南阿空軍建設五ヶ年計畫の具體化を進めた。

因みにその英埃更新條約とは、國內的に既得權益を捨て埃及の要望を容れる代償として、英吉利側がスエズ運河寄りに陸軍部隊を、又アレキサンドリアに海軍根據地を確保したものである。

從來英帝國內の理想主義者は齊しく、舊獨逸領土で現在英吉利本國の委任統治領となつてゐるタンガニイカ（日本全土の約一倍半・住民五百二十萬）をも包含する處の、英領植民地ケニア（日本全土より北海道を除きたる地域・住民三百十萬）と英保護領ユガンダ（吾が本州と四國の地域・住民三百十五萬）三ヶ國結成による東アフリカ聯邦の出現を夢見て居た。

若しそれが實現されたならば領域・人口密度共にベルシヤ國程度のものであるが、最初ユガンダに於ける印度系住民の反對運動あつて以來、實際的にはどうも時機を逸し去つてしまつたやうである。

又近來は英保護領の北ローデシア（日本全土よりも大・住民百四十萬）と英自治領の南ローデシア（日本内地と同面積・住民百餘萬）との親善強化も傳へられて居り、とりわけ南ローデシア自治領は南阿聯邦自治領（日本内地の三倍餘・住民八百五十萬）とも、外敵恐怖に對する同病相憐れむ上から接近振りを示しつゝある。

彼等南阿地方の英帝國主義信奉者達によれば、ムツソリーニのエチオピアに於ける黒色土民兵の養成或ひは近代化こそは、他の歐洲列強は云ふまでもなく結局伊太利自身を轉覆せしめる要素を増大する輕率極まりない無謀の由である。

或ひは又南阿の金礦王として著名な英吉利猶太人のサー・エブ・ベイリー等は、歐洲強國によつてなされる黒人種の近代武裝兵化の企てこそは現情アフリカを破壊する最大危険な試みであるとも云ひ、且つ白人統治者による黒人皆兵主義は合法振つた奴隸制度の再建に外ならないとまで極言しつゝある。

エチオピアの征服以來、伊太利の一舉手一投足は悉く英領アフリカ各地へ震動を與へ初めた。當代隨一と稱せられる英帝國主義者スマツツ將軍一派は、期せずしてこの状態に對應する南阿國防の革新を強調した。

即ち南阿の積極的國防線として、北部白耳義領コンゴの邊境からヴィクトーリア湖及びエチオピア

國境に至る軍備の強化を主張し、又現今までの南阿聯邦は航空母艦の倭攻を阻止出來得る一隻の軍艦すら所有せぬ弱點を指摘したのであつた。

現状不滿國に對し南阿地方一帯が絶大な魅力を發散してゐる事は南阿の人々も既に自覺し無慮極まりなく、南阿聯邦政府は陸上軍及び空軍の大國防急設を強行し、以つて英吉利本國と直接の關係にある北ローデシア保護領・ニアサランド保護領（吾が北海道より大・住民百四十萬）・ケニア植民地・ユガンダ保護領・タンガニカ委任統治領等をも防禦する事を進んで提議し、その代償として南阿聯邦三千哩の海岸線防禦を英本國に要望したのであつた。

但し未だに南阿聯邦の四州間にそれらとは全然別箇の行政單位を持續點在するスワジランド（吾が四國と殆同・住民十五萬）・バストランド（九州より稍小・住民五十五萬）・ベキエアナランド（日本全土より大・住民二十萬）等の英吉利保護領各國を南阿聯邦に引き入れようとハーゾオグ首相達南阿の要人は一致して再々勸誘運動を行つてゐるが今日尙成功を告げて居らない。

従つてそれらの地方は何れも海岸線を持たない國々であるが、南阿聯邦の諸州間に介在し依然軍備問題を未解決のまゝに曝らしてゐる状態である。

然し乍ら南阿聯邦の恐怖感は刻々に昂り、最近も他の一般自治領諸邦とは別箇に英本國と密接な關係を締結する事を倫敦政府に申し寄せ、しきりとスワジランド・バストランド・ベキエアナランド三保護領統治權の肩替り運動を以つてゐるやうである。

殊にベキエアナランド保護領は、問題の舊獨領土で現在南阿聯邦の委任統治下に在る西南アフリカ（日本全土より二割大・住民三十萬）の背後を扼する地勢に在り、而も又近來親獨親伊の傾向が強いポルトガルの二大領土の一つであるアンゴラ植民地（日本全土の約二倍・住民四百四十萬）とも指呼の立場ある事として、對獨伊防備に狂奔する南阿聯邦としては閑却視出來ない地方である。

西南アフリカを獨逸へ返還する事などは夢想だにせず却つてその委任統治期間が満期となる時は南阿聯邦へ第五洲として加盟させようと躍氣になつてゐる南阿朝野とすれば、是非共その背後のベキエアナランドを自分達の政治單位に編入して置きたい事は無理からぬ話であらう。

茲に吾々として認識を明確にして置かなければならない事は、同じ英帝國内の保護領であり乍ら而も英吉利から南阿聯邦への移管が容易に行はれ得ない實情であり、即ち昭和六年ウエストミンスター條令の實施以來敢へて親子の關係を兄弟の關係に塗り代へてしまつた英吉利對南阿聯邦として、近來既にやゝもすれば「兄弟は他人の始まり」を表明してゐる點である。

即ち看板をブリテイツシ・エムバイアからブリテイツシ・コンモンウェルス・オブ・ネイションスへと掛け換へた通稱英帝國そのものゝ内部に、數年來大改組があり現に刻々英本國對各自治領の相互關係に多大の變化を生じつゝある事を看過してはならない。

今や南阿聯邦は一千人の操縦士・三千人の機關士及び専門工の養成、六十臺の高速爆撃機を包含する南阿空軍創設五ヶ年計畫の第二年度に入り、又地上軍備に於いては戰車反撃軍團なるものを組織

し大アフリカの地勢に應じ、その軍國全部の移動をすべて空輸本位となし若し五百哩の距離ならば四十八時間以内に軍團の移駐を完了する事を目標として刻々強化擴張しつゝある。

又、南部イングランドにあつた世界最大の稱ある六萬噸の浮ドックを南阿聯邦政府は買い受けて自領に曳航し、以つて英吉利海軍の南阿海岸線防禦を否應なしに引き受けさせると云ふやうな手段さへもめぐらせた。

即ち伊太利の東阿進出強行の結果、アフリカ大陸に關する限り獨逸の舊殖民地返還要求工作は一段とその實現性を増したものに相違なく、何を措いても真先にその槍玉に擧げられるタンガニイカ及び西南アフリカを現に包擁してゐる南阿聯邦こそは、折柄傳へられるヒットラー・ムツソリーニ兩獨裁官の提携強化に最も脅怖し焦慮せしめられるものに相違ない。

南阿テール灣頭に屹立するセル・ローズの巨像は遙か北方を指呼してゐる、諸君の天地は彼方に在りと。除幕式の行はれた當時この「諸君」とは勿論ローズの祖國英吉利の人々を意味してゐた。然し歐洲大戰を前後して、その「諸君」とは實質的に和蘭系のアフリカ人たるボア人を意味するやうになつた。處が運命の皮肉は現在に至り、彼等ボア人達が現狀南阿の維持強化に躍氣とならざるを得ないめぐり合せとなつて來てゐる。

「諸君の天地は彼方に在り」今や南阿の人々はそのローズの名言が獨逸人を意味するやうになりさうなので焦慮に駆られてゐる、否その「諸君」とはアフリカに先住し現住する黒人種のパントウ人達

を眞に意味する時代が到來せぬ限り、永久に南阿地方から焦慮の二字は解消され得ないであらう。

(昭和十二年十二月・政界在來所載)

第八篇

英帝國內の語り草

英帝國主義の最大支柱

英本國の背後を脅す獨裁者

英帝國の旅客機網

英帝國各地の所得税

英伊のイラク油田争奪戦

一、英帝國主義の最大支柱

近來舊殖民地の回收運動を繞りナチス獨逸進攻の矢面に立ち、或ひは又日英貿易の角逐場とされ、政治的に經濟的に多端を極める南阿聯邦を恰も一人で背負つて立つかの氣概を示してゐる和蘭系のフリカ人ジャン・クリスチャン・スマッツとは如何なる人であらうか。

一八七〇年、スマッツは南阿奥地の農場に産ぶ聲をあげ、當時父親は農業の傍ら今日で云ふ陪審員のやうな公職をケープタウンに持つてゐた。

そして彼は地方の高等學府を了へ二十二歳の時英吉利へ渡り、給費生として劍橋大學に入り法律を専攻し拔群を擧げた。「宗教の最も崇高な要素となるものは眞情による道德の向上である」と云ふ執筆などをしたのはその頃の事であつたと云ふ。

元來南阿弗利加に於ける和蘭人は白人の南阿殖民の先鋒を以つて誇りとしてゐたが、その數は土着の有色人に比較して全く問題にならぬ程微々たるものであつた。それだけに彼等は非常に強い性格を次第に形造つて、所謂ボア魂とでも稱すべきものを把握して壓倒的な有色阿弗利加在住民に對抗しつゝ分け入つたのである。

彼等は熱心な新教徒で宗教や法律の研究を好み、就中その現存法律を出来るだけ利用し個人的にも

集團的にも排他的で、自己權利保全の念が非常に強いと云はれてゐる。

ボア……和蘭系のフリカ人……の代表的な人物は悉くこれらの特性を集注した標本のやうに見られて居り、かのボア戦争當時大英國を向ふに廻したクルーガー大統領やボサー將軍達はそのよい例とされてゐる。

従つてスマッツも勢ひ彼等共通のボア人特有の性質を享けて居た。

一八九五年在英勉學を了へたスマッツは、故郷南阿弗利加へ歸り、直ちにケープタウンの最高法院に就職した。

その頃の南阿弗利加に於けるボア人達は、所有農場の大を誇つてはゐたものゝ、一方絶えず押し寄せる英吉利帝國主義の鋭鋒及び常に壓力の手をゆるめる事の出来ない絶對多數の土着有色阿弗利加人に對する二重の脅威を受けてゐたのである。

スマッツは歸國直後しばらく英吉利の先鋒セル・ローズを應援する政治的立場に在つたが、其の後ローズの片腕とも見られてゐたジェームソン博士一隊のボア進撃の事あつて以來、彼は反對にトランスヴァール側のボア應援に急旋回しその首都ジョハネスバーグに移住した。

當時未だ若冠の彼ではあつたが、トランスヴァールの大統領クルーガーはスマッツを見込んで直ちに樞要な地位を與へ、その爲めにスマッツはボア戦争を通じて法律・統制・宣傳の三部門に互つて非常な功績をあげ、既にその頃から彼の名は敵側の英吉利方面にも認められるやうになつたのである。

ボア戦争を契機としてスマッツは期せずして軍人の職分をも體驗し、同志に對する信と誠とこそは人間として最も貴重な行爲である事を痛感させられたと云ふ。

彼は其後常にセシル・ローズの變節を非難し、掠奪精神や鵜呑み主義によるものとして英吉利の南阿政策を嫌忌し、ボア人種の阿弗利加統制を強調した。

然し乍らこの若い過激とも見られた愛郷者は、生來の抱擁力と豊富な常識涵養とによつて、やがて成熟した政治家となつた。ボア戦争の後、彼はボサー將軍と共に南阿弗利加の亂れた地方に統治を復活し、ブリトリアの田舎に一時引籠つた。

一九〇七年彼はトランスヴァールの代議士に選出され再び忙しい生活が始まり、ボサー内閣の殖民大臣に擧げられた。彼の興味と關心とは只管教育と國防に集注され國防の基をなすものは第二世の教育なりと確信し、實に百年の計に重きを置いて仕事をした。そして三年後には内相・鑛相・國防相の要職を兼任し、やがて有名な彼の南阿黨が結成されたのである。

南阿弗利加に於ける政治は、土着の阿弗利加有色人・和蘭系阿弗利加白人・英吉利人及び印度系阿弗利加人との交又により非常な深刻さを示してゐる。殊に歐羅巴大戰に際して南阿各地方の内政情態は甚だ至難なものであつた。

三矢一括の力は一矢別々な三本よりも遙に強いものである……この理に基いて各小國の聯合は絶對に必要だと感ずるに至つたスマッツは、英吉利發展の急先鋒であつたセシル・ローズ達とは決して行

を共にしなかつたが、其後世界の趨勢に照らして大局から南阿のボア人は英吉利と提携する事こそ同族繁榮に處する最善の途であると考へるやうになつてゐた。

従つて歐洲大戰に際會しても南阿の内政困難に乗ずる處が却つてそれらを取纏め聯合國側の忠實な一員として立働き、彼は理智の全能を發揮し冷静な判断を失はずボサー將軍を全からしめた。そして一九一六年スマッツ自身東阿弗利加に於ける獨逸軍掃蕩の爲め南阿軍司令官として陣頭に立つた。然し當時東阿のクンガニカ方面に於ける獨逸軍はその土民兵でさへも統一され非常によく訓練されて居り、それに反し彼の指揮する南阿聯合軍は南阿土民・印度系土民・ボア人・英語關係の諸人種と云ふやうな雑多な寄せ集めであり、號令さへも容易に全軍へ達しなかつたやうな情態にあつた。

けれど幼少時代既に活潑な決然とした少年と近隣から定評されてゐたスマッツだけあり、幾多それらの障害や自然の不利をも押しの一手で指揮し通し、進軍開始以來十ヶ月に充たすして獨逸殖民地であつた東阿弗利加の大部分を占領し了はせ、軍人としても最大の榮譽を獲得したのであつた。

次いで一九一七年彼は英帝國會議に、南阿代表として輝やかしい渡英をした。蓋し反英の底意を抱きつゝ劍橋大學を出た往時を回想して、スマッツは感慨無量なものにたまされた事であらう。自然英吉利朝野に於ける歓迎も、戦時ではあり乍ら誠に温かであつたと傳へられてゐる。

ヴェルサイユの平和會議に於いて彼は敗軍の獨逸側に對し、處するに慈悲と寛恕とを強調し、怒りに燃える聯合國側を制し人道と常識の要を説いて云つた「昨日の仇敵も明日には無二の朋友となるか

も知れない」と。

當時スマッツは國際聯盟主義こそ世界の文明進化の據るべき唯一つ残された途であると信じ、強力な國際聯盟の結成を本家のウエルソンにも負けぬ位熱心に主張した。やがて國際聯盟の開設も決定され又プロシヤの軍國主義機關は破壊されつくしたと云ふ意味合ひからして彼は進んで平和條約に南阿聯邦を代表して署名した。

然し乍らヒットラーのナチス出現によつて彼の稱するプロシヤ軍國主義は再生し、且つ又國際聯盟は最初の理想通り進捗せず世界は愚か歐羅巴のみの聯盟活動すらわびしいものとなつてしまつた昨今、人一倍にスマッツは想ひを一九一八年當時に巡ぐらせてゐる。

一九一九年彼は遂ひに南阿聯邦の宰相となつた、丁度五十歳の事である。

そして二年後に至り英本國の一部を構成してゐた愛蘭島に於けるデ・ヴァレラ一派の獨立運動に際會し、「三矢一括の力」主義の建前から英帝國主義を信奉するやうになつてゐたスマッツは、愛蘭の英國離脱を極度に嫌ひ獨立運動者を説いたが成功せず、次いでせめてその一部分をもと考へ愛蘭島北部地方の英帝國内引止め運動を行つた。その影響のみではなかつたが現在の愛蘭自由國は愛蘭島の全部ではなく三十六縣中の三十縣を以つて構成され、北部のアルスター地方は未だに英本國の一部となつてゐるのである。

彼は又南阿聯邦を再分裂させる危険が起き易い爲めに、和蘭系のボア人である彼自身が卒先し敢へ

て南阿弗利加に於ける和蘭本國を基調とする國家主義運動を徹底的に封鎖してしまつた。

スマッツには學生時代から執筆が多く、一九二六年には彼自身の生涯をたどるにも等しい「進化全體主義」の著述出版をした。

彼の政治的行動はその初めから現在に至るまで一貫して、まづ南阿に於けるボア人の爲めそして一歩を進めて英吉利との協調となり、やがて南阿諸國の聯邦結成を見るに至り且つ又南阿に於ける諸政黨の聯合を計り各國の政治提携……眞の國際聯盟主義を稱導する足取りを残して來てゐる。

彼は世界初期文明の没落原因を離婚拒否に在りとして居り、又土着の先住有色人に對しても彼等白人種同志間に於けると同様に正直に公平に且つキリスト教のよい點を實際に行はなければ眞の好結果は得られるのではないと、一九二九年セシル・ローズ追悼講演會の席上で述べたさうである。

茲に彼の弱點を窺ふ事が出来る、即ち彼が他の事々を明快に處置する調子で若し真正正銘のクリスチャン的態度を南阿に於ける黒色人種差別問題に對して採るとしたならば、立ち處に彼は現在の政治的足場を失つてしまふのである。今日の南阿聯邦に於ける最大な問題は白人が現在までの優越した地位を、大多數の黒人に超越して如何に永く持續するかと云ふ事に外ならない。何れにしてもスマッツは兩立し難い境地に立たされてゐるのである。

彼は云ふ「科學の力は部分的な輿論や一方的な公共希望の勢力に反對して總動員されなければならぬ」と。

彼の理想は外部的壓迫を受けず機能を遺憾なく發揮出來得る處の科學者群の協同により、國內及び國際間に横たわる困難な懸案を解決し以つて安定世界の實現に在ると云ふ。

そのやうにスマツツには残念乍ら、例へば自身が好まざるにもせよ四圍の政治情勢の強制の然らしむるにもせよ、政治的生命を賭してまで南阿の黑人に對する社會的差別を撤廢すると云ふ國家百年の經世家たり得ぬ缺點はあるが、一方又科學の協同による眞の國際主義を標榜してゐるので南阿聯邦に於ける聲望は依然として高く、必要に迫られた彼の英帝國主義は他の自治領よりも一層と強く最も頼母しき南阿聯邦として英本國の感ずる處となつてゐる。即ち六十有九歳のスマツツ及びその影響こそは、やゝもすれば傾きかける英帝國機構に對し最大の支柱と稱しても過言ではないのである。

二、英本國の背後を脅す獨裁者

近代世界に覇を稱へてゐる國家主義的な獨裁官達は、皮肉にも外國産れが多い。

ナチス獨逸を振りかざすヒットラーがオーストリア産れである事は餘りに有名であるが、先頃死んだ波蘭の獨裁官ピルスドスキー元帥も波蘭ならぬロシアニアの産れであつた。

又先年トロツキー派のカーメネフやジエノヴィエフ等十六人を銃殺して以來、持病の癌が昂じめつきり弱くなつたと専ら取沙汰され乍ら俄然赤軍内部の大手術を敢行し、強さを示して居るスターリン

は同じソ聯内でも殆どトルコ同然のジョージア産れである。その他トルコのケマルパシヤは隣邦ギリシヤのサロニカで産ぶ聲をあげ、最後の埃國宰相とし獨伊の中間に時めいたシュシュニグも亦國外伊太利の産であると云ふ。

大英帝國の羈絆を漸くにして脱出し、愛蘭島の大部分を自由國の名の下に獨立せしめ、今やその大統領として讃へられるイーモン・デ・ヴァレラもその例にもれず、彼は一八八二年大西洋の彼方ニューヨークで生を享けたのであつた。而も母親だけが正當正銘の愛蘭人で、父親はキューバから渡米したスペイン人であつた。

人間には何が幸ひになるか判らないもので、このデ・ヴァレラが愛蘭人の血統を曳き乍ら米國に産れ米國人であつたと云ふ事が、却つて彼をして新愛蘭自由國の第一人者に仕上げたのである。

即ち歐洲大戰を契機として遂ひに勃發した愛蘭の獨立革命に際し、英本國の軍務當局は獅子身中の虫として革命運動の重立つた者を殆ど全部銃殺に處した。時恰も一九一六年、英吉利を初め聯合國側は味方へ米國引込みの爲め御氣嫌取りに狂奔してゐた最中として、ダブリン騷擾の有力な指導者ではあるが當時未だに米國の國籍を持つてゐたデ・ヴァレラを銃殺しきれなかつたのである。

英吉利として米國に對しそのやうな氣兼ねがあつたばかりに彼は投獄こそされたものゝ、他の同志達のやうに息の根も止められず且つ幸ひな事には其後一ケ年にして大赦に遭遇した。そして既に愛蘭の目ぼしい獨立運動家は殆ど死に絶えてゐた事として、彼は自然と第二次革命運動の中心人物と仰がれ

るやうになつたのである。

古來、綽名をつけられ易い政治家は大成すると謂はれてゐる。例へばデジーと云はれた英國のチスレーリー、テデーと呼ばれた米國のセオドル・ルーズヴェルト、現存人物ではヴェルサイユ條約製造の旗頭であり乍ら最近その改正を勇敢に稱導してゐる英國のロイドジョージに冠するエルジー等々がある。

然し愛蘭には從來餘り綽名がなかつたと云はれてゐるが、デ・ヴァレラは忽ちの裡にデヴと云ふ懸け聲を貰つたのである。關心を抱き親しみを感じるからこそ綽名はつけられ易い、實にデ・ヴァレラの綽名デヴは幾十萬の投票を集中する力をも具へてゐた。

又、デ・ヴァレラは演説場の大向ふから大統領とも呼びかけられたものである。當時の政權に在つた親英提携派のコスグレーブ達は、愛蘭に於ける大統領と云ふ語句は例へ綽名にせよ英本國に對して不穩當であるとなし、デ・ヴァレラに大統領てふ言葉を使用すべからずと云ふ公けの禁止布告を發した程である。けれどもこの類例のない大衆稱號禁止命令は、却つて宣傳のたしになつたやうなもので、デ・ヴァレラの人気は増す一方となつた。

彼の母親は米國で他へ再婚し、デ・ヴァレラは三歳の時から愛蘭の母方へやられ祖母の手許で育て上げられた。そのやうに幼時兩親の愛には餘り恵まれなかつた彼は、長ずるに及んで片田舎の學校へ入り又給費生として大學を了へ、教鞭を取り其後次第に愛蘭の國家主義者となつたのである。

一九一八年、再び彼は英蘭のリンカーン刑務所へ投獄されたが鍵と鑰とを入れた菓子と友人から送り込まれて小説的な脱走を地で行ひ、リバープールから水夫の群れにもぐりこんで愛蘭のダブリンへ渡り、程なく再び船乗りとして北米合衆國へ渡航した。

米國に於ける彼の活躍は目覚ましく、愛蘭人の移民部落を次から次へと訪れて、故國に於ける英吉利當局の壓政を訴へ愛蘭獨立運動の資金を募集して歩いた。そして英吉利側の嚴重な監視を避け密入國するやうな苦心を拂つて愛蘭へ歸つた彼は、同志後輩を督勵し専心獨立達成を計つた。

やがて流石の智を以つて鳴る英國宰相ロイドジョージ一派も、遂ひに愛蘭島大部分が自由國となる事を承認せねばならない破目に墜ち入つた。人々はそれを評して英本國の一步後退と云ふが、英吉利の退脚以上にデ・ヴァレラ達の努力そのものが愛蘭自由國の實現を致したと見るべきであらう。

彼は非常に明瞭な性格の所有者で信念の強い眞面目な而も徹底した自制心を持つて居り、熱心なカトリック教の信者である。有名な頑固屋ではあるが、その反面脱俗な教訓的で人情にも富んでゐると云ふ。軽い皮肉屋でもあるが、彼の笑ひ顔は一年中數へる程しか見られないやうである。

愛蘭大統領としての彼の日常生活は、毎朝十時前から執務し小事と雖も決して輕々しくせず、晝食には暫時自宅へ歸へり、再び夕方の六時まで執務し少憩後平常は引きつゞいて又仕事に携り、夜半までも執務する事は珍しくないと云ふ。且つ夜食はパンとバターだけの簡素なものに限られてゐるやうだ。

若かつた頃のデ・ヴァレラはラグビー・フットボールの選手で、今日でも馬は相當に乗りこなしてゐる。農業國愛蘭の田舎道の散歩は近來彼の唯一の娯樂であるが、性來非常な足早の爲め八人の大統領護衛者達も隨行しかねる事が度々あると云ふ。

愛蘭に於いては勿論、何か公用で英本國に滞在中も彼は斷じて飲酒しない。アルコールこそは愛蘭をして永年英本國の膝下に平伏させた悪魔であると、デ・ヴァレラは絶叫してゐる。但しどうゆう譯かジュネーヴなどの歐洲大陸旅行中の彼は、強ち禁酒とは限つて居らない。

一九一六年當時まで彼は可成りの愛煙家であつた、けれども英吉利役人の手でパイプを取り上げられるよりは、自分からいつその事パイプを捨て、やれとばかりに意氣込んで、入獄直前から斷然禁煙したと云ふ挿話を持つてゐる。

又彼は數理學が好きで、一九一八年の第二回入牢中はアインシュタインの相對性原理の研究に没頭した事などは他の革命運動家達と異なる點であらう。

彼の妻は愛蘭産れの愛蘭人で學校の教師をしてゐた事もあり、現在七人の子福者であるが引込み勝ちで萬やむを得ない場合の外は公共の席へ出た例がない。

足かけ六年前、夫君デ・ヴァレラが遂ひに推されて大統領となつた時も彼女は、「政府が公共接待用の大統領夫人を別に採用して呉ればよいのに」と嘆息した程である。それ位ひに温順な彼女も仇敵をいつまでも忘れないと云ふ愛蘭人特有の性質を持つて居り、殊にデ・ヴァレラの運動を壓迫した

事のある人々が今更現在彼の勢名に媚びて來ても斷じて寄せつけない。

大統領になるまで彼の家庭には女中が居なかつた程の質素さで、其後も漸く一人だけの女中を使ふ範圍を出でず、以つて夫妻共に愛蘭の貧困財政を體してゐると云ふ。

政治家としてのデ・ヴァレラは人づきがよく、又出来るだけ多くの人々に會ふようにして居るが、新聞記者關係には特に警戒的な態度を持ちつとけてゐるやうである。革命運動を一貫し彼に絶へず迫り寄つた倫敦フリート街の人々から與へられた苦い經驗が、彼をさう仕向けてゐるのだとも稱せられてゐる。

尙彼の女秘書は二十年來彼の仕事の手助けをして來てゐる事もデ・ヴァレラの名と共に有名となつたが、それでゐて彼が婦人達に對し常に一定の距離を保つて絶體に亂さないのも特長と見られてゐる。一九一九年（大正八年）以來、愛蘭島の大部分はその歴史を新にした。現在のデ・ヴァレラは實際上の獨裁官には相違ないが、彼自身の思想は全く民主的で、彼は今たつた一つの希望の完成に向つて全力を盡くしてゐる。即ち愛蘭島全部一體となつた獨立、それだけがデ・ヴァレラの一生を賭けてゐる念願に外ならない。現在の愛蘭自由國と云ふものは、愛蘭島三十六縣の内三十縣だけを以つて構成されて居り、他の六縣は北アイルランドとして未だにユナイテッド・キングダムと稱する英本國に包含されてゐるのである。

彼が大統領就任以來、愛蘭自由國は英本國に對する年賦上納金を一方的に取止めてしまつた。その

爲めに英本國は愛蘭自由國製品に全く外國なみの關稅を課する事とし、以つて經濟的にデ・ヴァレラ政權の行きづまりを企て、來た。然し彼等デ・ヴァレラ一派は敢へて英本國に屈服せず英帝國內に在る事を潔しとせず、目下愛蘭島を一單位としての自給自足の達成に大意である。

一方英本國として最も警戒する點は、愛蘭が英本國の背後に在る地勢を活用しソ聯なり獨逸なりを引き入れて、愛蘭の希望實現を脅迫し易いと云ふ事である。先頃の英帝戴冠式にも倫敦の英帝國會議にも敢然代表を送らず、既に英帝國群から離脱した事を表明するデ・ヴァレラはそれと同時に、「愛蘭自由國は英吉利攻撃の砲臺として愛蘭島を外國に利用させるような希望は持つて居らないのだ。」と大見得をきつたものである。

然り、デ・ヴァレラ政權は現在の處恰も英吉利獅子の尻尾をひつばつてゐるやうなもので、寧ろ問題は今後に殘されてゐる。彼が大英帝國を向ふに廻し貧農國愛蘭を如何に指導仕通せるか、デ・ヴァレラ今後の行動こそ注目に價ひするであらう。

三、英帝國の旅客機網

灼熱の砂漠アラビア、油を流したやうな印度洋を遙か下界に見て、時速二百五十哩で飛行し乍ら一風呂浴びたりダンスに打ち興じたり出来る……

落し話のやうにも聞えるが現にさう云ふ空中旅行の實施に向つて着々準備を進めてゐる國が歐洲大陸の西はづれに在る、即ち地球上まばらに到る處に分家や出店を持つ英本國がそれである。

目下南英蘭のショート兄弟製作所で建造中の英帝國空輸會社の躍進計劃に使用する旅客機は、機體の長さ二百五十呎・兩翼の長さ三百呎と云ふ近海航路の汽船などよりは遙に圖體の大きいものである。八十人乃至百人の旅客を搭載し、艇内には特別室もあれば舞踏室もあり浴室さへも備へつけられるやうである。そして操縦者や旅客の席は出來得る限り機翼の内部に仕組まれ、從來旅客の座席や貨物の部屋として占められてゐた胴體は成るべく空にして軽くさせ、堅牢な機尾との釣合を保ち搭載量と安全度を一石二鳥式に兼ねると云ふ。

英帝國空輸會社では、英本國と自治領殖民地各方面との所謂帝國連絡機をすべてそのやうな大旅客機型に統一する豫定で、且つ又二ヶ年以内に各空輸機の平均速力を三百哩に高め、以つて料金の引下げを計り利用者の普遍化を目論んでゐる。

英吉利はその空軍勢力こそ佛蘭西や獨逸に劣り僅に伊太利と對等を保つてゐる現状ではあるが、海外遠く散在する多くの自治領や殖民地との連絡の必要に迫られた強さで民間航空の水準は遙に高くなつてゐる。

この傾向は勿論英吉利には及ばないが、遠隔の地南洋に有り餘る程の虎の子を持つてゐる和蘭にも當はまるものゝやうである。

英帝國民間航空の總元締めとされてゐる英帝國空輸會社は、今から丁度十年前に創業されたにすぎないのであるが、必要に迫はれ實に急速の發展をつゞけて來た。

最初埃及のカイロとイラクのバスマ間一千哩で店開きした英帝國空輸會社はその二年後に至り英本國と印度間五千哩の定期空輸を始め程なく英本國と南アフリ加間六千哩をも營業網とするに至つた。

そして印度空路はラングーンから新嘉坡へと次々に延長され、一九三四年の終りには濠洲まで直送の運びとなり、茲に英本國はカナダ自治領を除き各自自治領及び殖民地と英帝國內あらゆる地方への空輸網を完成したのである。そして開始當時には一週一回の定期も氣遣はれてゐたが、現今では印度空路及び南阿空路に至るまでそれぞれ一週二回づゝに増加される盛況を呈してゐる。

現在英佛海峡の横斷旅客機は佛蘭西・獨逸・和蘭・白耳義と各國機を網羅してゐるが、英吉利機はそれら歐洲各國機の合計よりも遙に多数を示してゐる。

英吉利に於ける航空郵便取扱ひに就いても十年前には一日平均五百餘通にすぎなかつたが、最近では實にその八十五倍にも相當し一日平均五萬通近くに激増しつゝある。

そして近い將來英本國及び自治領殖民地相互間の所謂英帝國の内輪だけの封書郵便は從來のやうに陸上或ひは海上輸送によらず、すべて空輸本位に換へられる方針が立てられて居りその方面からしても英帝國內相互の接近策に餘念がないやうである。

英帝國空輸會社はその爲めに大型航空艇二十八臺と小型航空機十二臺の建造に大車輪で、その小型

航空機と稱するものですら座席二十四人分寢臺十六人分及び積載貨物量十八噸が標準とされて居り、發動機四箇三千馬力經濟速力二百哩と云ふ事である。

今日の狀態に於いて倫敦カルカッタ間は、最も速い定期汽船で十六日を要してゐるが、定期旅客機は六日半で英印間を連絡してゐる。又倫敦と濠洲シドニー間は汽船で三十一日間旅客機で十二日半を要してゐるが、英空輸會社の新空艇陣完成の曉には何れも現在の所要日数よりも遙に短縮される事であらう。

先頃それらの補助金問題につき當局の英吉利下院に於ける言明によれば、英本國印度間を二日で連絡し英本國東アフリ加間を二日半南アフリ加まで四日間、英本國と濠洲を一週間以内の位置に短縮する事を目標にしてゐるやうである。

若しこの計畫が實現すれば、英本國埃及間一週交互九回、英本國・印度間一週五回、英本國・新嘉坡地方一週三回そして南阿聯邦及び濠洲聯邦へは一週二回五至三回の定期旅客機が發着する事となる。

英本國とカナダ自治領間の空輸だけは未だに瀕踏み飛行の程度であるが、大型航空艇に小型の高速度航空機を積載する所謂親子航空艇をその大西洋定期連絡に實用すべく研究がつゞけられ既に殆ど成功を収めたと傳へられてゐる。

従つて英本國・カナダ間の大西洋定期空輸は最早數ヶ月以内にも實現すべく、その後は愈々太平洋上にも營業網を張り巡らせる豫定であると云ふ。やがては英國機一點張りで、地球一周を可能にする

と云ふのが英帝國空輸會社の目標であるらしい。

尙英帝國空輸會社は昨夏、米國の財閥ジェー・ビー・モルガンの訪英に際し、彼の支配するアメリカ空輸會社との提携を強め以つて着々世界空輸界の王座を築きつゝある。

即ちたがのゆるんだ英帝國の建直しは、先づ英本國と各自治領殖民地との距離短縮に在りと云ふ叫びは刻々に英帝國內相互の旅客機網を強化しつゝある。(昭和十二年六月・經濟日々新報所載)

四、英帝國各地の所得税

鳥打帽子の下級勤勞者にはそんな心配もないけれど、山高帽の英吉利人には齊しく餘り芳しからぬ月が、一年を通じて一度ならず二度も押し寄せて来る。

十二月がその第一回で、この月は名物の霧も立ち籠める時多く嫌ふのも尤もらしいが、他の第二回は六月であり、英吉利島に於いても一年中で最もよい時候なのにも拘はらず餘り歓迎されない月なのである。

即ちそれは總所得の實に四分ノ一を超へる高率所得税の納付期限が、それぞれ一月一日と七月一日とに差し迫つて来る爲めである。英吉利に於いては中産階級の人々に限らず、あらゆる人々は一家擧げて七・八・九月中に二週間の休暇を取つて避暑旅行をする慣習が強いが、富裕な人々や補助の多い

下流の人々は別として、中流の家庭人はその暑中休暇の費用を懸命になつて準備してゐる眞最中の六月末に、所得税の取り立ては確にこたへるやうである。

ナチス獨逸では獨逸國內に於いて暑中休暇を過すと云ふ事を條件として、暑中休暇費用は所得額から差引免稅されてゐる。

然し英吉利ではその暑中休暇の費用にも、勿論所得税が課せられてゐる事は云ふまでもない。その反動でもあるまいが、氣候の關係もあり英吉利人は相當多數對岸の佛蘭西や白耳義邊りへ暑中休暇に出る者が多く。

従つて十二月の所得納稅は年末でもあり覺悟の程はよいとしても、六月の方は兎角に恨まれ易い状態にあるやうだ。

北米合衆國の所得納稅者は人口一億二千五百萬の僅か四分にも達して居らないが、英吉利の方は人口四千五百萬の一割八分で、米國より四倍以上も所得税の適用範圍の廣汎さを示してゐる。

小學校の平先生も乗合自動車の運轉手も、婦人タイピストでも凡そ一人前と名のつく以上は殆ど全部が所得稅法の該當者である事を見れば、如何に英吉利人齊しく「所得稅」と云ふ言葉に鋭敏であるかと領けるであらう。

一方各自治領に於ける所得稅法は、大體に英本國の所得稅法の原則を取り入れられてあるが、或る手加減もされて居り又改善されてゐる點もあり、總じて一日の長ありと稱せられてゐる。

例へばカナダ自治領に於いて、鑛山・油井・木材等からの所得に對しては、それら所有物の價值遞減額を差引いたものが所得課税されてゐる。且つ又カナダは二つに區分した所得申告が必要とされ、一つは聯邦政府他は地方州政廳によつて取扱はれるのである。

濠洲聯邦も亦聯邦州政府と地方州政廳との二重の所得税法によつて居り、英本國では過去六ヶ月づゝの所得額を基準とするのに對し、濠洲では過去五ヶ年を平均算出して基準となしてゐる。

新西蘭は英本國のと殆ど同様であるが、直接所得の税率と動産不動産等より入る間接所得との税率には非常な差別がある。勿論直接所得の場合の方が遙に低率とされて居るもので、英本國でもその差率はあるが新西蘭のやうに大差はない。そして新西蘭では所得税の滞納と稱する換りに、五分利加算の納税延期と云ふ方法が行はれてゐる。

英帝國の各殖民地の所得税は、場所により必ずしも一定して居らない。

西アフリカのナイジェリア（吾が日本全土の約一倍半住民二千萬人）、英帝國中最大の屬領であるナイジェリア殖民地に於ける所得税は、百磅から二百磅までの所得に對し一磅を課し以上百磅毎に一磅づゝの割合で徵集してゐるやうである。

又東アフリカのケニア殖民地（吾が日本全土から北海道を控除した廣域・住民三百餘萬人）に於いては、所得額百磅より二百磅までに二磅、六百磅未満には七磅の徵税が行はれてゐる。

大體にこれら英帝國の中堅的殖民地には、所得税の取り立てが齊しく行はれて居るが、その税率に

は累進加重の傾向を含まず、つとめて大資本の流入開拓の途を設けてゐる事が看取される。

その他西印度諸島中に屬するタークス・カイコス兩島（合計面積は淡路島より小・住民約六千人）は、英帝國內に限らず納税者にとつて世界一の樂園であらうと云はれてゐる。鹽を主産物とし氣候暑けれど健康地なりと稱せられるこの兩島には、所得税は勿論の事土地税もなければ内國消費税もなく、車税もなければ人頭税もない。

そして地方政廳は輸入税と、鹽の輸出税だけで充分に賄つてゐる状態である。

英帝國內の各地を通じて、所得税の最も粗雑に施行されてゐるのは印度であらう。但し二千留比（約二千六百圓）以下の、所得には課税されて居らない。

所得税率の粗雑な一例を挙げれば、一萬四千九百九十九留比の所得税が七分弱の一千十五留比であるにも拘はらず、一萬五千五百留比の所得税は九分強の一千三百九十九留比に飛躍する。即ちこの場合五百一留比だけ所得が多い爲めに、その増加額の全部に近い三百八十四留比が増徴されるのである。

又印度に於いては妻の所得も別箇に計算され、印度教徒に多い家族綜合財産制度による所得の課税率は相當に高い。例へば各自それぞれ獨立財産による四人が一つの仕事にたづさわり七千八百留比の利益所得を挙げた場合は無税であるが、綜合財産制度による一家族内の四人が一つ仕事によつて七千八百留比の利益を挙げた場合には四百留比の所得税を課せられるのである。

印度所得税法に於ける今一つの缺點とされてゐる事は、査定所得額が總收入主義であり總支出の如

何は不問に附せられ、又控除種目が更に認められて居らない點であらう。

北米合衆國に於ける所得税は近頃は次第に引き上げられて來てゐるが、それでも英本國のには遙に及ばない低率のやうである。

所得税を納附してゐる米國民は一千人の中僅か三十六人だけであり、一千人中の百七十八人にも及ぶ英吉利の所得税が及ぼす社會的の廣範圍さとは比較にならない。

米國も英帝國の各自治領と同様に、聯邦政府と地方政廳との二つに區分して所得納税するやうになつて居り、英本國の複雑な税法に比すれば非常に簡單化されてゐるやうである。

英米兩國に於ける所得税現状の重立つた相違として、米國に於いては貸金や不動産・社債券の取得を所得中に含まず、若しそれらが賣却される場合買入當時との差額を確めて初めて所得額に計入する。従つて米國の所得税は株の暴騰慘落を鋭敏に感受し、景氣如何により收税額の増減が非常に甚だしいのである。

そして所得税回避の豫防法として、一家族間の賣買を認めず、又甲が支配の實權を持つてゐるとか五割以上の株券を所有してゐる會社と甲個人との賣買も認められず、以つて話合ひの損失賣買を或る程度まで至難ならしめてゐる。且つ又昨年度以來、未分配社内保留の利益金にも七分乃至二割七分の所得税が課せられ初めてゐる。

尙米國所得税法の特長の一つに、單純の小型納税者と複雑な大型納税者とを劃然と分類した税率を

施行してゐる事が擧げられ得るやうである。

終りに歐洲諸列強の所得税を一瞥すれば、國民一人平均にして、やはり英吉利が最高額を示し二百七十九圓を算して居り次いで佛蘭西の二百十二圓、復興獨逸がそれに迫つて二百圓に達し、四位は可成り桁が下つて百十五圓の伊太利と云ふ事になつてゐる。

即ち地中海では英吉利と四つに組んだ伊太利も、所得税額から見ると二人半かゝらなければ英吉利の一人分に匹敵出來ない有様である。

佛蘭西では結婚して子を持たない夫婦の場合、一ケ年所得約六千九百圓に對して、二百三十四圓の所得税が課せられてゐる。

又獨逸に於いては、賃銀月給等の直接所得税と、動産不動産等の間接所得税とにそれぞれ區劃處理されてゐる。

例へば間接所得税の方は、一ケ年七千圓の所得に對し六百八十六圓の課税がなされ、直接所得税の方は一ケ月五百七拾四圓の收入に對し月拂四十六圓餘と云ふ割合になつてゐる。

以上各國に比較して英吉利の所得税率は確に高位を占めてゐるが、一面一人當りの國民所得も亦英吉利が最高額に在る事を見逃してはならないであらう。

三、英伊のイラク油田争奪戦

世界で最も豊富な油田地域と稱せられてゐるイラン（日本全土の約二倍半・住民一千餘萬）及びイラク（日本全土より朝鮮半島を控除せし地域・住民三百萬）地方は、今世紀の當初以來歐米列強各國の深刻なる鬭争の的とされ、先進諸國はそれらの採油權の獲得或ひは獨占を目指して虚々實々の懸け引きを撓ゆまず繰り返へしてゐる。

即ち見ように依つては、イラン（舊名ベルシア）及びイラク地方の噴油こそ世界の重油時代開幕と共に三十餘年、歐羅巴近代史上に強い嵐を吹き起してゐる低氣壓の中心地とも稱せられる譯である。

埃太利人ウキリアム・ダアシがベルシア帝國全土の六分ノ五を覆ふ大區域に渉る所謂ベルシア油田採掘權を六十年期限付で、同國王から許與されたのが今から三十七年前即ち一九〇一年の事であつた。それと殆ど時を同じうしてアルメニア虐殺事件に關する賠償を受け取りに土耳其へ赴いた北米合衆國のコレビー・チェスター提督は、ふとした機會に土耳其南部のモスール地方（現在はイラク王國の北部を構成してゐる）で採油可能な事を聞及び、逸早く當時の土耳其王アブドルから特權許與の口約を獲て了つてゐた。

次いで埃人ダアシは恰も佛人レセツプスが佛蘭西に於いて容易に志を得ず英吉利へ渡り初めてスエ

ズ運河開鑿の計畫を實現出來たのと同時に、彼も自己の生國に於いては問題にならず結局倫敦に着いてその所有するベルシア油田採掘の特權を活かす事となり、茲に後世世界屈指の存在となつた英吉利ベルシア石油會社（アングロ・パーシアン・オイル）は設立され即時に現地の操業を開始した。

そして奇しくもフィッシャー提督の、英吉利艦船次代の最善燃料は炭より油へ移るてふ結論もその頃に到達したものであり、共に一九〇九年（明治四十二年）の事であつた。

然し乍ら英海軍當局はその重油政策が徒らに列強を刺戟する事を恐れ公表しても一向に差支へなくなる時機まで極力冷靜を装ひ下準備を充實し、従つて初期の英吉利ベルシア石油會社は専ら民間資本によつてゐたのである。

そして愈々積極的に採掘營業を初める手順となりダアシ自身がバグダッドからモスール地方へも出向いたのであつたけれど、其處には既に前述のやうな米國の勢力が扶殖されて居り、且つ又獨逸も俄然と根強い地盤を獲得し今にもベルリン・バグダッド間直通鐵道の大計畫さへ實現しやうな情勢を展開してゐた。即ちベルシア油田の先覺者ダアシすら嘔然とさせられた程僅か數ヶ年の差で、イラクの油田地方は一躍して歐洲列強の垂涎措く能はざる人氣者となつてしまつてゐたのであつた。

そのやうにしてベルシアの油田と需給の途を立てた英吉利ではあつたが、歐洲大戰の勃發當時には世界重油供給量の僅か四分ノ一しか左右し得て居らなかつたのである。

この劣勢振りを痛感したのは英吉利民間よりもやはり海軍當局であつた事は云ふまでもなく、重油

主義者フイツシャー提督達は躍起となつて英吉利の重油問題を安定化出来そうな人物を探し廻つた。

そして遂に選ばれたのが當時例のローヤル・ダツチ石油會社の平社員に過ぎなかつたヘンリ・デターディングで、彼は期待にそむかず先づ英吉利・和蘭の共同出資でふ看板を掲げるローヤル・ダツチ會社の所有油田探掘権の大擴張を強行し、無慮十八ヶ國に及ぶ探掘権を掌中に收め公稱資本金も逐次増額され二千五百萬磅(約四億三千萬圓)を超へるに至つた。

次いで彼はローヤル・ダツチ石油網を代表して、猶太財閥のシエル石油網に敢へて加盟し以つて大局的見地から全英重油消費に對する供給網の擴大強化を斷行したのである。

處が一八三二年に至り不況の混亂に取り紛れ猶太系英國人たるインヴァーフォース卿達を首腦者とした英・伊・獨三國共同經營のモスール石油會社が、既存の英吉利系石油會社とは全然別箇に創設されるに及び、近東地方に於ける英吉利の重油的立場は一朝にしてその安定性を奪はれてしまつたのである。

その新しく企てられた國際會社は公稱資本金こそ二百三十萬磅(約四千萬圓)にすぎなかつたのであるが、政治的色彩を多分に含み而も遙か彼方米國側からの暗躍さへも織り込められ名づけてモスール石油會社とされた。

當時恰も復興伊太利が愈々對外積極策に出ようとする氣配を濃厚に示してゐた折柄の事とて、英吉利當局側ではその動きを極めて重大視し英吉利鑽油界の權威者と評せられるパーミンガム大學の鑽油

學教授ジョン・カドマンを第一線に立て、英吉利ベルシア石油及び英吉利イラク石油兩會社の總指揮者として只管モスール石油會社の登場に備へた。

カドマン教授は英吉利に於いても新時代の實業家型を代表する者との評高く、技術的に手腕を振ひ且つ就練した外交家として、温健な取引者としてイラク油田統制權の確保に向つて著々つとめ、又米國・ソヴェエト聯邦・ルーマニア等の産油供給國を殆ど何らの刺戟する事なくして、供給消費の常道を開拓しかの世界的に著名となつた油送管計畫は彼の經營指導の下に於いて着手され完成を告げたまのである。

一九三五年一月、イラク王國の首都バグダッドより奥地に在るタイガリツシ河の東岸からトランスジョーダン國を横斷しパレスタイン英統治領のハイファ港まで六百十八哩を幹線とし、佛蘭西委任統治領シリアのトリポリ港までを支線とする總長一千二百哩の大油送管は、一ヶ年總計四千萬噸とし一噸の重油を一秒未滿でアラビアンナイトの夢幻境から地中海岸までの輸送能力を完備せしめて採油を開始した。

斯る大計畫が全く一瀉千里の間に施行された爲め、一九三二年の創立以來絶へず英吉利ベルシアや英吉利イラク石油會社の巨豪をよく政治的に脅かしてゐた問題のモスール石油會社は、一變して今度は反對に主として経済的にではあるが大々的な壓迫を蒙らされる立場に追ひやられてしまつたのである。

結局モスール石油會社は英吉利イクラ石油會社のやうな大仕掛の油送管を敷設するか、それとも會社自身をそつくり身賣りするかの一途を決しなければならぬ情勢となつた。

そして一度はモスール地方から佛領シリアを横斷して地中海岸に出でる鐵道施設も計畫され又油送管の敷設も運動したのではあるが、肝腎の佛蘭西は從來の英吉利イクラ石油會社の自領トリポリ港向け送油支線により兎も角も用足つて居り今更敢へてモスール油田の方へ乗り換へる必要も感ぜず、而も新にモスール石油會社へ油送管敷設の特權を許與する事は佛蘭西としてその間の經緯を充分に知り乍ら英吉利の不利とする處を敢へて行ふものであり、結局何の利益もなくして英吉利側を憤慨せしむる事は愚の骨頂であると云ふ都合から拒否と決し、従つてモスール側の第一應急策である佛領シリア經由輸送計畫は不調に終つて了まつたのである。

然し乍ら英吉利イクラ石油の輸送管と同様な經路の許可を獲得する事は、それらの通路に當るフランスジョーダンにしてもパレスティンにしても例へアラブ猶太兩民族の角逐により幾多の動搖ありとは云へ未だ英吉利の勢力が絶大である以上、いやしくも反英の可能性ある設備を新規に許可しよう筈はなかつた。その結果どうしてもモスール石油會社の善後處置は身賣りの外なく、遂に伊太利石油當局からの代表としてモスール石油會社の重役の地位を占めてゐた人々の退陣を來たし、問題の國際的モスール油田地方も漸くイクラ石油會社と同様な英吉利ベルシア石油會社系の掌中にその實權を收められたのである。

けれどもこのモスール石油會社は其後程なく再び問題を惹き起した、と云ふのは當時英吉利側は英吉利ベルシア石油會社の方の經營に手一杯でもあり、要するにモスール石油會社の方は反英的勢力の策動を封じて置く事だけが第一義とされてゐた爲に、伊太利資本の引揚げによる支配權獲得以後は勢ひ經營振りも積極的ではなくその影響は忽ち表はれ、イクラ政府に對する油田特許年賦金の納附に窮しモスール石油會社は再び財政的困難を味はされるに至つた。

その虚につけ入つた伊太利側は以前の經濟的退却をよき體験として一層に陣容を整へ直し、再び經濟的攻勢に出で財政的危機に在る弱氣のモスール石油株を積極的に次々と手を廻はして買ひ占め、忽ちにして重役陣の大半をフアツシヨ系統に塗り代へて氣勢を揚げた、實にそれは昭和十年の出來事であつたのである。

それ以來イラクのモスール油田を繞つて提訴された國際司法裁判の事件は三つを數へ、云ふまでもなく原告は英吉利派のローヤル・ダツチ石油系であり、即ち産油引受け消費量に應じてモスール石油株の割當を決定仕直すべしと云ふ抗言が何れも本筋をなしてゐた。

然るに昭和十一年に至り流石果敢な伊太利重役團も再び經濟的に行詰り退歩を餘議なくせしめられ、従つて相對的に儲け物をしたかのやうに辛うじて英吉利はその統制權を恢復した。

但し茲に留意を要する事は例へ英吉利系が支配權を獲得したとは云へ、モスール石油會社新重役陣十二名の内四人乃至六人のみが純粹の英吉利人であり、他の重役達は何れも他國々旗よりは現實に即

する限り先づ英吉利國旗の下にゐた方が利益をより確實に保ち得るであらうとの見通しによつて集つてゐる人々であると云ふ點を看過してはならないであらうと思ふ。

斯様にしてイラク王國北邊のモスール油田問題は、二十世紀の開幕を待つかのやうに先づ米人チエスター提督及び埃人ダシによつて初めて國際舞臺に登場せしめられ、英獨伊の共同經營から次いで英吉利及び伊太利二國の統制下を往復する事二回、遂ひに經濟的大勢に押され三度その覇權を英吉利へ渡さなければならなくなつた伊太利は、今やその鋒先を全く換へそれらモスール油田を取巻く地方及び地中海宛油送に必要な通路に當る地方の人的要素を構成するアラブ民族大衆に廣く呼びかける政策に傾倒し、大處高處から回收を期し最後のモスール油田一帯の統制覇權を只管目標として全力を注ぎつゝある。

一方今日に於いては守勢の立場に在る英吉利側としては、イラク・トランスジョーダン・パレスタインを一貫する地中海向け油送管施設の防備を強め活用すると同時に、對伊和戰兩様の構へから近東産油の地中海經由輸送とは全然別箇にモスール地方から發するタイガリツシ河七百哩の下流にのぞむバストラ港中心主義を建て、バストラよりベルシア灣へ積出し南阿喜望峯經由の油送航路線の恒久化をも企てゝゐる。

即ちイラクのモスール油田地方の覇權を完全に獲得し了はすか否かこそは、英伊抗爭の旗色を決すべき一大要因となるであらう。現實性は既に今世紀初頭以來の宿縁に外ならず、英吉利の經濟的掌握

遂ひに恒久化するか或ひは又伊太利の政治的企劃よくそれに取つて代るか、今や地中海の風波は近東の砂漠地方に大旋風を巻き起しつゝあるやうである。(昭和十三年一月・東邦經濟所誌)

第九篇

倫敦の舞臺裏

- 英吉利の大學と大學生
- 現代英吉利青年の氣力
- 英吉利のお百姓達
- 霧に包まれる倫敦橋
- 英吉利繁昌商店のぞ記
- 世界を走り廻る牛
- 在英閑話五題
- 倫敦の提灯屋達
- 對英日本宣傳
- 英京の街頭風景

一、英吉利の大學と大學生

古來誰が言ひ初めたのか「處變はれば品變はる」と、團扇片手に浴衣がけで楽しむ川開きも正にその譬へに漏れないやうである。

東京の隅田川では玉屋鍵屋の掛け聲勇ましい大花火によつて行はれるが、倫敦のテムス河ではダークブルー・ライトブルーの聲援物凄いな牛津・劍橋兩大學のボートレースによつて川開きされる。

明治維新以來既に七十年、彼の泰西文明から物質的の一半のみを鵜呑みにして成長し來たつた吾が日本の近代文明は、今やその没却視された精神の一半を補強すべき必要に迫られてゐる。

この傾向は高等教育の機構に於いて特に顯著であり、今や大學教育機關は徒らに目先き手先き發育し肝腎の心眼は恰も鳥目のやうになつてゐる學生群を擁し、偏頗な智育教育の行き詰りを己れ自身如何とも打開出來得ずに困惑しつゝある。

今更歎しても詮ない事ではあるが、明治中頃の識者達は表面單に物質文明と評せられた泰西文明にも精神的に力強い或る底流が嚴存してゐた點を、例へ歐米追行に急ぐ場合とは云ひ乍ら何故に敢へて不問に過ぎ去つたのか實に遺憾な事である。

日英兩國の大學及び大學生の比較、それは精神的なるべき日本の大學が寧ろ物質的であり、反對に物質的な筈の英吉利の大學の方が却つて精神的であると云ふ奇異な實情を列記するに外ならない。

英吉利に於ける大學、就中その代表的な牛津・劍橋及び倫敦と云へば、吾々一般の日本人はテムス河川開きの年中行事であるあのボートレースを想ひ浮べ、或ひは何かしら中世紀的な雰圍氣を想像させられる人が多い。

先づそれら英吉利の諸大學にはすべて禮式作法の多いと云ふ特長を擧げなければならぬ。對社會的に非常な規律禮法を有し、一方學内に於いては最大の自由を保持してゐる。

吾が日本の諸大學に於ける學生は、中學校に高等學校に學びやがて大學生ともなればその機構が萬事小主人公化するやうになつて居り、彼等は己れの好む處に居を占め好きな講義や氣に入る研究にも智的に偏した自由風潮に廣い進路を興へられてゐる。且つ又何處でどんな時間を過そうとも、或ひは夜分何時に歸宅しようとも一切無頓着であるのが日本に於ける大學教育の組織である。

英吉利の大學教育の組織は全然その逆を行くものであり、例へば牛津の大學生等は學部當局によつて研究對象を指示され且つその日常生活の種々な部分に互つて何かと指導され監督されてゐる。従つて單的に云へば、英吉利の正規大學生の生活は非常に自由を小範圍にしか持つて居らない。英國三大學中倫敦はそれ程のこともないが、牛津の學内に於ける宗規や規律が非常に多くある事は、吾々日本の大學生活を基準とした者には奇妙すぎる程に感じられるのである。殊にその規律の中でも、正直な

若い學生としては凡そ必要もないと思はれる項目さへも決して一二にとどまらない。けれども在學三年に及び紳士青年の完成を期する英吉利大學教育と云ふものが、決して無價値な幾多の宗規や規律を擁してゐるのではないと云ふ事を誰しも會得するやうになる。

牛津の街にしる劍橋の街にしる學生達の去來には些かのこだわりを見受けたい。尠くとも彼等は一様に何ら物質的に煩はされてゐないと云ふ強い印象を與へられるやうである。

残念ではあるが吾が日本に於いては、彼等英吉利大學生のやうに徹底した幸福さ若々しさに溢れた大學生を見かける事は甚だ稀れである。

寄宿舍生活で幾日となく暖い食事を採らすとも、彼等英國大學生達の瞳には一點の飢えすらも浮んでは居らない。

大體に英吉利社會は從來も現在でも、日本の近代社會のやうに猫も杓子も大學へ入れるといふやうな事は斷じて行つて居ないのである。頭腦の特に優秀な青年を除き他の子弟はすべて専門學校程度で學校生活を打ち切り、其後は實社會で勉強すると云ふ大勢である。

従つて英吉利の大學生は奨學金受領又は自費の學者志望者や技術家志望者の外は、極く上流又は極く富裕な階級の子弟を以つて充たされてゐる。

即ち兎角怠惰に流れ易い富裕階級や上流の子弟を寄宿舍生活によつて整然とさせる組織機構による英吉利の大學に於いて、名目的だけでなく實質的に學んだ青年が自然と紳士化される事は寧ろ當然であらう。

以上のやうな情勢である爲めに英吉利に於いては大倫敦市でさへも僅か倫敦大學一つの存在で事足つて居り、日本のやうに例へ名ばかり多く各自内容が小さいとは云へ大東京市内だけにでも二十程の何々大學がなければ入學難を起すと云ふやうな有様は、彼等英吉利大學側として想像だに及ばない所以である。

元來牛津や劍橋と云へば直ちにその富裕そなた學生々活振りを聯想し、富裕な身分でない限り到底入學も望めないやうに思はれてゐる。それは外國人學生の場合確にさうなのであるが、英吉利人學生は成績次第で諦めの必要は尠しもない。特に完備した奨學金制度による多數の給費生が、富豪上流子弟の間に伍して萬事同様に學内の生活を樂しんでゐる状態を一瞥すれば何人も諒解出來得る事である。

即ち英吉利に於ける大學教育の根本方針は決して貧なるが爲めに學び得ず、學び得ても肩身の狭い立場に在ると云ふ事はなく、英吉利人である限りは頭腦のよさと努力の如何により青年學生の途は徹底的に拓かれてゐるのである。又スコットランド地方の大學では、兩親がスコットランド産れでありさへすればその子弟を何人でも希望に應じ、全然學費差して醫學士まで育英する組織さへ實行されてゐる。

奨學資金や給費生制度に就いては、吾が日本の大學施設が如何にも冷淡であり、他の社會施設が刻々に充實される躍進日本にも拘はらず高等教育に對する奨學制度は餘りにも非社會的のまゝに放置さ

れては居らないだらうか。

厳格な監督指導の外廓の内に徹底した自由を享受する牛津の大學生と、何ら指導的大綱もなく而も生半加な放任主義による東京の大學生との差異は餘りにも甚だしい。

即ち英吉利に於ける大學とはその二三特殊なものを除き、青年を一個の獨立した人格として活社會へ送り出すべく磨きをかける最後の仕上げ場なのである。

大學卒業後どうするかと質問すれば、日本の大學生は十中の九まで異口同音に何でも構はず就職云々を即座に答へるが、英吉利の大學生は技術關係の者を除いては一様に「色々な事に興味を感じては居るが未だ具體的にどの途を採るか判らない」と答へる。

よい加減な包装だけの専門家製産工場こそは現代日本の全部とは云はぬまでも大多数大學の形容詞に相違なく、學生も殆どその全部近くは商標獲得を目當てに大學へ行つてゐる實情ではなからうか。

然るに英吉利に於いて特に牛津大學に於いては、恰も日本の高等學校に精神修養や宗教學等を加味したものが基調をなしてゐる。従つて其處に入る青年達は、日本の大學生のやうに限られた狭い範圍の智能を深める事を第二とし寧ろ人間としてもつと廣い範圍の教養を受けてゐるのである。

せめて大學は出て置かなければ就職も出来かねると云ふので猫も杓子も角帽をかむると云ふのが近來大多數の日本の大學生であり、極く上々の部で法律家になりたいとか醫者になりたいとか、技術者になりたいとか、自ら限定した狭い將來を胸に畫いて日本の青年は大學の門をくぐるのである。

斯のやうな結果は當然に、日本の大學卒業青年達は氣障にませて然もすべてがせよこましくなり、線の細い者が多く輩出されなければ却つて不思議とならう。現代はそれでもよいとして、そのやうな小人間的人々に率ひられる次代の日本の姿は想像するだけでも情無い事である。今や吾が日本は實實に支那大陸の人々を教導せねばならない立場に置かれ、大人間的日本青年の輩出は誠に緊要とされるにも拘はらず實勢は逆行しつゝある。

この風潮に引換へ英吉利の大學生は或はヌーボー式と云ふそしりはあるかも知れないが、彼等の大多數は各々専門研究へ入る前にその専門研究と何ら直接の關係をも考へず、より廣い一般社會の獨立人としての教養を修め深めんが爲めに大學へ行く。現に日本の大學生活の體驗を持つ者でも英吉利の大學へ入ると自然に、大學とは一般人間としての最高修練所なりてふ感じを是認するやうになる程である。彼等英吉利青年達はまづ牛津に入り、後徐ろに自己一生涯を通じて如何なる方面に如何なる仕事を爲すべきかを決定する。

この傾向は一見すれば大學生となるよい年頃まで、將來何になるか取り決めず頗る浮世放れしきでゐるやうにも思はれるが、然し年少の頃の取決めよりも遙に多く深い素養思慮を以つてその將來の進路を計る爲め、勢ひ生涯歩むべき方向への募進振りには非常なものとなる。即ち英吉利の大學々風は大型晩成主義とも稱へ得べく、一方吾が日本の大學々風は國民資力の影響もあるが概して小器早成主義と稱せられるかも知れない。

然らば英吉利に於ける大學例へば牛津や劍橋のやうに德育を主とする爲め、學術的には諸外國のそれよりも遙に劣り水準も低位に在らうと云ふ事は當然に推考される處である。だがその觀察は全く的放れであり、德育第一主義の缺點を排除する爲め英國諸大學は専門學術研究者の入る大学院制度を強化し發達せしむる事に餘念がない。

従つて英國諸大學の智育的水準も決して低位に置かれてゐる筈はなく、目新しい例として倫敦のグレゴリー博士やロビンズ教授等少壯學者が金融爲替問題に就いて國際權威者をリードしてゐる程である。

又英吉利大學に於ける講義の方法も、大體に一定の参考書から容易に資料を研究出來得る範圍以上の講義は行はれない。日本の大學に於ける講義振りは講師にもよるが概して、眞面目な學生である限り無暗に多くの参考書漁りを強ひる傾向が多分にあるやうである。その爲めに大学院以外の英吉利大學々部に於ける學術的講義の水準は平均して、或ひは日本の大學に於けるそれらよりも低位に在るかも知れない。實際日本で眞面目に勉強した大學生が英吉利へ渡り、向ふの大學生と理論を闘はしても彼れに劣る事は殆どない。けれど其處に學理記憶者としての長こそあれ、日本の學生は社會に於ける獨立した青年として未完成である態度が、一見して明瞭に對照されるのである。

次に英吉利大學に於ける特色中、學校の講義以外に擔當教授の個人的指導後見制度が發達してゐるが、これは近來日本の大學でも例へば亞流にもせよ彼の長を採り入れつゝあるやうである。

現行大學制度にしても何事によらず勿論吾が日本として秀いでた點も多いが、一方英吉利にも英吉利として幾多の特長を有して居るものであり、徒らに唯我獨尊他を顧へり見ぬと云ふ態度は自己發展の今日を當然意味するには相違ないが、それは必ずしも凋落の前途を豫約するものではないと斷言は出來ないのである。即ち吾々は慎重に彼等日進月歩の優越點を採り入れて須らく自己の榮養とせねばならない。その技能こそ大和民族天惠の強味に外ならぬ筈であらう。

二、現代英吉利青年の氣力

前世紀以來、體育運動の母國と自負してゐた英吉利は、去る伯林のオリムピック競技に於いても豫期に反し、事毎に敗れ彼等傳統の誇りは完膚なきまでに失墜させられた。ロサンゼルスに敗れ今度こそはと意氣込んでゐた英吉利は、最善を盡くしたチームを送つた筈にも拘はらず慘敗を喫したのであつた。

敵は幾萬ありとても英吉利人はそれを突破しきれぬのだ……英吉利人は何事に就いても決してひけを取らない……かういふ信仰にも近い自信が百年前の一般英吉利青年の胸中に溢れてゐたものである。けれども今日の英吉利青年は島國に住み乍ら、山國のスキス勢にヘンレー・レガッタの榮冠を奪はれたりする。拳闘は英吉利大衆を通じて最も盛な運動とされてゐるが、それでも米國には及ばない。

英吉利島傳來のクリケットでさへも、英吉利は七八倍の人口を擁し乍ら濠洲聯邦にやゝもすると負けるやうになつてゐる。

南阿聯邦や新西蘭或ひは西印度諸島などは僅かの機會と手段としかに恵まれて居らないにも拘はらず、それでも諸種ある運動競技を通じて英本國に挑戦する勢ひを示してゐる。

アソシエーション・フットボールは英吉利の冬期を通じて最も大衆的な運動ではあるが、それでも澳太利や獨逸に敗退させられたりしてゐる情態である。

英吉利は體育運動の王座に永年踏み止まつてゐると云ふ情勢を有し乍ら、何故に斯くも事毎に運動競技に芳しからぬ結果を示してゐるのであらうか。

即ち英本國は全歐羅巴諸國中でも最も優良な食糧を得られる地位を、平時に於いては享樂しきれるのである。何と云つても英吉利人の生活水準は平均して世界一であり、他に比較して英國人は最も多くの休養時間を持ち、而も野外の大氣は運動に適してゐる。且つ又英吉利人は近來血醒い革命や極端な財政的争亂を経験しないですんでゐる。

従つて心理的に物質的に餘りに平穩裡に生まれすぎて來た。英吉利の青年達は餘りに平穩な……平凡な空氣の裡に成育して來てゐる。

現代英吉利青年の中流及び一般階級の大多數はクリケットかフットボールの試合か、それではなければ何かの催しを眺める専門になり易く、上流の青年達は自動車を乗り廻す事を以つて運動としてゐる。

即ち實際に各自の身につく運動は兎角に閑却視され勝ちである。それ故に彼等は評する事にのみ長じて、所謂口先きばかりの弊が認められ易い。もつともこのやうな傾向は決して英吉利の青年にばかり限つた事でもなく、吾々も慎重に絶えず留意して置かなければならない問題であらう。

即ち餘りにも平穩に恵まれて成育した事及び各自の身につく體育運動を没脚して來た事が今日の英吉利青年を甚だ不利な立場に墜し入れたのである。

最近英國に於ける各學校當局の學生就職協議會では、彼等英吉利人學生は餘り冒險を欲せず寧ろ安全第一な月給取りを希望してゐる大勢を報じてゐる。

これとても強ち英吉利學生にばかり限られた事ではないやうである。近代の經濟機構は只管青年達に去勢を強ひてゐるとも謂ひ、且つ個人に活躍發展の機會はあり得なくなつたと稱せられてゐる。然し何れの時代に於いても、四圍の社會情勢は常に若者の出鼻を挫ちこゝろとしてゐたものに相違なく。

特に英吉利青年の場合、前世紀の半ばかの劍橋大學を了へ敢然として阿弗利加の熱砂へ飛び込んで行き、大望の爲め遂ひに苦闘し抜いた彼等の先輩セシル・ローズ等は、定めし南阿キンバーレイの地下に於いて現代青年の安逸さ無氣力さを歎いてゐる事であらう。

三、英吉利のお百姓達

バター着色

日本のお百姓と云へば田を作り畑を耕す事が商賣であるが、英吉利のお百姓は麥位ひは耕作するが寧ろ牧畜が主な仕事とされてゐる。従つて牛乳やバターの類ひは、當然お百姓の管轄内にある。

霧の關係か倫敦の公園等の芝草は一年中青草としてゐるが、冬季野原に青草がなくなり乾草を飼料とする頃になると牛の乳が薄くなり勢ひバターの色も白色を帯びるやうになる。然し一般にバターは黄色の方がよいとされてゐるので、頭のよい農場では人參の汁を入れバターの着色をやつてすましてゐる。

黄色は白色に勝る、バターに於いてすら斯の如し、況んや人間に於いておやと言ひたい話ではある。

鶏のお化粧

最近英吉利の農場方面に口紅の需要が多くなつて來たので、定めしお百姓の娘さん達までも軍需景氣にあふられてお化粧を初めたものと思はれてゐた。

けれどもその需要の増加振りが餘りに甚だしいので、其の筋が態々調査した處によると豈圖らんや人間ならぬ鶏の化粧用に使はれてゐる事が判明した。即ち鶏を市場に送り出す時それら鶏冠の色合が非常に値段の高低條件とされ勝ちなので、お百姓達が最も自然的に見られる新発見の化粧法を施し初めたのである。

爲替の變動と英國牛

一昨年來佛蘭西についで和蘭や瑞西の幣價切下げは、其後英吉利の農村方面にどんな影響を與へたであらうか。

和蘭のチーズとバターや南佛蘭西の速成栽培の野菜類は特に英國向け輸出の好機會を恵まれたが、元來この種の農産品は英吉利農場の餘り得意としてゐないものであつたので、それらの品々は要するに從來の贅澤の域を稍下つて需要を増加した程度にすぎない。

元來が農産品輸入の多い英吉利の事であるから、佛蘭西和蘭瑞西等が四分ノ一前後の幣價切り下げをしても、事農村に關する限り殆ど影響はないものと見做し得るやうである。

因に現在英吉利に於ける野菜果物類の輸入税は次のやうになつてゐる。

桃・水蜜桃

一封度ニ付

八十六錢

松茸類

五十七錢

速成栽培葡萄	二十二錢
西洋梅	七錢強
トマト	七錢強
胡瓜	七錢弱
馬鈴薯	一錢弱

馬鈴薯は一封度につき僅か八厘程の割であるが、値段の安い物の八厘は大きく丁度一割五分の輸入税に相當してゐる。馬鈴薯と云へば英國大衆になくはならぬ食糧であり、佛蘭西の大衆はパンの爲めに働くこと云ふが、英吉利の勤勞者は實に芋の爲めに働いてゐる次第なのである。

大體に外國人と云へば肉ばかり喰べてゐるやうに考へる人が未だ多いが、料理店等では肉料理でないと金額も張らず儲けも薄くなるので肉を澤山に盛り込むけれど、一般の英吉利家庭ではそれ程に肉ばかりを喰べては居らない。寧ろ勤勞階級は馬鈴薯を主食物とし、その副食物にパンと肉や魚類を用ひると云つた方が實際に近く、又中流階級以上では野菜果物の方が主食物の位置を占めてゐる。

乳製品の對外輸出に大車輪の瑞西や和蘭の幣價切り下げによつて、英吉利の農村地方は一見脅かされ易いやうであつたが、從來既に英國々内に於ける上質ミルクやドライミルクは殆ど瑞西や和蘭品に占められて居り、勢ひ國內ミルクとはその販路を異にしてゐる爲めに直接の影響は感じなかつたやうである。

ビーフ・ステーキを名物とする英國牛よ、以つて列國の爲替騒動に安んじて可なりと云ふ次第である。

因に英吉利では牛を飼つても乳さへ賣らなければ無税、乳を賣れば一頭につき年額九圓近くの畜牛税を拂はなければならぬ。

四、霧に包まれる倫敦橋

大倫敦市南部の高臺に屹立し三四十哩の遠方からも常にその煌めきを望み見る事が出来た水晶宮は、寧ろ英吉利前世紀の繁榮振りを雄辯に物語る誇りでもあり名残りでもあつた。處が歐羅巴大戰に際し獨逸ツエツペリン飛行船の倫敦空襲に好箇の目標とされ、流石に傳統物を殊更尊ぶ英吉利の人々もその容積吾が國技館に數倍する龐大な水晶宮の處置には困却しぬいたやうである。

然し幸か不幸か十一年末その内部から失火して壊滅に歸し、倫敦名物であり乍ら英吉利防空惱みの種であつた水晶宮問題は自然があつさり解決してしまつた譯である。

けれども東南イングランド住民二十萬の食糧を集散する責任を持つ倫敦港に對する空襲の恐怖は水晶宮の焼失だけで解消され得ず、昨今無慮三千三百萬立方哩をそつくり包むと云ふ大風呂敷の完成に大童である。

即ち高さ二萬五千呎にも及ぶ金屬製のエプロンを無數の氣球で釣り廻し、以つて大倫敦市の防空を全からしめようとしてゐる。

一方ウエストミンスターの議事堂に於いても、そんな大掛りな設備をせずとも済まされそうな外交妙案は容易に産れ出さない。最大の難點は手近の佛蘭西が對獨恐怖の爲めとは云へ氣が多く、或ひはソヴィエト聯邦と提携し或ひは中歐の癩チエツコスロヴァキアと結んでゐると云ふやうに、内縁關係が複雑すぎる美人をなまじお隣りに持つてゐる惱みに等しい。

英吉利としては地勢からして佛蘭西と結ぶ事がよい方便であるには違ひないが、その佛蘭西と内縁關係にあるソヴィエトやチエツコスロヴァキア等が獨逸や匈牙利邊りといさかひを起した場合には、否應なしに泥喧嘩の最只中へ引ずり込まれる事が見えすいてゐるので、結局の處自腹をきつて自主第一の十五億磅軍備充實を敢然實施するより外に途がなくなつたのである。

テームス河の川開き行事であるオックスフォードとケムブリッジ兩大學のボートレースもすみ、テームス河に立ちこめる倫敦の霧も薄らぐ季節となつて來た。然し歐洲大陸に對する英吉利島の立場は一向に晴れ上らず、益々五里霧中の模様である。(昭和十二年四月・新報日誌所載)

五、英吉利繁昌商店のぞ記

牛の群る田舎道の自轉車修繕屋さんから走り初めて還曆祝ひに三千五百萬圓も社會の衛生費にと投げ出した自動車王、或ひは又靴下の軒賣りから營々遂ひに百貨店の社長、と云ふのが因習の塊りばかりのやうに思はれてゐる英吉利實業界の反面である。

倫敦の市内や郊外各地の停車場構内かそれとも出たすぐ隣りに必ず店を張つてゐるのが果物屋で、その又隣りか驛の眞向ひに申し合せたやうに在るのが所謂

ハウス・エージェントと稱するもので、その停車場の勢力範圍内に在る賣家貸家さては貸家の案内所である。位地見取圖や代金料金が一目瞭然の仕組みとなつて、客を待ち受けてゐる。探す者にとつては非常な時間の經濟にもなり、貸す方でも一々駆け廻らず都合によつては差配の役目をエージェンツトに引き受けさせるのである。多少の語弊はあるかも知れないが、日本の差配を時節柄強化し大衆化した商賣と言へやう。

日本にも今までない事もないが、その地域地域の貸家貸間の模様を手にとるやうに一般化したものは未だ見當らないやうである。外見の偉大さを好む東京にも大阪にも、大きくなればなる程尙更このやうな組織立つたハウス・エージェンツト式の店が要求されるであらう。そのお隣りに在るのが

文房具新聞雜誌屋で、その中に三等郵便局が同居してゐる。同居と云ふより、むしろ間借りと稱した方が穩當であらう。

郵便業務はお上の仕事、平民の店屋と同居はけがらしいなど云ふやうな野暮は、流石に格式張

る英吉利人でも口にしない。三等郵便局は何處でも必ず雑誌店とか食料品店とか八百屋とか大衆の往復頻繁な商店に同居して、爲替の業務から電報の引き受けまでもやつてゐる。

従つて三等郵便局長が村長さまとか町長殿とか云ふ風に威張る格式はないが、同居間借りである爲めに郵便局開設の固定資金が尠くて済み、勢ひ寒村僻地でも日本のポスト並みに郵便局をどしどし開く事が出来ると云ふ譯。利用者側として見れば近所に郵便局があり、而も買物のついでに済ませるか便利の上もない。

即ち同じ尊ばれるのでも、日本のは威厳により英吉利のは至便による。どうも老獪と云ふ文字は英吉利外務省のお上が獨占してゐるものでもないらしい。次に店を構へてゐるのが

同日中の仕上げを標幟とする洗濯屋、カラーからオウヴァーまで。よく解釋すれば生活の簡易化だが、近代兎角に下層大衆は身の廻り品など餘りかけ代へを持ってなくなつてゐる。この傾向は洋の東西に區別のあらう筈もなく、「朝の御出勤に頂いて夕の御歸りまでに用意する」サーヴィスは、洗濯屋に限らず相當廣い各商賣に及ぼされ繁昌至極、而も將來は益々歓迎される大勢に在る。但しこのサーヴィスを探り入れる者は、須らく駆け出しの新聞記者諸公の心掛けが肝腎で晝夜兼行、「夕方頂いて翌朝までに用意」も當然に實行されるのである。

その横丁角に在るのが魚のフライ屋。

季節季節の安價な魚を麥粉で衣がけし脂肪で揚げたてを、腰かけナイフ・フォークで喰べさせる店。

馬鈴薯の小刻みにしたのがやはりフライされ、パンつき一式で十錢か十五錢の割合。この店は英吉利ではごく下級の勤勞者相手と相場がきまつてゐるものであるが、日本のやうに外見の體裁を装ひそして腹一ぱいに安くと云ふ御希望の多いサラリーマン達には、受ける事間違なしの商賣であらう。

魚は安い日本の御手のもの、獸脂のフライで洋食味を出しソースと醬油それからパンを米飯とに通性をつけ、椅子でレストラン氣分をかもし出す。

まあ簡單に云へば日本在來の天ぶら屋を味氣分そつくり一度ドウヴァー海峡を往復させ、均一化したものと思へば大體の想像はつこうと云ふ次第、但しこの商賣は同じ經營で小柄な店を何箇所へも設ける方が適當のやうである。

躍進日本を誇る吾が青年諸君、それ以上に考慮を廻ぐらさず豚フライ屋で立往生してゐてそれでよいのか。「肉ばかり喰べてゐるから年重なる四ツ足共の恨みで外人の眼付きは凄くすわつてゐるだ」と、或る人々は如何にも穿つたやうな事を云つてゐるが、英吉利の家庭料理等は寧ろ日本近代人より肉の用ひ方が尠い事を御承知か。

豚カツをよい加減にやめて魚カツ（但し平目だけは敬遠して置く方よろし）に轉向したら、所謂眼つきの凄くなる恨みを買ふ懸念もなく興隆日本青年まづ以つて目出度いと云ふ事にもならう。横丁へ曲つたので話も脇道へ外れたが次は

十錢二十錢の日用必需品均一店。日常生活の必需品だけを取扱ひ、その一角には特賣奉仕場を備へ

て時期々々の際物必要品を原價販賣したりして、大いに民衆生活と親交を深めてゐる。日用必需品以外絶對に取扱はないから商品の棚ざらしが殆どなく、勢ひ資金の回轉率が頗る高い。

東京などの場末によく見受ける均一店の經營振りが、何れもピントを放れすぎてゐるのは實に遺憾である。日用品マーケットの類ひも、舊態依然たる小賣店を共同墓地へ集めただけの感が深い。某大百貨店なども皮相な洋行視察談張りよろしく、十錢二十錢ストアを點在させてゐるが、その經營状態や取扱種目は「大人のまゝごと」と本場の均一店業者から笑はれても文句はないやうである。歐米均一店の旺盛繁昌振りは、單に正札の均一から來てゐるものではないと云ふ事によく留意せねばならない。因に倫敦の或る均一店の如きは昨年度も二十何割かの利益をあげ、貧亡人相手の商賣として冷笑する頑迷資本家達をあつと云はせてゐる。

英吉利の各地方で「角舗」と云へば麥酒等の酒場に殆どきまつてゐるけれど、この酒場アル中連にはちと都合が悪いが日本のやうに朝から晩まで、のべつ幕なしと云ふ譯にはゆかない。酒場の營業時間、法律で嚴重に定められてゐるのである。

場所によつては多少の差異はあるが、晝食の前後二三時間そして又夕食夜食時の五時すぎから十時頃まで、それ以外の時間には金を別に出して頼みこんでも酒場の開帳は斷じて望まれない。

夜の十時頃下町の酒場風景は實に微笑ましくなるもので、時計の十時を合圖に酒場の親爺嚴然と酒樽のハンドルを止めてしまひ客からコップを集め廻る。飲みきらない者は別につまみ出されるやうな

手數も煩はさず、頗る自然に飲みかけのコップを持つて酒場の外へ出る。感心な事には例へ酔つてゐても、飲み終つたコップは酒場の外側の窓下邊りに必ず置いてゆく。東洋の或る先進國邊りに於いてはそんな場合、空きコップに足が生えて自と飲酒者の自宅へ行つてしまふ。而も英吉利のビール・コップは、部厚なつぶしのきく代物なのである。以上が一般英吉利地方の角舗で。

倫敦邊りで云ふ角舗は酒場でなく、地下室が大衆食堂一階が野菜果物食料品菓子一切口相手のデザート、そして二階が中流上流向きな食堂となつてゐる。この食堂は晝・三時・夜の時間々々に室内的な各種音樂の演奏が行はれる。そして同じ料理でも地下室のより二三割上値と云ふ仕組みになつてゐる。

地下室の大衆食堂では、會社の給仕などがパン一皿を注文してサーヴィスの水を貰ひテーブル備へつけの角砂糖を勿論無料でがりがりかぢり、めしの代りにしてゐるやうな經濟的な客人が多い。二階の音樂食堂の方はテーブル・カヴァーもちゃんとおつて、チツプも置かなければならない。

それだけにゆつくり落ちついて會食が出來、三十分や四十分の限られた時間内に食事をする人以外には至極なごやかな氣分にさせる食堂である。而もホテルの食堂などより遙に經濟的な費用しか要せない。從來日本の百貨店等にある特別食堂の如きは何れも嚴めしいのと冷やかさが勝つて居り、和やかに食事を本當に楽しませると云ふ點に全く缺けて居るやうに思はれるがどんなものであらうか。

六、世界を走り廻る牛

財産の相続税が高率であるから富豪達の自發的相続税……即ち社會寄附が旺盛なのであるとも解釋されるが、何れにしても英吉利の富裕階級は列國のそれらに比較して自發的な寄附行爲が多いやうである。

そして富豪達の率先する社會寄附が多い事が他國に比して英吉利社會は既に過激思想の進出する餘地を尠くしきつてゐるとも云はれてゐる。

その英吉利社會で近來最も光つてゐるのは英空軍擴張民間陣營の大立物ナツフィールド卿で、オックスフォード大學へ二千三百萬圓・社會病院へ百四十萬圓・失明者用トーカー書籍製作費として七十萬圓等々と既に四千萬圓近くの寄附をして來てゐる。

ナツフィールド卿と云へば耳新しいかも知れないが、資産三億近くと推算される彼の日常生活は昔の借間時代と變らぬ質素さで、従つて名前も本來のウキリアム・モリスと呼んだ方が自然らしいやうである。ナツフィールド卿とは即ちかのモリス自動車やウールジイ自動車の主人公の事なのである。

彼は今から丁度六十二年前、オックスフォードの片田舎に産れたが、有名な地元のオックスフォード大學は云ふまでもなく中學校へすらも行けず、小學教育だけを了へ十四歳の時から食の爲めに働き

初めた。

やがて自轉車の修繕屋を數年間營んだけれども、毀れるのを待つと云ふ消極的なこの仕事に早くも見切りをつけて自動自轉車の製作に進出した。實にそれは物質的には勿論精神的にもすべてを賭した試みであつたが、背水の陣は遂ひに彼の前途を拓いたのである。そして一步一步と捲みなく工程を高め自動車の製造を開始するやうになつたのが時もなく歐洲大戰の直前で、今から丁度二十八年前の事であつた。

オックスフォードの牛が群れなす町放れの横路で一人何役かの自轉車修繕業から人生社會に旅立つた彼は、其後半世紀にも満たずして今日では常用一萬七千餘人の勤勞者に職を與へ得るやうになつたのである。

そして「世間の人々へなるべく博く喜びや楽しみを頒ち合ふ事の爲め以外に金の必要はない筈である。」とは、ウキリアム・モリス年來の日常言とされてゐる。

今やモリス自動車は故郷オックスフォードの公紋とされてゐる牛のマークを頭首に輝やかして、恰も彼ナツフィールド卿の強い愛郷心を誇るが如く世界の大道到る處を走り廻つてゐる。

七、在英閑話五題

君子自重の素

「外へ出る前に服装を確めて下さい」……木綿物を着て行つて絹物を着て歸へる不心得をさす錢湯内の事ではない。是は倫敦橋停車場等の共同便所内に掲げられてゐる注意書きである。それを見ると確かとは思ひ乍らもう一度鉛などに手が觸れる。つひとんでもない部分の鈕を開放しさらけて天下の大道を横行すると云ふやうな勇士が稀れになる所以である。

英吉利は歐羅巴の各地方に比較して一番住みよい氣候の國と云ふ條件も備はつてゐるけれど、服装が他國よりは地味であり而も整然としてゐるのは、さういふ徹底した公衆教育に據る處が多いやうである。即ち公德は便所から、とても云ひたい話であらう。

餘言ではあるが眼の玉がぎよつと一つ晝かれ、その直ぐ下に大書曰く「君子自重・請上一步」。これは上海城内の共同便所内に見受ける注意書きである。同じ注意するにしても、やはり倫敦と上海の差異は争はれない。

共通病のまじない

盛んな日本雜貨の輸出にまぎれて入り込んだ譯でもあるまいが、既にリユーマチと云ふ病氣が英吉利でも幅をきかせてゐる。

同じやうな島國であり濕氣の多い國の事として、リユーマチ病は最近の日本渡來ではないかも知れないが、兎に角英吉利に於けるリユーマチ罹病者は相當に多い。その爲めに柄にない色々なおまじないも行はれてゐるやうである。

例へば馬鈴薯の小粒一つを晝夜分たすポケットに入れてゐると卓効ありと稱せられ、このジャガイモ信心は相當な智識階級の人々も富豪達も理窟抜きで實行してゐる。それならば日本人のリユーマチ病みにはどうか、馬鈴薯の代りにさつま芋でも卓効があるかどうか、ポケットならずとも袂でもよいかどうか、それは筆者保證の限りに在らずである。

又硫黄を細粉にした硫黄華を靴の底に入れて置くと、リユーマチにきくと云ふ事も英吉利では廣範圍に互つて傳へられてゐる。

食慾の移り變り

近來歐羅巴一帶各國人とも野菜や果物を多く喰べるようになった傾向が著しく、その反面アルコホ

ル飲料やパン類の食量が次第に減つて來てゐるやうである。

この傾向は英吉利が最も甚だしく、歐洲戰前食糧品の二割七分も占めてゐた麥粉類が近頃では當時に比して僅か三分の一にも足りない八分を示してゐる。野菜が戰前の二倍、バターチーズは約十倍に飛躍し現在では食糧品中の三割八分を占めるやうになつた。

「パンの爲めに働く」……この言葉は元來英吉利には存在しないもので、英人家庭の中流以上は寧ろ野菜果物バターを主食物とし、一般大衆の家庭では馬鈴薯が主食されてゐる實際である。勿論料理店等では値段を取りきれないので無暗と肉類を喰べさせてゐるが、それだけでは些か皮相な觀察を免れない。

西洋人は肉食であるから牛豚親代々の恨みで眼付きが凄くなつてゐる……等とうがつた酷評をする同胞も居るが、現代の日本人達は西洋人以上に毎日々々あらゆる肉物にばかり喰ひ下つては居らないであらうか。

尙英吉利人は卵を、一人當り一ヶ年何箇位ひづ、喰べてゐるか。戰前は百四個で三日目に約一個の割合であつたが、近來は四割も増加して殆ど二日目に一個の割合となつた。勿論地玉子は稀れでデンマーク・和蘭・波蘭・濠洲からの輸入に俟つの有様で流石の食糧當局も居たゝまらず、フアツシヨ嫌ひの英吉利であり乍ら英國鶏に對してばかりは、ムツソリーニ式の産めやふやせやの獎勵策を講じてゐる。

牛肉と紅茶の喰ひ合せ

英吉利家庭の食卓を賑はす牛肉の大部分は南米アルゼンチンからの渡來物であるが、神戸で懸値なしの神戸牛を喰べるやうに真正銘の英吉利牛のビーフ・ステーキは流石に名物と誇るだけあつて美味なものである。

ビーフ・ステーキにヨークシャー・ブッディングの盛り合せは、古來英蘭地方の代表的な料理とされてゐる。

但し牛肉を喰べてすぐにお得意のセイロン茶即ち紅茶を飲む事は、夢にもするなと年寄達は口やかましく云つてゐる。又可弱い小羊に刺戟物は残酷すぎると云ふ譯ではないが、羊肉に芥子も禁物とか、喰ひ合せは日本ばかりでなく何處の國にもある事らしい。

英吉利婦人の脚

吾々は朝起きて夜寝るまでに、大體どれ程歩くものであらうか。

先頃倫敦の或る婦人衛生團體の調査によれば、家庭の主婦は買物の使ひ歩きも加へて一日平均八哩づゝの歩行に相當してゐると云ふ。

男女を通じて長距離歩行の第一人者は何と云つても料理店の給仕男で、一日三十二哩と數へられて

ゐる。家なみが整然としてゐる結果、日本では断然一位でありさうな郵便屋さんが、英吉利では第二位に下り二十二哩の記録を残してゐる。

尙又英吉利の警察組織は派出所や駐在所のやうな交番式でなく常時巡廻式である爲め、勞ひ警察官の歩行も多く一日平均二十哩を超へてゐる。英吉利の警官の多くは身丈六呎とかを越してゐないと採用されないと云ふ規定がある。丁度出羽ヶ嶽を今少し格好よくし洋服著せ消防夫まがひの帽子に短い棒を持たせたのが英國警官の大寫しで、例へのつそりのつそりと歩いたからとて相撲體格で一日八里は甚だ御苦勞な事には相違ない。

看護婦が平均十二哩、女子學生が十一哩餘、コーラスガールは普通女工の三哩に比較して五割増しの四哩半で而もその四哩半には空中飛躍が加算されてゐないから、結局華やかな脚光を浴びるコーラスガールの方が女工よりも二倍以上の勞働者と云ふ事になるらしい。

シヨツプガールは甚だ多からぬ二哩で、マネキンガールはそのおひろめ物にもよるが大體に一日平均一哩半と數へられてゐる。

そしてあらゆる職業地位を通じ英吉利に於ける健康體の人々は男でも女でも、一日平均一萬八千歩を超へ距離に見積つて八哩が一般の標準とされるやうである。即ち家庭の主婦が歩行の水準を保つてゐる譯である。

終りに憎くまれ口を一つ云へば、日本では婦人の脚太を大根に例へてゐるやうであるが、英吉利で

は何に例へるか。あいにく英國にはひよろくしたものばかりで練馬のやうな大根は出来合はさず因果な大根は形容されないで、ビール樽が引き合ひに出されてゐる。あの横にも縦にも轉がりさうな小形のビヤ樽である。處がこの小形ビヤ樽のハイ・ヒール中に多く、ピカデリーの四辻などにはあちらにもこちらにも陸續と轉がり歩く光景が見受けられるのである。(昭和十二年三月・毎日グラフ所載)

八、倫敦の提灯屋達

大倫敦の市民八百五十萬の内、二十人に一人は外國人かそれでも外國の系統をひいてゐると云ふ程に國際的な英京。その倫敦を首都とし前世紀以來恰も各國亡命客のホテルでもあるかのやうに寛容で抱擁的だつた英吉利も、押し寄せる國家主義の横波には抗しきれず、近頃では三ヶ月以上居留する外國人には居留登録の義務を嚴重に課してゐる。

これは一つに軍備擴張の世界風潮につきもの、對外警戒の表はれであり、一つには外國人の英吉利向け出稼ぎによる自國英吉利人の失業誘致を忌避してゐる爲めである。殊にナチスの猶太人壓迫開始以來、猶太系獨逸人の英國亡命は可成りの數に達したと云ふ。

一ヶ月以内の滯英外人數は時により百萬を超へる事もあるが、現今三ヶ月以上の居留民は約二十萬を算し、その過半數は倫敦に在住してゐる。